

科学研究費補助金 基盤研究 (A) 2013 年度研究報告書

「海外における源氏物語を中心とした平安文学及び各国語翻訳に関する総合的調査研究」 課題番号[25244012] 研究代表者 伊藤 鉄也

日本古典文学翻訳事典

〈英語改訂編〉

1

Japanese Classical Literature - A Translation Encyclopedia vol. 1

〈Revised English ed.〉

伊藤鉄也 編

日本古典文学 翻訳事典 1

〈英語改訂編〉

Japanese Classical Literature
A Translation Encyclopedia vol.1

〈Revised English ed.〉



伊藤鉄也 編

本書は、2013年度科研報告書として作成されました。利用は私的目的に限られています。二次使用・転用、公的・商業目的での配布、不特定多数への配布を禁じます。

また、本書で使用している画像の著作権は、国文学研究資料館にあります。これらの画像を使用したい方は「国文学研究資料館 情報サービス第2係」までお問い合わせください。

国文学研究資料館 <http://www.nijl.ac.jp/>
情報サービス第2係 電話：050-5533-2930

(上記問い合わせ先は、2014年3月31日現在のものです)

はじめに

—試行版としての事典であること—

本報告書を作成することになった発端は、私がスペインで「“Spanish Translation of The Tale of Genji”（スペイン語に翻訳された『源氏物語』）」というタイトルで研究発表をする前日のことでした。

2013年10月23日、現地マドリッド時間の朝7時に、国文学研究資料館の科学研究費補助金担当者から「25年度科研費の交付内定について（10/21追加内定）」というメールが届いたのです。4年間で3,200万円の直接経費が認められた、とのことでした。

早速、提出書類である「交付申請書」と「交付請求書」を、マドリッドのホテルで作成しました。そして、同時に26年度分として申請を予定していた基盤研究（B）については、すでに事務に提出していたものが重複するため、その申請は取り下げることになりました。

慌ただしい中での、科研費による研究のスタートです。

年度途中の追加配分であっても、補助金の執行にあたって特別なルールはないとのことでした。4月に交付された場合と同様の扱いで、配分された研究費を運用するのです。そこで、大至急研究体制を整えることになりました。

この科研を支えてもらうプロジェクト研究員には浅川槇子さん、技術補佐員に加々良恵子さんという頼もしい2人の採用を

経て、研究支援態勢を迅速に整えました。そのお陰で、こうして無事に、初年度の成果が事典という形で結実することになりました。

本書は、数年前に発行された『日本文学研究ジャーナル（全4巻）』に掲載された翻訳情報の記事を再確認し、項目を追補してまとめたものです。ただし、『源氏物語』については単独で1冊にするため、本書には収録しませんでした。

『日本文学研究ジャーナル』は、科研費の「基盤研究（A）日本文学の国際的共同研究基盤の構築に関する調査研究」（課題番号：18202007）として、平成21年から24年にかけて実施された研究の成果刊行物です。平成23年度までの3年間は前国文学研究資料館館長の伊井春樹先生（現逸翁美術館館長）が、平成24年度は伊藤が研究代表者となって、当初の研究目的を達成した報告書です。斬新なデザインと充実した内容で好評を博した報告書でした。

今回その成果の中から、第2巻以降3回にわたって掲載された翻訳事典のデータを取り出し、全項目に追補修訂を加え、再編集してまとめ直しました。整理した結果に不統一が見られるのは、可能な限り各項目の執筆者が記述した内容には変更の手を加えない、という方針で臨んだためです。

第4号の「はじめに」で、私は以下のように記しています。

特に、懸案だった「翻訳事典」が、不十分ながらも一つの形になって本報告書に収載できたことは、今後につながる成果だと言えるでしょう。この翻訳事典には、2006年4月23日に

お亡くなりになった、国文学研究資料館名誉教授福田秀一先生から託されていたメモを最大限に活用しました。

本科研では、英語に関する文献だけを対象としていることに留まらず、各項目のまとめ方も含めてまだまだ不備の多いものです。これを補訂し、さらに追加していくことで、よりよい事典に育てていきたいと思えます。(3頁)

また、その「あとがきにかえて」では、次のように記しました。

翻訳事典は、分量的な問題もあって、単独の編著作物とはなりません。これは、今後につながるものとして、さらに項目と情報の拡充に努めたいと思えます。(301頁)

日本古典文学に関する翻訳事典としては、各項目の立項はもとより、内容もいまだ未整理の状態にあります。今回、その見出し項目と表記上の体裁及び、内容に関する記述の統一を試みました。ただし、いろいろな機会に、多くの方々に執筆していただいた原稿の集積であることから、不統一の感は免れません。各所に編者の判断で多くの手を入れました。あくまでも暫定的な処置に留まるものです。

そのことを承知で、この時点で公開することにしたのは、これを叩き台とし、より良い情報の提供とご教示を受ける中で、さらに充実した事典に育てたいとの思いからです。まさに本冊子は、試行錯誤の中でまとめた暫定版として利用に供する事典です。

なお、本冊子作成の最終段階で、本科研の連携研究者である

明治学院大学のマイケル・ワトソン先生より、貴重なアドバイスいただいたことを明記しておきます。

また、盛り込まれた情報は、今回採択された科研のホームページ「海外源氏情報」にも公開しています。

<http://genjiito.org>

このホームページを通して、情報の更新を行います。折々に最新情報を確認していただき、翻訳情報を活用していただければ幸いです。

みなさまからの情報提供により、各項目の精度を高めたいと思います。

今後とも、ご理解とご協力を、よろしく願いいたします。

2014年3月

日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (A)

「海外における源氏物語を中心とした平安文学

及び各国語翻訳に関する総合的調査研究」

研究代表者

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立大学法人 総合研究大学院大学

国文学研究資料館 伊藤鉄也

目次

はじめに	3
------------	---

《上代》

神話・歴史書	15
古事記	15
日本書紀	24
日本靈異記	27
古語拾遺	28
地誌	31
風土記	31
播磨国風土記	33
歌謡	35
催馬楽	35
和歌	38
萬葉集	38

《中古》

物語	57
竹取物語	57
伊勢物語	61
大和物語	66
平中物語	69
字津保物語	71
多武峰少将物語	72
落窪物語	73
浜松中納言物語	76

夜の寢覚	77
今昔物語集	80
今昔物語集・徒然草	89
堤中納言物語	91
とりかへばや物語	97
歴史物語	99
大鏡	99
栄花物語	103
和歌・漢詩・歌謡	106
古今和歌集	106
後撰和歌集	113
拾遺和歌集	114
大斎院選子内親王と発心和歌集	115
金葉和歌集	116
詞花和歌集	117
千載和歌集	118
和漢朗詠集	119
梁塵秘抄	120
伝記・評伝	123
空海	123
菅原道真	124
小野小町	125
小野小町・和泉式部	128
六歌仙	130
和泉式部	131
仏教関係	133
円仁行記	133
三宝絵	134

隨筆 136

枕草子 136

日記 146

土佐日記 146

蜻蛉日記・道綱母集 152

蜻蛉日記 154

和泉式部日記 157

紫式部日記・紫式部集 160

更級日記・紫式部日記・和泉式部日記 162

更級日記 164

讚岐典侍日記 168

《中世》

軍記物語 173

將門記 173

保元物語 174

平治物語・十六夜日記・堤中納言物語・大鏡 175

平家物語 177

義経記 180

曾我物語 183

太平記 184

神皇正統記 186

応仁記 188

物語 191

松浦宮物語 191

西行物語 192

御伽草子集 194

高野物語・幻夢物語・三人法師・七人比丘尼 196

歴史物語・記録	199
愚管抄	199
増鏡	201
説話	203
唐物語	203
宇治拾遺物語	204
十訓抄	206
沙石集	207
日記・紀行	210
宗長手記	210
高倉院敵島御幸記・信生法師日記・都のつと・善光寺紀行	211
随筆	214
方丈記	214
方丈記・平家物語	215
徒然草	216
とはすがたり	218
和歌・歌謡・連歌	220
山家集	220
建礼門院右京大夫集	221
新古今和歌集	222
正治百首	223
近代秀歌	225
金槐和歌集	226
井蛙抄・頓阿法師詠	227
湯山三吟	228
歌論	230
正徹物語	230

ささめごと	231
漢詩	233
狂雲集	233
狂雲集・一休骸骨	234
謡曲	236
能楽論	236
風姿花伝	237
敦盛	238
松風	239
藤戸	240
三井寺	241
天鼓	242
絵馬	243
百合若	243
神道・仏教	245
春日権現験記・柳葉日記	245
法然上人絵伝	246

《近世》

句集・俳句関係	251
奥の細道	251
野ざらし紀行・かしま紀行・笈の小文・ 更科紀行・奥の細道	253
おらが春	254
アンソロジー（芭蕉～子規）	256
連歌～俳句・英語俳句	257
歌集	260
はちすの露	260

随筆・記録	262	
蘭学事始	262	
五輪書	264	
折たく柴の記	265	
小説	266	
好色五人女	266	
雨月物語	267	
春雨物語	271	
滑稽本	273	
東海道中膝栗毛	273	
人形浄瑠璃・歌舞伎	275	
菅原伝授手習鑑	275	
仮名手本忠臣蔵	276	
伝記・評伝	277	
近松門左衛門	277	
良寛	279	
	おわりに	282
	人名索引	284
	翻訳者一覧	310
	事典項目執筆・編集者一覧	318
	研究組織	319

＊表紙 人間文化研究機構・国文学研究資料館所蔵

『源氏物語団扇画帖』「若紫」(江戸前期画)、橋本本『源氏物語』(鎌倉中期写／伝藤原為家筆)

＊前扉 人間文化研究機構・国文学研究資料館所蔵

『源氏物語団扇画帖』「若紫」(江戸前期画)

＊扉 人間文化研究機構・国文学研究資料館所蔵

橋本本『源氏物語』(鎌倉中期写／伝藤原為家筆)

上代

Nara Period



神話・歴史書

■ 古事記

■ タイトル

OLD-WORLD JAPAN :

Legends of the Land of the Gods

翻訳者 Frank Rinder (フランク・リンダー)

出版社 George Allen & Unwin

刊行年 1895年 (再版)

頁数 iv + 195頁

序文・解説の内容と概略

Basil Hall Chamberlain (バジル・ホール・チェンバレン) の『KOJIKI』(1882)や Algernon Bertram Mitford (A. B. ミットフォード)、Lafcadio Hearn (ラフカディオ・ハーン) の『GLIMPSES OF UNFAMILIAR JAPAN』(邦題『日本の面影』、前年刊行)を著したことなど、その他多くの著作を基にしている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

日本の神話といくつかの昔話を、一般向けにリライトしたもの。ハードカバー。本居宣長の「敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」の英訳を内題頁に付す。本文(1～195頁)は全20章のうち、初めの6章が『古事記』の神話。

「The Birth-Time of The Gods (神々の誕生)」

「The Sun-Goddess (太陽女神)」

「The Heavenly Messengers (天からの使者)」

「Prince Ruddy-Plenty (ニニギノミコト)」

「The Palace of The Ocean-Bed (海底の宮殿)」

「Autumn and Spring (秋と春)」

以下は七夕伝説、蓬莱島、鼠の嫁入など。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(福田秀一・唐曉可)

■ タイトル

THE KOJIKI (古事記) : Records of Ancient Matters

翻訳者

Basil Hall Chamberlain (バジル・ホール・チェンバレン)

出版社 The Asiatic Society of Japan

刊行年 1906年 (再販)

初版は1882年。その後、「Transactions of the Asiatic Society of Japan (日本アジア協会の紀要)」の別冊5巻として出版。

1982年版 (Charles E. Tuttle Company、ペーパーバック版)。内容は1906年本とほぼ同じ。表紙は、俵屋宗達『舞楽図』。表紙、裏表紙の見返しに『古事記』についての概略と翻訳者 Chamberlain の紹介を載せる。

頁数 604頁

序文・解説の内容と概略

翻訳者による解説は、「テキストについて」、「翻訳について」、「古代日本の風習について」、「古代日本の政治と宗教について」の4部構成。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『古事記』の英訳。翻訳は1～428頁。付録(29頁)は、翻訳部分の脚注において解説する歌謡の中の語の一覧と、神武天皇から推古天皇までの天皇一覧。

図版、挿絵の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

翻訳者 Chamberlain は、ポーツマス近郊のサウスシー生まれ。『朝鮮・琉球航海記』を著したイギリス軍人バジル・ホルルの孫。1873年に来日。1874年から1882年まで東京の海軍兵学寮(後の海軍兵学校)で英語を教え、1886年東京帝国大学教授となる。アーネスト・サトウや W. G. Aston (W・G・アストン)と並ぶ日本研究家の一人。Lafcadio Hearn (ラフカディオ・ハーン)とも親交があった人物である。

(森田幸)

■ タイトル

THE STORY OF ANCIENT JAPAN OR
TALES FROM THE KOJIKI (英文古事記物語)

翻訳者 Yaichiro Isobe (磯邊彌一郎)

出版社 Sankakusha

刊行年 1928年

頁数 253頁

序文・解説の内容と概略

序文では、『古事記』・『日本書紀』についてや渋川玄耳の略歴について触れる。Basil Hall Chamberlain (バジル・ホルル・チェンバレン)の『古事記』の翻訳を紹介し、当時の日

本に与えた影響について言及する。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

1～241頁。渋川玄耳『日本神典古事記噺』（誠文堂書店、1920）の英訳。ハードカバー。これは、Chamberlainの訳を参照しながらの翻訳にあたる。ただし、Chamberlainのような逐語訳ではなく一般読者を念頭においた意識である。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

『近代文学研究叢書』33巻（昭和女子大学近代文学研究室）

索引の有無

神々の名をローマ字と漢字で並記した索引（243～253頁）。

メモ・その他

これは、当時絶版となっていた Chamberlain の『古事記』の代わりに、主に英語を学ぶ日本の学生を対象として執筆されたもの。西洋人が次々と日本の神話や習俗についての著作を出版する中で、日本のことは日本人自身が海外に紹介していくべきであると述べ、英語の普及に尽力した磯邊の姿勢が窺える。

翻訳者磯邊は、豊後鶴崎町に生まれた。鳴滝塾から慶応義塾に入り英語を学び、川崎義門、岡鹿門に漢学を学ぶ。1886（明治19）年、アメリカの言語学者 Frank Warrington Eastlake（フランク・ウォーリントン・イーストレイキ）とともに「東京独立新聞」を創刊。翻訳と編集助手をつとめ、1888（同21）年には Eastlake と「国民英学会」を設立し、「国民英学会英文集」を創刊。訳注、英訳、和訳等多くの著述をなした。『平家物語』『十訓抄』の抄訳、『葉根譚』（英訳）、『論語』『奥の細道』などの翻訳がある。

■ タイトル KOJI-KI

翻訳者 Shunji Inoue (井上俊治)

出版社 私家版

刊行年 1960年

1957年初版。1966年に至るまで数度、改訂を行っている。これはその第5版。翻訳者自身の手による謄写版印刷にて発行したものである。

1966年(Nihon Shuji Kyoiku Renmei)。第7版の最終版。内容はほぼ同じ。

頁数 215頁

序文・解説の内容と概略

序文(5～11頁)は翻訳者自身による。翻訳者と親交の深かった Paul Richard (ポール・リシャル) が寄せた書簡を掲載。現代の学術的な思考や合理主義を離れて日本古来の享受にのっとった原典理解に基づくことで、より本文に忠実な英訳を目指すものであること、とする。当時の国際社会における日本の状況から、『古事記』の概要を外国人へ示すことは緊急を要することだと感じたのだと述べる。さらに、この翻訳を通じて国際社会における日本及び日本人への正しい理解を促すことが、世界的平和への貢献となるとする。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『古事記』本文を全訳している。『古事記』にならい、「Preface 〈序文〉」(1～8頁)、「Book 1 〈上巻〉」(9～74頁)、「Book 2 〈中巻〉」(75～154頁)、「Book 3 〈下巻〉」(75～215頁)という構成をとる。なお、個々の章段については、それぞれ「The Creation of the Universe」(天地初発)など、英語の表題を付す。神名、地名等の固有名詞は、そのまま

「Amaterasu」(天照)「Takama-no-Hara」(高天原)などローマ字表記とし、新出のものには、そのつど翻訳者による注釈を施すなど外国人読者への便宜をはかっている。歌謡は、本文をローマ字表記にしたあと、筆記体による英訳を続ける。翻訳者自身の序文によると、歌謡については英語詩のようにして語調を整えた翻訳をせず、その真意と大要とを示すに留めたとする。

図版、挿絵の有無

表紙には表題、翻訳者名等を記し、扉には「Sir Yasumaro Oh」(太安万侶)の木像のモノクロ写真を掲載する。

参考文献の有無

真福寺本『古事記』。本居宣長『訂正古訓古事記』(享和3(1803)年)、三國幽眠略解『古訓古事記』(1875)、水野満年『蘇生古事記』、Koji Ogasawara(小笠原考次)『SECRET PRINCIPLE BEHIND THE DIVINE NAMES』などを挙げる。

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者井上は、フランスの神学・哲学博士でもあった Paul Richard 原著の『新しい時代のための新しい神』(大神神社社務所・佐藤通次解説、1968 非売品)や小笠原考次の著作『KOTOTAMA—THE PRINCIPLE OF HUNDRED DEITIES IN THE KOJIKI—』(Daisanbummei-kai 第三文明会、1964)などの翻訳がある。

(毛利誠)

■ タイトル

KOJIKI : Translated with an Introduction and Notes

翻訳者 Donald L. Philippi (ドナルド・L・フィリップイ)

出版社 University of Tokyo Press

刊行年 1989年。1968年初版。これはその第5版。

頁数 655頁

序文・解説の内容と概略

序文、解説、付録、語彙解説は翻訳者自身による。序文は、『古事記』の起源、系統と説話による作品の源、『古事記』と『日本書紀』の比較、上代語や記録方法の紹介を掲載。本文の解説や語釈は本書の下に、各頁ごとに掲載。難解な語句とローマ字掲載の歌謡に関しては、付録で詳細に解釈している。語彙解説(447～644頁)には、場所・人間・神・動物などの名前を載せる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『古事記』の英訳。本文は149章に分ける。Basil Hall Chamberlainの英訳と比較する。本文では固有名詞をローマ字表記し、解説で意味を詳細に説明している。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者 Philippi は 1930 年ロサンゼルス生まれ。幼少から日本語を学び始め南カリフォルニア大学卒業後、1957年にフルブライト奨学金を得て、國學院大学に留学。日本文学翻訳者として知られ、『祝詞』(國學院大学、1959)、『SONGS

OF GODS, SONGS OF HUMANS: The Epic Tradition of The Ainu』(Princeton University Press、1979) など翻訳。出版社 University of Tokyo Press (東京大学出版会) は、1951 年 3 月に日本の国立大学で初の大学出版部として創設。年間刊行点数は約 180 点にもなる。

(バルトシユムルタジンスキ)

■ タイトル The Kojiki : Myths and Legends of Japan

翻訳者 Munehiro Kiyosumi (清住宗廣)

出版社 Mizuyamasangyo, Publishing Division

刊行年 2012 年 2 月

頁数 266 頁

序文・解説の内容と概略

『古事記』が最も古い古典であり、日本の古代の人々の思想・習慣・くらしが書かれたものであることを述べている。また、『古事記』は三つの大きなかたまりに分けることができ、それぞれ、「天地が分かれてから、天津日高日子波限建鵜草葺不合命(あまつひこひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと)まで」、「神武天皇から応神天皇」、「仁徳天皇から推古天皇」であるとしている。

翻訳内容の構成、章立

冒頭に目次がある。最初に「天皇の覚え書き」として、「古代の回顧」、「『古事記』編纂の発端」、「『古事記』の完成」をおき、翻訳本文は 18 章に分かれている。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

次田真幸『古事記』(講談社学術文庫、講談社、1977-

1984)、太田善麿『古事記物語』(現代教養文庫、社会思想社、1971)、倉野憲司『古事記』(岩波文庫、岩波書店、1963 / ※享和三年版『訂正古訓古事記』が底本)

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ タイトル The KOJIKI : Records of Ancient Matters

翻訳者

Basil Hall Chamberlain (バジル・ホール・チェンバレン)

出版社 Tuttle Publishing

刊行年 2012年

頁数 489頁

序文・解説の内容と概略

「テキストについて」、「翻訳について」、「古代日本の風習について」、「古代日本の政治と宗教について」の4部から構成されている。

翻訳内容の構成、章立 『古事記』の英訳。3部に分かれている。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無 日本地図を掲載。

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

付録として、「『古事記』に残っている歌の中でローマ字に翻訳された日本語のテキスト」、「『古事記』と『日本書紀』に記載されている、古代日本の支配者を年代順に配列したこと」、「1883年以降に出版された『古事記』に関する本のリスト」などがついている。

(浅川槇子)

■ 日本書紀

■ タイトル

NIHONGI : Chronicles Of Japan From The Earliest Times To A.D. 697

翻訳者

William George Aston (ウィリアム・ジョージ・アストン)

出版社 George Allen & Unwin

刊行年 1956年

1896年初版。「The Japan Society」から2冊本として刊行。

1924年に合冊してロンドンより再刊。これはその再版本。

Charles E. Tuttle からも 1972～1982の間に第6版まで刊行されている。

頁数 443頁

序文・解説の内容と概略

「新版への序」(4頁)は Terence Barrow (テレンス・バロウ)、序(2頁)は翻訳者自身による。「『日本紀』や『古事記』の概略紹介」(12頁)では、「『日本紀』の執筆」、「歴史『旧事紀』」、「『古事記』」、「『日本紀』の書かれた年代と出処」、「『日本紀』のための史料」、「『日本紀』の特質と意義」、「年代」、「『日本紀』の持つ評価」、「『古事記』と『日本紀』」、「本と出版」、「正字法」という項目をたて、それぞれ解説を述べる。

そのほか、『日本書紀』が書かれた時代的背景として、漢字、医学、仏教などの様々な文化的要素が古代中国より朝鮮半島を経て日本に入ってきた経緯を詳細に説明。『日本書紀』のドイツ語訳を手がけた Karl Florenz (カール・フロレンツ)についても触れる。

翻訳に用いた底本情報 無**翻訳内容の構成、章立**

『日本書紀』の英訳。本文（1～423頁）は、本文と注を忠実に訳し、多くの詳細な注を加える。

- 1 「神代の時代1」、2 「神代の時代2」、3 「神武」、
- 4 「綏靖・安寧・懿徳・孝昭・孝安・孝霊・孝元・開化」、
- 5 「崇神」、6 「垂仁」、7 「景行・成務」、8 「仲哀」、
- 9 「神功皇后」、10 「応神」、11 「仁徳」、12 「履中・反正」、
- 13 「允恭・安康」、14 「雄略」、15 「清寧・顕宗・仁賢」、
- 16 「武烈」の順に掲載。

章立ては、B. H. Chamberlain (B・H・チェンバレン) 『古事記』(1882) に倣う。歌謡は原則として1句を1行に訳している。

図版、挿絵の有無

表紙は、菊の紋。伊耶那岐、伊耶那美の挿絵や図版も掲載。

参考文献の有無

河村秀根著・河村殷根・河村益根考訂『書紀集解』(天明5(1785)年序刊)を参考になっている。

索引の有無

巻末に、神名・人名・地名・事項などを一括した索引(425～443頁)を付す。

メモ・その他

翻訳者 Aston は、1864年に英国大使館付きの通訳として来日し、幕末・維新期に英国外交官として25年にわたり在日した。英国における日本学の基礎を築いた研究者である。彼の研究は現在ケンブリッジ大学や大英図書館に所蔵される9,000点以上の「アストン旧蔵和漢書コレクション」や「日本アジア協会誌」など、多くの日本研究論文でも窺い知るこ

とができる。その影響はヨーロッパに留まらず、与謝野鉄幹を中心とした明治期の短歌革新運動にも大きな役割を果たしている。

(河晶淑)

■ タイトル GODS AND HEROES OF OLD JAPAN

翻訳者 Violet M. Pasteur (ヴァイオレット・M・パスツール)

出版社 Kegan Paul

刊行年 1906年(再版)

頁数 iv + 164頁

序文・解説の内容と概略

B. H. Chamberlain (B・H・チェンバレン) や William George Aston (ウィリアム・ジョージ・アストン) について触れる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『日本の神話』の英訳。ヨーロッパとアメリカにおいて、最初に出版された日本の古典に関する本である。ハードカバー。『古事記』『日本書紀』などを児童に読んで聞かせるためにリライトしたもの。本文(1～164頁)は、神々の誕生までを述べた「プロローグ神々の道」を始め、

「1. The story of the making of the mirror. (天岩屋戸神話)」

「2. The story of the finding of the sword. (八岐の大蛇)」

「3. The story of fire-shine and fire-fade. (海幸山幸神話)」

「4. The story of Yamato-daké the hero. (ヤマトタケル)」

「5. The story of the good emperor. (仁徳天皇)」

「6. The story of the perfect knight. Part I. The story of the perfect knight. Part II. (源義経)」

「7. The story of the loyal samurai. (赤穂浪士)」

以上の7章からなる。

図版、挿絵の有無

挿絵は A. Galton (A・ゴルトン) による。大英博物館所蔵の尾形光琳・葛飾北斎などの浮世絵をモチーフとする。

参考文献の有無

翻訳に関しては、Chamberlain の『KOJIKI』(1882) や Aston の『NIHONGI』(1896) の訳などに拠ると述べる。

索引の有無 無

(福田秀一・唐曉可)

■ 日本靈異記

■ タイトル

Miraculous Stories from the Japanese Buddhist Tradition
The Nihon Ryôiki of the Kyôkai

翻訳者

Kyoko Motomochi Nakamura (キョウコ・モトマチ・ナカムラ)

出版社

Harvard-Yenching Institute Monograph Series, Volume 20, Harvard University Press

刊行年 1973 年

頁数 xii + 322 頁

解説の内容の概略

広範囲に及ぶ解説は、著者とされる僧景戒、成立年の問題、薬師寺や六宗の歴史、などを取り上げる。主に中国の先行文

献の影響を考えるに当たって仏教の日本参入を大きく取り上げる。因果関係、男・女の立場、三宝への信念、など当時の仏教的世界観を論ずる。

翻訳に用いた底本情報

遠藤嘉基・春日和男校注『日本古典文学大系 70 日本靈異記』
(岩波書店、1967)

翻訳内容の構成、章立

段取り、句読は翻訳者の判断でされている。サンスクリット、日本語(漢字)の本文の語彙を脚注に記して、翻訳と見比べられるようにしている。脚注には語彙の説明、歴史的人物や地理の詳細、他出(説話)の文献、などを述べる。付録は年表(靈異記の説話中出来事を含む)、皇帝家系図、称号の翻訳(英語日本語、サンスクリット)、引用されている仏経、平安・鎌倉時代の主な日本文献を述べる。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

日本語(注付本文、現代語訳など含む)、英語、独語、仏語あり。

索引の有無 索引は序文(解説)のみ対象。翻訳の索引はなし。

(サトコナイトウ・伊井春樹)

■ 古語拾遺

■ タイトル

IMBE-NO-HIRONARI'S KOGOSHUI
OR GLEANINGS FROM ANCIENT STORIES

翻訳者

Genchi Kato(加藤玄智)、Hikoshiro Hoshino(星野日子四郎)

出版社 財団法人 明治聖徳記念学会

刊行年 1924年

後に1925年、1926年に改訂版が、さらに1937年に第4版が出版され、その度ごとに関連文献一覧などが増補されている。総扉には出版者として「SANSEIDO(三省堂)」の名が挙がっており、実際に三省堂が印刷にあっている。

1972年版(Curzon Press)。『KOGOSHUI(古語拾遺): Gleanings from ancient stories』Genchi Kato(加藤玄智)とHikoshiro Hoshino(星野日子四郎)による『古語拾遺』の英訳。明治聖徳記念学会版の第3版(1926)の再版本。忠実な再版となっており、初版、第2版、第3版の各序文を収録する(イギリス版についての序文はない)。表紙見返しに『古語拾遺』の簡単な解説を載せ、裏表紙には加藤による神道に関する小論を挙げ、神道を科学的に研究することについて述べる。出版社Curzon Pressは1970年設立。中東及びアジア関係の書物の出版で知られていた。2001年にTailor & Francis Groupに吸収され現在はRoutledge Curzonとなっている。

頁数 109頁

序文・解説の内容と概略

英訳は意識の傾向があるものの、Genchi Katoによると、これは先行の独訳であるKarl Florenz(カール・フローレンツ)訳『KOGO-SHUI ODER GESAMMELTE RESTE ALTER GESCHICHTEN』(1919)が直訳であるのに対するという。西洋の読者にとって2書が互いに相互補完するものであるとしている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『古語拾遺』の英訳としては最初のもの。全体は5部構成になっており、第1部は『古語拾遺』の解説。第2部は、本文全訳。文中には注番号が施され、第3部にその詳細な説明をまとめる。第4部の書誌においては、I部として『古語拾遺』の写本、版本の一覧、II部として古注釈を含む注釈書及び研究書・研究論文の一覧を収め、第5部は索引とする。

図版、挿絵の有無

第1部には、天理図書館所蔵の嘉祿本、尊経閣文庫所蔵の亮順本、無弍本、熙允本の影印をそれぞれ4枚ずつ載せる。

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

翻訳者加藤は当時、東京帝国大学助教授、星野は法政大学教授。宗教学者である加藤による『古語拾遺』の研究・注釈書等は、上記のもの以外にも見られ、岩波文庫版『古語拾遺』も、その手によるものである。なお、明治聖徳記念学会は加藤らを中心に日本文化の講究と国際普及を目的として1912年（大正元年）に発足。加藤、星野は同じ1924年に明治聖徳記念学会より『嘉祿本古語拾遺吉田子爵家藏』を出版している。

(七田麻美子)

地誌

■ 風土記

■ タイトル IZUMO FUDOKI

翻訳者 Michiko Yamaguchi Aoki (ミチコ・ヤマグチ・アオキ)

出版社 Sophia University

刊行年 1971 年

頁数 173 頁

序文・解説の内容と概略

序文（5～6 頁）は、神道・大化の改新などについて述べる。

翻訳に用いた底本情報

加藤義成『校本 出雲国風土記』（報光社、1968）

翻訳内容の構成、章立

『出雲国風土記』の研究および英訳。本文（3～145 頁）は2部構成で、第1部（3～73 頁）では、「大和朝廷の発展と古代出雲の国との関係」「出雲風土記」「出雲神話から見た政治の展開」、それぞれ、頁下に脚注を付す。第2部（75～145 頁）が『出雲国風土記』の全文翻訳、巻末に注・参考文献を付す。

図版、挿絵の有無

表紙は Fukashiro, Voyager's Press によるデザイン。挿絵には神門川・斐伊川上流などを掲載。

参考文献の有無 巻末にあり。

索引の有無 有

メモ・その他

見返しの次頁にある「Monumenta Nipponica」は、上智大学の「英文日本研究誌」の名称。翻訳者 Yamaguchi Aoki は、日本生まれ。コロンビア大学アジア言語文化部で博士号を取得（1970）。ロジャー・ウィリアムズ大学で、アジアの歴史を教える。1990年より、クラーク大学にて日本語、日本文学、日本文化について教鞭をとる。出版社 Sophia University（上智大学出版）は、この他、『ENGISHIKI（延喜式）』（1970）、『HOGEN MONOGATARI（保元物語）』（1971）などを出版。

（狩集広之・七田麻美子・菅原郁子）

■ タイトル

RECORDS OF WIND AND EARTH : a translation of Fudoki, with introduction and commentaries

翻訳者 Michiko Yamaguchi Aoki（ミチコ・ヤマグチ・アオキ）

出版社 Association for Asian Studies

刊行年 1997年

頁数 347頁

序文・解説の内容と概略

解説には、『風土記』成立の背景、研究史、伝本について述べる。訳文に関しては、度量衡はヤードポンド法に変換しているなど英語圏の読者への便を図っている。難解な語には先行研究を踏まえた詳細な注を付す。注を各頁下段に収めるため、本文より注にスペースを割いている場合もある。

翻訳に用いた底本情報

秋本吉郎校注『日本古典文学大系2 風土記』（岩波書店、1958）。ただし、本文については国ごとの諸本についても考慮している。

翻訳内容の構成、章立

前掲書の研究を経て、5つの『風土記』全てを訳出したもの。構成は序文・解説に続き、「出雲・常陸・播磨・豊後・肥前」の5つの『風土記』の翻訳。逸文は訳されておらず、本文に続き巻末に語彙解説、参考関連文献一覧を載せる。

図版、挿絵の有無 各国ごとに8世紀当時の地図を載せる。

索引の有無 有

参考文献の有無

栗田寛・後藤蔵四郎補註『標註 古風土記』（大岡山書店、1930）などの国別の注釈や先行研究を参照している。

メモ・その他

「Monograph and Occasional Paper Series 53」。出版社 Association for Asian Studies (AAS) は1941年にアジア学関連書の専門出版社として設立され、現在は出版に留まらずアジア学関連の会合、研究会などを主催し、広くアジア全般の研究に資する活動を行っている。

(七田麻美子)

■ 播磨国風土記

■ **タイトル** The Harima Fudoki

翻訳者 Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 1991年

頁数 84頁

序文・解説の内容と概略

『風土記』が元明天皇の詔により、各国の国庁が編纂して

書かれたことが述べられている。また『播磨国風土記』は、律令国に「好い字を用いて郡・郷の名を記す、土地の肥沃さ、山・川・原・野などの地名の由来、伝承されている旧聞・異事など」を記したという編纂のいきさつが書かれている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

冒頭に目次がついている。地域ごとに本文が英訳され、その下に詳細な注がついている。

図版、挿絵の有無

地図あり。「郡」や「村」などの言葉について、簡単な辞典がついている。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槇子)

歌謡

■ 催馬楽

■ タイトル

SAIBARA :

Japanese Court Songs of The Heian Period

翻訳者 Elizabeth J. Markham (エリザベス・J・マーカム)

出版社 Cambridge University Press

刊行年 1983 年

頁数 1 巻 (411 頁)、2 巻 (388 頁)

序文・解説の内容と概略

第1巻の注釈・序文(4頁)では、『催馬楽』「高砂」のローマ字表記や日本語の五十音とカタカナ対応表を載せて解説。

翻訳に用いた底本情報 天治本『催馬楽抄』

翻訳内容の構成、章立

『催馬楽』の英訳・研究書。注釈・序文のあと、6章に分け、『催馬楽』に関する説を述べる。章立ては以下の通り。

1 「典拠・本文」(1～30頁)と題し、底本である天治本『催馬楽抄』と鍋島家本とを比較する。

2 「写本」(31～96頁)と題し、『三五要録』『仁智要録』「復元された音の一部分」について述べる。

3 『催馬楽』の代表的な「伊勢の海」の詳細な研究(97～186頁)。

4 「唐楽・高麗楽のレパートリーの楽曲との関係性」(187～216頁)。

5 「曲と曲の型」(217～251頁)

6 「現代のレパートリーの6つの催馬楽の変形」(255～258頁)。

そのあとに、『催馬楽』の本文の代表的な部分を抜粋して掲載している。

1. 律「更衣」「伊勢海」(259～333頁)。299頁には楽譜を掲載し、楽譜にはローマ字表記を載せる。

2. 呂「席田」「現代の変形」「安名尊」「山城」「美濃山」(334～395頁)。「回顧・追想」(396～398頁)。参考図書目録(399～404頁)。雅楽団と個人の名前のリスト(405～409頁)。音節の性質のリスト(410～411頁)。

第2巻は、第1巻の付録。

「55の催馬楽の保護」(3～294頁)、

「12世紀の6つの催馬楽の比較」(295～316頁)、

「唐楽の変形」(317～338頁)、

「催馬楽・呂・美作の変形-横笛」(339～344頁)、

「律の変形」(345～350頁)、

「20の催馬楽の変形の比較」(351～388頁)。

図版、挿絵の有無

竹の背景に、1巻の表紙は『三五要録』「伊勢の海」、2巻の表紙は『仁智要録』「伊勢の海」を掲載。挿絵には楽琵琶・楽箏などを載せ、楽器の詳細な形態の数値を書き込む。

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

翻訳者 J. Markham は、アーカンソー大学音楽学部の教員で、世界各国の民族音楽を研究している。日本では、特に宮廷音楽に興味を持ち、奈良の春日大社の雅楽団の一員とな

り、現地調査を行っている。この他に René Sieffert (ルネ・シフェール) 『Chants de palefreniers (Saibara)』 (P.O.F、1976) の仏訳、Hiroaki Sato (佐藤紘彰) 『nine songs tr. in Sato and Watson』 (1981) の英訳がある。

(菅原郁子)

和歌

■ 萬葉集

■ タイトル

THREE HUNDRED POEMS FROM THE MANYOSHU : Poetical Collection of Early Japan

翻訳者 Tetsuzo Okada (岡田哲藏)

出版社 Seikanso

刊行年 1935年

頁数 英訳 104頁 (本文 29頁)

序文・解説の内容と概略

解説は翻訳者自身によるもので「外国の習慣に慣れず日本の古典にも精通していない自分が先祖の心を海外に紹介したい」との意志が記される。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。左開きで日本語の訓み下しを、左開きで英訳を載せる形態になっている。本文は、『萬葉集』から翻訳者がピックアップした305首を日本語の訓み下しと英訳で収録する。ただし、前述の通り右開きに本文(1～29頁)、左開きに英訳(1～104頁)をそれぞれまとめて掲載し、対訳の形式ではない。本文・英訳共に題詞は省略し、英訳のみ独自の短いタイトルを付す。例えば、巻一の1番歌には「With a Basket」。英訳の行数は不統一。『国歌大観』(教文社、1903)の歌番号を振る。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無

中間に日本語・英語併記の詠者索引（98～104頁）。

（山田紘一郎）

■ タイトル THE MANYOSHU : One Thousand Poems

翻訳者 The Nippon Gakujutsu Shinkokai（日本学術振興会）

出版社 Iwanami Shoten

刊行年 1940年

1965年版（Columbia University Press）。再版にあたり、新たに Donald Keene（ドナルド・キーン）によるはしがき（Foreword）を冒頭に追加。内容はほぼ同じ。「UNESCO Collection of Representative Works」の「Japanese Series」である。再版では旧国名地図を「Introduction」に掲載。「Introduction」と「Notes」の順序が入れ替わっている。

1969年版（Columbia University Press）。ペーパーバック版。「Text in Rōmaji」は削除し、それに伴い、冒頭の Donald Keene によるはしがきも若干書き換えられている。それ以外の内容は同じ。

頁数 502頁

序文・解説の内容と概略

冒頭、Seiichi Taki（滝精一）によるまえがき（2頁）を置く。続く凡例（2頁）では、抄録数や配列の決まりを述べる。次の序説（68頁）は3部構成。「Part I」では『萬葉集』の概説として成立年代や編纂、短歌や長歌など歌の形式、修辭法、全20巻それぞれについての説明がある。「Part II」は『萬葉集』の時代の政治的・社会的背景、思想と信仰、風俗・慣習、

自然観、歌と作者について述べる。「Part III」は、後世の『萬葉集』研究と翻訳に関してを述べる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

The Nippon Gakujutsu Shinkokai (日本学術振興会) による『萬葉集』の英訳。本文は、歌の英訳(1～314頁)とローマ字表記(315～453頁)。全4,516首から1,000首を取り上げる。配列は「Pre-Omi and Omi periods」(近江朝以前と近江朝)「Asuka and Fujiwara period」(飛鳥朝と藤原朝)「Nara period」(奈良朝)「Period unknown」(成立年未詳)に分け、それぞれの中で作者ごとにまとめている。歌番号は、この配列に従った独自の番号と『国歌大観』の番号の双方を記す。注は脚注形式。巻末付録として詠者の略歴、『国歌大観』の歌番号との対照表、索引、旧国名地図を収める。

図版、挿絵の有無

外箱のデザインには永青文庫蔵「厚板花色地花鳥模様子方部分」を用いる。

参考文献の有無 有

索引の有無 有

(山田紘一郎)

■ タイトル

SELECTION OF JAPANESE POEMS TAKEN FROM THE MANYŌSHŪ

翻訳者 J. L. Pierson (J・L・ピアソン)

出版社 E. J. Brill

刊行年 1966年

頁数 46頁

序文・解説の内容と概略

序文（15～17頁）は翻訳者自身による。『萬葉集』の成立年代、巻数、歌数、歌の形式について概説を述べる。また、できるだけ本文に忠実に翻訳するという翻訳の基本方針を述べる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。本文は、『萬葉集』の中から247首を抄録。目次では、歌番号と翻訳者自身が付した歌のタイトルとともに頁数を掲載する。歌番号は自著『THE MANYÔSÛ』全18冊（E. J. Brill、1929）に振られた番号に基づく。本文では、歌番号、歌の英訳の後、括弧中に注釈を付す。注釈は作者や歌の背景について載せる。歌によっては題詞の英訳を付した歌もある。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他翻訳者

著者 J. L. Pierson は、1893 年生まれ。著書には『KEY TO CLASSICAL JAPANESE: a list of inflected and uninflected suffixes and particles of the 7th and 8th century』（E. J. Brill、1956）、『THE MAKURA-KOTOBA OF THE MANYOSU』（E. J. Brill、1964）などがある。また、Pierson 夫人による『HET VERHAAL VON PRINS GENJI』（1930）と題した『源氏物語』のオランダ語訳がある。

（新井通郎）

■タイトル

MANYOSHU: A new and complete translation

翻訳者 Heihachirô Honda (本多平八郎)

出版社 The Hokuseido Press

刊行年 1967年

頁数 345頁

序文・解説の内容と概略

序文、解釈、語彙解釈は翻訳者自身による。序文は各巻の構成や内容について説明する。解説では歌の翻訳方法について述べる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。全歌収録。巻20によって構成。T. Wakameda (若目田武次) 『EARLY JAPANESE POETS』(有朋堂書店、1929) による『古今和歌集』の英訳と比較すると韻律が異なることを述べる。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者本多は1893年生まれ。そのほかに手がけた翻訳書として、『ONE HUNDRED POEMS FROM ONE HUNDRED POETS : being a translation of the Ogura Hyaku-nin-isshiu (Hokuseido Press, 1957)、『THE POETRY OF WAKAYAMA BOKUSUI』(Hokuseido Press, 1958)、『STRAY LEAVES FROM THE MANYOSHU : two hundred poems from Manyoshu, books I-VII』(Hokuseido Press, 1965) などがある。

(バルトシュムルタジンスキ・菅原郁子)

■ タイトル

TEN THOUSAND LEAVES :

Love poems from the Manyoshu

翻訳者 Harold Wright (ハロルド・ライト)

出版社 Shambhala Publications, Inc.

刊行年 1979年

1986年にOverlook Pr. (アメリカ) からハードカバー版、
1988年に同社からペーパーバック版が出版されているが、
これとの関連は不明。

頁数 94頁

序文・解説の内容と概略

序文(7～11頁)は翻訳者自身による。『萬葉集』の書名の意味や歌人達の作品背景などを挙げる。特に相聞歌に注目し、防人の歌や大伴家持をめぐる女性たちの歌を本文から引用し解説する。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。本文(15～84頁)は、136首を翻訳。余白を大きくとり、作者・題詞の記載はなし。5行書きで1首を、上3行と下2行に分ける。歌番号は本書独自のもの。2～3頁につき1作、全30作の海外所蔵の日本書画・工芸品の画像が入る。注(86～92頁)では136首各々について、「Kokka Taikan」(『国歌大観』)の歌番号を付記し、作者や歌の背景を載せる。

図版、挿絵の有無

表紙はThe Art Institute of Chicago (シカゴ美術館) 所蔵の「Doves and Rhododendrons」(部分)。Credit(93～94頁)には、表紙及び本文中に掲載された画像の所蔵一覧

がある。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

裏表紙には、本文から引用された25番歌の英訳歌と内容紹介を記載。翻訳者 Wright は長年日本に滞在し、日本の歴史文化や詩歌の研究・翻訳を行っている。2005年には、Antioch College の外国文明及び言語（日本語）の客員教授、AEA の日本実地調査監督をつとめている。出版社 Shambhala Publications は、1969年創設。仏教をはじめとした東洋思想や哲学に関する本の出版・翻訳を行っている。

（白本清香）

■ タイトル

MAN'YOSHU : A Translation of Japan's Premier Anthology of Classical Poetry

翻訳者 Ian Hideo Levy（リービ・英雄）

出版社 Princeton University Press

刊行年 1981年

頁数 409頁

序文・解説の内容と概略

序文（3～34頁）は翻訳者自身による。本書では、巻一を「book one」と表記する。また、巻三の山上憶良の和歌（337・341番歌）、大伴旅人、柿本人麻呂、大伴家持、『古今和歌集』（905年）の成立、『後拾遺和歌集』（1087年）、賀茂真淵などについて論じている。中西進とプリンストン大学 Earl Miner（アール・マイナー）への謝辞。次巻（巻6～巻10）を刊行したい旨を述べる。

そのほかに、奈良・飛鳥の旅行の際にお世話になった奈良の日吉館の女主人田村きよへの謝辞。旅行中、鹿の鳴き声だけが響く東大寺の様子、その体感の中で『萬葉集』を読むと、日本の「歌」あるいは「詩」というものの独特の訴え（嘆き）や魅力がわかると述べる。

翻訳に用いた底本情報

沢瀉久孝『萬葉集 注釋』（中央公論社、1957-1968）、中西進『萬葉集』（講談社、1978）、『全訳注原文付 萬葉集』全四巻・別巻一卷（講談社、1978-1985）。

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。本文は巻1～5だけを取める（35～405頁）。1～906番歌まですべて掲載し、作者索引（407～409頁）を付す。長歌以外の短歌は5行書き。

図版、挿絵の有無

表紙は石川忠行による「大和の山々」と題する写真。挿絵には山辺の道の鳥居などを掲載。

参考文献の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

「UNESCO Collection of Representative Works Japanese Series」の1冊。第1回日米友好基金翻訳賞受賞作品。翻訳者Levyはアメリカ生まれ。1967年にはじめて日本に移り住み、以降、日米往還を繰り返しつつ、プリンストン大学卒業。プリンストン大学・スタンフォード大学で日本文学の教授をつとめ、刊行当時は法政大学教授。1982年『萬葉集』の英訳により全米図書館を受賞。

このほかに、『万葉恋歌 LOVE SONGS FROM THE MAN'YOSHU』（講談社インターナショナル、2000）の英訳

がある。処女作『星条旗の聞こえない部屋』(講談社、1992)は、第14回野間文芸新人賞受賞。『日本語の勝利』(1992)『アイデンティティーズ』(1997)、『国民のうた』(講談社、1998)、『新宿の万葉集』(朝日新聞社、1996)、『英語で読む万葉集』(岩波新書、2004)などがある。出版社 Princeton University Press は、『古今和歌集』『紫式部日記』『大鏡』など日本の古典文学を多数出版している。

(新井通郎・菅原郁子)

■ タイトル

THE MAN'YO-SHU (萬葉集) : A Complete English Translation in 5-7 Rhythm

翻訳者 Teruo Suga (須賀照雄)

出版社 中教出版

刊行年 1991年

頁数 巻1-503頁、巻2-537頁、巻3-427頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者自身による。『萬葉集』の英訳を決意したきっかけは、既刊の英訳本への不満からである。特に不満としたのは、歴史的背景を伝える語句や枕詞などの省略、歌の調子を見殺しにした翻訳などだとする。それゆえ翻訳者は、外国人読者に難解だと思われる部分には注記を施しつつ、なおかつオリジナルの持つ豊かな表現を損なうことのない英訳を目指したと述べる。特に歌に関しては、副題にあるとおり、いかに五七調を活かすかを課題とし、使用する語数をできる限り本歌に近づけたという。その一例として、巻1の48番歌「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ」(柿本人麻呂)の英訳をここに挙げておく。

*In the eastern field I can see the hazy mist Rising and flowing,
And turning back, I see The moon sinking in the west.*

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。本文は全歌収録。『萬葉集』全20巻を3冊に分け、「part 1」は、巻1～巻7、「part 2」は、巻8～巻14、「part 3」は、巻15～巻20を収める。5行書き。各巻ごとに、「Man'yo Mandala」と称する解説を冒頭に置き、歴史的背景、事象、作者などを取り上げる。巻末には作者名や動植物名の索引と、地図、系図などを置く。

図版、挿絵の有無

巻ごとに挿入されている英訳入りの墨絵と草書体の仮名は、前者は翻訳者自身によるもの。後者は堀桂琴をはじめとする書道家の作である。本書挿入の英訳入りの墨絵（翻訳者画も含む）、草書体の仮名のみを抜き出して再編集した姉妹本に『絵と書でみる万葉集英訳三十八首選』（中教出版、1996）がある。

参考文献の有無

『国歌大観』（角川書店、1951）、高木市之助、五味智英、大野晋校注『日本古典文学大系4～7 万葉集1～4』（岩波書店、1957-1962）、『THE MANYOSHU: A NEW AND COMPLETE TRANSLATION』（Heihachiro、1967）などを挙げる。

索引の有無 有

メモ・その他

帙入り全3冊。翻訳者須賀は栃木県生まれ。東京外国語学校英語科を卒業し、本書執筆時は神田外語大学教授。翻訳書に『全英訳石川木短歌集』（中教出版、1995）、John

Langdon-Davies (ジョン・ラングドン=デイヴィス)『女の歴史:この未知なるものの研究』(論争社、1961)などがある。

(毛利誠)

■ タイトル

WRITTEN ON WATER :

Five Hundred Poems from the Man'yoshu

翻訳者 Takashi Kojima (小島嶽)

出版社 Charles E. Tuttle Company

刊行年 1995年

頁数 183頁

序文・解説の内容と概略

謝辞(7頁)、翻訳についての覚書(9～10頁)、解説(11～15頁)。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。内容は、第1部(17～99頁)、第2部(101～166頁)、第3部(167～183頁)に分ける。解説では、短歌、長歌、旋頭歌の三つの和歌形式の紹介、4期の時代区分について、社会背景、言語と翻訳について項目を立てて述べる。

第1部は名前のわかる歌人の歌229首を天皇や皇族、柿本人麻呂、山上憶良などの著名な歌人10人と、それ以外の歌人とにわけて収録。第2部は作者未詳歌231首を西国、東国と分けて収録。第3部は遣新羅使歌や防人歌など40首を収める。各章、各節のはじめに概略を載せる。また作者のわかる歌には略歴を載せる(題詞や左注などは特に訳していない)。

短歌は5行書きで文字のフォントを変える。歌の左上に通し番号をふり、右下に『国歌大観』（角川書店、1951）の番号を括弧に入れて付す。また、花などをかたどったマークを数種用いて脚注をふるなど工夫が見られる。

図版、挿絵の有無

イラストはMidori Toda（ミドリ・トダ）。表紙カバーは題名をイメージ化し、青色で川の流れをかたどる。裏表紙には4423、4424番歌（181頁）を掲載。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

帯に日本語で「万葉集英訳秀歌500選」とある。題名「WRITTEN ON WATER」は、巻11の2433番歌「水のうへに数かくごとき我が命妹にあはむとうけひつるかも」の英訳より引用（54頁）。翻訳者小島は、同出版社から芥川龍之介の短編集の英訳も出している（『RASHOMON, AND OTHER STORIES』（Charles E. Tuttle、1954）『JAPANESE SHORT STORIES』（Tuttle、1962））。

（大野祐子）

■ タイトル

万葉恋歌 LOVE SONGS FROM THE MAN'YOSHU

翻訳者 Ian Hideo Levy（リービ・英雄）

出版社 Kodansha International

刊行年 2000年

頁数 167頁

序文・解説の内容と概略

翻訳者自身の「万葉集は新しい」（6～9頁）という序文

の後、宮田雅之「万葉逍遥」(10～15頁)、Donald Keene (ドナルド・キーン)「宮田さんの切り絵」(16～21頁)、大岡信「解説序文」(22～23頁)と続く。すべて、日本語と英語の対訳。作者は、『萬葉集』のプライベートな心情をうったえた表現を、宮田雅之の切り絵と大岡信の解説によって、多次元的に伝達でき、「世界文学」としての『萬葉集』の新しさが本書の中にあると述べている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』35首の英訳と、それらの歌に対する大岡信による解説の英訳。『万葉恋歌—宮田雅之の切り絵画集』(中央公論社、1989)の翻訳本といえる。Ian Hideo Levyは『TEN THOUSAND LEAVES: A TRANSLATION OF THE MAN'YOSHU, JAPAN'S PREMIER ANTHOLOGY OF CLASSICAL POETRY』(Princeton University Press、1981)において、『萬葉集』の英訳を出版しているが、その時の英訳とは異なっている。

本文(26～165頁)は、『萬葉集』から相聞歌を35首選び、収める。1頁目に日本語の訓み下し文とローマ字表記、英訳、2頁目に、宮田雅之作の切り絵を載せ、3頁目に大岡信による日本語の解説と、4頁目に解説の英訳という構成を1首ごととしている。35首の内訳は、作者未詳歌11首、大伴家持5首、柿本朝臣人麻呂歌集3首、額田王、大伴坂上郎女2首、園臣生羽娘子、門部王、常陸娘子、大伴旅人、聖武天皇、山部宿禰赤人、藤原朝臣広嗣、紀女郎、山上憶良、他田広津娘子、狭野弟上娘子、久米朝臣広縄1首。

図版、挿絵の有無

表紙は手枕で寝ている女性の切り絵。宮田雅之作。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(新井通郎)

■ タイトル

MAN'YO LUSTER 万葉集：

A translation with photographic images of
the premier anthology of Japanese poetry

翻訳者 Ian Hideo Levy (リービ・英雄)

出版社 P・I・E Books

刊行年 2002 年

頁数 387 頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者自身による。『萬葉集』に出会った時の、1300 年前の最古の言葉に感じた新鮮な感動を述べる。

翻訳に用いた底本情報

収録歌の読み下し文および現代語訳は、中西進『全訳注 原文付萬葉集』全4巻・別巻1巻（講談社、1978-1983・1985）を底本とする。

翻訳内容の構成、章立

『萬葉集』の英訳。本文（18～379頁）は抄録。87首掲載。見開き左側に英訳、右側に日本語を掲載。英訳は白抜き文字を用い、デザインも現代的。頁ごとに歌番号を付す。巻数は省略。長歌は一部抜粋して掲載。

図版、挿絵の有無

カバーデザインは高岡一弥による。京都生まれ。アートディレクター。『千年』（毎日新聞社）など著書多数。日本グラフィックデザイン展金賞。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

書名は「万葉の艶」。「Luster (光沢・光彩)」という言葉は、おそらく、本書の序文にある翻訳者の「万葉の艶は、英語にも出る。英語に出たとき、万葉集は人類の古代から受けつがれている最大の抒情詩集、というもう一つの像を結ぶ。万葉集は新しい。」によるものであろう。兵庫県に生まれ、1954年龍谷大学文学部仏教史学科卒業。フリー写真家。1991年、龍谷大学より龍谷賞を授与。主な著書は、『東大寺』（中央公論社、1989）、『奈良・大和路』（京都書院、1988）ほか多数ある。写真撮影は井上博道による。

(菅原郁子)

■ タイトル Manyoshu 365

翻訳者 Stean Anthony (スターン・アンソニー)

出版社 山口書店

刊行年 2010年、2011年

頁数 424頁

序文・解説の内容と概略

『万葉集』が日本の詩歌の中で最も古い詞華集であるとして、その成立や「万葉仮名」について述べている。この本は、NHKで放映された番組のテキストを元としている。365首のうち240首は、藤原茂樹・坂本信幸監修の『NHK日めくり万葉集』から、125首は吉野正美『万葉集の植物』（偕成社、1988）からとっている。

翻訳内容の構成、章立

365首を、その和歌に関連する日付順に並べて翻訳してい

る。「First Day」（1月1日）の場合は「初春の／初子の今日の／玉箒／手に取るからに／揺らく玉の緒」の和歌である。その和歌の下に巻と和歌の番号が載せてあり、翻訳者が和歌に登場する語についての説明をしている。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

藤原茂樹・坂本信幸 監修『NHK 日めくり万葉集』1～12(講談社、2008・2009)、灰谷寛司『万葉集百選』(ウェブサイト)、小島憲之・木下正俊・佐竹昭広校注訳『日本古典文学全集4 万葉集』(小学館、1975)、Levy Ian Hideo『Man'yōshū : A Translation of Japan's Premier Anthology of Classical Poetry』Vol. 1. (Princeton University Press 1981)、中西進『万葉集全訳』(講談社、1978-1983)、中西進『万葉集事典』(講談社、1985)、『NHK 日めくり万葉集 DVD』20(NHK エンタープライズ、2009)

索引の有無 有。

(浅川槇子)

中古

Heian Period



物語

■ 竹取物語

■ タイトル The Tale of the Shining Princess

翻訳者

Donald Keene (ドナルド・キーン) 訳、Sally Fisher (サリー・フィッシャー) 翻案

出版社

Metropolitan Museum of Art and A Studio Book, Viking Press

刊行年 1980 年

頁数 71 頁

序文・解説の内容の概略

メトロポリタン美術館の『絵入竹取物語』の復元本である。翻訳はドナルド・キーンの訳を略したもの。主役は全面カラーの復元絵である。キーンの物語解説と Andrew Pekarik (アンドリュー・ペカリック) の絵の解釈付き。キーンの短編解説には想定される物語の成立時や『源氏物語』との関係、そして数字の「三」の重要性や「鳥に成る女性」というような日本文学に多いとされるテーマの考察を含む。ペカリックの解説は、雲や吹抜屋根を使った日本美術の特性的な表現法や、直接は描かれない帝の事などを紹介する。原本の『絵入竹取物語』は徳川家の一人に依頼されたとする。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無

絵はニューヨークのメトロポリタン美術館の18世紀末『絵入竹取物語』から。1頁の絵が13枚、2頁にわたる絵が5枚。全カラー。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(サトコナイトウ・伊井春樹)

■ タイトル

THE OLD BAMBOO-HEWER'S STORY

(TAKETORI NO OKINA NO MONO-GATARI)

—The Earliest of the Japanese Romances, Written
in the Tenth Century

翻訳者 F. Victor Dickins (F・ヴィクター・ディケンズ)

出版社 Trubner & Co. (London)

刊行年 1888年

1934年に、San Kaku Sha (三角社) から刊行された。45 + 49頁。扉の記載は上の通り。ただし、前後の表紙には書名を『The Old Bamboo-Hewer's Story OR THE TALE OF TAKETORI』とし、その下に縦書で「英訳 (注、この2字は角書) 竹取物語」とある。内容は、1888年版の訳文と解説をそのまま縮写して前半(左開け)とし、岩波文庫旧版(島津久基校訂)を拡大した日本語の原文を右開けで印刷。その間に奥付・広告および「読書子に寄す」と題する小文(野村敏)を入れたもの。

頁数 118頁

序文・解説の内容の概略

解説(9頁)は、中国伝来の仙境思想に重点を置いてい

る。当初、The Journal of Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland vol.19 (London) ,1887 に発表されたものか (少なくとも前半は)。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無 折込図版3葉 (彩色絵巻)

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

訳文・解説の後に原文をほぼ当時 (19世紀) の読みでローマ字化したもの (底本は未詳) と、「日本語文法素描」「本文の分析」(注、ローマ字本文のいくつかの語句の説明)、および「語彙」を付す。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ タイトル

PRINCESS SPLENDOR

—The Wood-cutter's Daughter, 2nd edition

翻訳者 E. Rothesay Miller (エドワード・ローゼイ・ミラー)

出版社 T. Hasegawa (長谷川武次郎)

刊行年 1895年

頁数 四六判袋綴大和綴、47丁

序文・解説の内容の概略 無

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

全編を「1. Princess Splendor」から「9. The Heavenly Feather Dress」までの9章に分ける。最後のFuji-no-Yamaにのみ、その漢字表記のいろいろについて脚注を施す。

図版、挿絵の有無 見開きまたは片面の彩色画を豊富に挿入。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

扉の上方に Japanese Fairy Tale Series, Extra No. とあり、チリメン本の一つ。奥付には「日本昔噺 竹取物語」の下に明治 22 年（1889）長谷川商店発行とあり、これが初版の年時か。

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ タイトル

THE TALE OF THE BAMBOO CUTTER —Taketori Monogatari—

翻訳者 Donald Keene（ドナルド・キーン）

出版社 講談社インターナショナル株式会社

刊行年 1998 年

頁数 177 頁

序文・解説の内容の概略

キーンの「序文 Preface」によれば、35 年前の訳（前掲書『The Tale of the Shining Princess』を指す）では断念した洒落も「大変苦勞して訳した」とある。求婚者への難題について前訳の解説で述べたトゥーランドット姫や『ベニスの商人』についての言及を再説している。

翻訳に用いた底本情報

川端康成『竹取物語現代語訳』（新潮社、1998）

翻訳内容の構成、章立

『竹取物語』の現代語訳（川端康成）と英訳（ドナルド・キーン）とを、左右の頁に対訳にしたもの。

図版、挿絵の有無

宮田雅之の切り絵（彩色）15葉を途中に挿入。

参考文献の有無 無**索引の有無 無****メモ・その他**

表紙カバー（アート紙）には「Kawabata Yasunari 川端康成 [現代語訳] / Donald Keene ドナルド・キーン [英訳] / Miyata Masayuki 宮田雅之 [切り絵]」、扉には「訳川端康成 / 英訳ドナルド・キーン / 剪画宮田雅之」とある。末尾『竹採物語 [田中大秀旧蔵本]』の本文を横組で付すが、その説明はない。

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ 伊勢物語

■ タイトル The Tales of Ise

翻訳者 H. Jay Harries (H・ジェイ・ハリーズ)

出版社 Charles E. Tuttle Company

刊行年 1972年

頁数 247頁

序文・解説の内容の概略

Kenneth Yasuda (ケネス・ヤスダ) の序文と翻訳者の序文付き。全125段が翻訳されている。序文では一般読者向けとするが、研究者も用いられる注釈付き。ヤスダは序文で平安文化の中で『伊勢物語』を最も重要と主張する。翻訳者の序文も各段を「人間の真実、そしてアリストテレスの精神（エトス）を表現する」と高く評価して、『伊勢物語』

を『竹取物語』と共に「物語の親」と位置づける。在原業平の事、韻文と散文の文学的關係、平安京、翻訳の難しさ、など様々な問題にも触れる。本翻訳は一般読者向けとするが、注釈には専門の研究者も参考にできる情報なども含む。文法などの件には触れず、それに関しては以前発表された Fritz Vos (フリッツ・ボス) 訳の『伊勢物語』(A Study of Ise-Monogatari with the text according to the Den-Teika-Hippon and annotated translation, Mouton & Co., 1957) を参照するよう呼びかける。付録には平安京と内裏の図、皇帝と藤原の系図を簡潔に提示する。

翻訳に用いた底本情報

鈴木知太郎編『伊勢物語 校註』(武蔵野書院、1948) に用いられる三条西家所蔵天福本系古抄本の複製。

翻訳内容の構成、章立

125 段すべて翻訳。段冒頭にローマ数字を使用するため、多少見分けが困難となる。

図版、挿絵の有無

黒白の挿絵 16 枚、インディアナ大学美術図書館保管の 1608 年『伊勢物語』から。

参考文献の有無

日本語、英語あり。12 本の文献しか選択されていないが、各論文の詳細が記されている。したがって、今となつては少し古い(1972 年発表)ものの、『伊勢物語』の基本的先行研究として重要な参考となるかと思われる。以前発表された 2 本の翻訳の批評もされている。フリッツ・ボスの翻訳は、研究としては尊敬すべきだが専門家向けとし、本翻訳とは受容者が異なるとする。

索引の有無 無

■ タイトル

A STUDY OF THE ISE-MONOGATARI WITH THE
TEXT ACCORDING TO THE DEN-TEIKA-HIPPON
AND AN ANNOTATED TRANSLATION (in two volumes)

翻訳者 Frits Vos (フリッツ・ボス)

出版社 Mouton & Co., The Hague

刊行年 1957年

頁数 271頁

序文・解説の内容の概略

和文の「はしがき」に言う通り、池田亀鑑・大津有一・福井貞助らの研究に負うところが大きい。しかし、成立年代、題号の由来、後代日本文学への影響、日本古代文学における韓国文学の影響(注、例えば高句麗の「黄鳥歌」)などについて、「いさゝか意見を提出した」と自負している。『伊勢物語』の詳しい研究と英訳。第1冊は研究と翻訳、第2冊は注・索引等である。第1冊の解説(Introduction、研究と言ってもよい)は、「I 伊勢物語の形成と成立時期」、「II 内容・構成およびスタイル」、「III 作者と題号」、「IV 諸本」、「V 伊勢物語研究史概観」、「VI 伊勢物語における中国・韓国・仏教の影響」、「VII 伊勢物語の日本文学への影響」の7章から成る。

翻訳に用いた底本情報 学習院大学蔵本

翻訳内容の構成、章立

訳文は、「三条西家所蔵(注、学習院大学現蔵)の伝定家筆本をローマ字にて英訳の反対側(注、左側)の頁に掲げ」ている。しかし、原文に極力忠実であろうとして、意味や文脈の必要から補った語句は角括弧で囲むなど、流暢な英語とは言えないのは、学術的な態度からやむを得ないであろう。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

第2冊は、解説及び訳文の注（非常に詳しい）、訳文の注の索引（日本語の語彙）、和歌初句索引、各段の和歌の他文献所見を示す索引、歌集（万葉～新続古今）ごとに本作に見える歌の索引、解説に引用した文献の一覧、訳文の注に引用した文献の一覧、解説に関する一般事項索引、を集めたもので、大変な労作となっている。

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ タイトル

TALES OF ISE

—Lyrical Episodes from Tenth-Century Japan—

翻訳者

Helen Craig McCullough（ヘレン・クレイグ・マッカラ）

出版社 University of Tokyo Press

刊行年 1968年

頁数 277頁

序文・解説の内容の概略

「まえがき Preface」によれば、散文の部分は流麗な現代英語に、句ごとに改行したローマ字書きと対比させた（必ずしも行ごとにではない）和歌は時にやや古風な表現をも交えて、訳している。『伊勢物語』の英訳に詳しい研究を付したものの。初めに63頁にわたる解説（Introduction）を置き、「9・10世紀の日本の宮廷詩」「シナと日本の詩歌の伝統」『伊勢物語』の3章を立てて、文学史的背景と本作の特質とを説く。例えば『伊勢物語』の題名の由来に至るまで、古来の諸説を博搜

している。

翻訳に用いた底本情報

『日本文学大系 竹取物語・伊勢物語・大和物語』。同本は天福2年藤原定家書写本の系統に立つ三条西家本(全125段)を底本とした上、126段以下を為氏(大島)本その他で補っているので、それらをも訳したとある。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

「付録」として、「A 六歌仙の古今集入集歌(そのローマ字書きと英訳、詞書も)」「B『伊勢物語』の諸本」の2章を置き、その後に全体にわたる詳しい注を付す。サイデンステッカーの書評がMN XVII - 4 (1972)にある。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ タイトル The Ise stories : Ise monogatari

翻訳者

Joshua S. Mostow (ジョシュワ・S・モストウ)、Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)

出版社 University of Hawai'i Press

刊行年 2010年

頁数 x + 269頁

序文・解説の内容と概略

英語に翻訳された『伊勢物語』の本について紹介し、1960年代の『伊勢物語』の研究状況について述べている。また、物語における重要な一文である「昔、男ありけり」の翻訳を重く捉えている。「*Back then there was this man*」とい

う一文に、翻訳者の翻訳における姿勢が、まとめられていたからであると述べる。

翻訳に用いた底本情報 底本に嵯峨本を用いる。

図版、挿絵の有無 挿絵、登場人物紹介と系図が載っている。

参考文献の有無 無

索引の有無 有

(浅川槇子)

■ 大和物語

■ タイトル

Tales of YAMATO : A Tenth-Century Poem-Tale

翻訳者 Mildred M. Tahara (ミルドレッド・M・タハラ)

出版社 The University Press of Hawaii

刊行年 1980年

頁数 xvi + 318頁

序文・解説の内容の概略

ドナルド・キーンの前文あり。翻訳者の前文、本文訳の他、「初期平安文学」に関する論文を付録とする。他作品や集成に見られる和歌の索引も。キーンの前文は「歌物語」と「小説」(ノーベル Novel) の区別をする。翻訳者の前文は簡潔に歴史的環境を解説し、中でも平安京と中国との関係、藤原家の地位、仮名文学の発達などに重点を置く。より詳細な研究は付録とする「初期平安文学」の論文で述べる。そこでは様々な和歌の種類、特に歌合わせや屏風歌などに見える和歌、勅撰集に選ばれる歌、「歌物語」というジャンルの事などを思考する。歌物語のなかでも『大和物語』を『伊勢物語』や『平

中物語』と比較し、最終的にはこれらの物語より後ほど発達する説話物語に近い分野のものであるとする。その傾向を示すため『今昔物語集』などとも比較する。最後に二条本、六条本の系統を見る。

翻訳に用いた底本情報

尊経閣旧蔵本を用いる、阿部俊子・今井源衛校注『日本古典文学大系 竹取物語・伊勢物語・大和物語』（岩波書店、1957）。武田祐吉・水野駒雄『大和物語 詳解』（湯川弘文社、1936）も参考。

翻訳内容の構成、章立

和歌は翻訳とローマ字訳を含む。翻訳は歌以上に散文の方がより優れているように思われる。注釈には『国歌大観』などに集成されている和歌を記し、歴史的人物も記している。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 日本語、英語あり。

索引の有無

『国歌大観』、『続国歌大観』、『大和物語』にも見られる和歌の索引。本文中の和歌の索引と総合索引もあり。

(サトコナイトウ・伊井春樹)

■ タイトル

A TRANSLATION AND STUDY OF YAMATO MONOGATARI

翻訳者

Mildred Machiko Tahara (ミルドレッド・マチコ・タハラ)

出版社 University Microfilms

刊行年 1970年

1980年に The University Press of Hawaii より、『TALES

『OF YAMATO — A Tenth-Century Poem-Tale』の書名で改訂版として刊行。

頁数 480 頁

序文・解説の内容の概略

『大和物語』の英文研究と翻訳。1969年にコロンビア大学に提出した学位論文。内容は大きく2部からなり、「第1部 平安初期文学と『大和物語』」は「序説 Introduction」と「第1章 平安初期文学」とで平安初期文学を概説した後、「第2章『大和物語』の研究」でその題号・作者・成立年時・諸本から後代への影響（谷崎潤一郎・深沢七郎など）に至る各方面を考察する。

翻訳に用いた底本情報

底本に尊経閣旧蔵本を用いる。阿部俊子・今井源衛校注『日本古典文学大系 竹取物語・伊勢物語・大和物語』（岩波書店、1957）を基にしている。二条家本を底本とした武田祐吉『大和物語 詳解』（湯川弘文社、1936）の詳しい注解も参照。

翻訳内容の構成、章立

第2部は全文の英訳。和歌は音節数にとらわれずなるべく正確に5行とし、本文上問題になる箇所などは脚注で説く。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

「付録」として「A 二条家本第15段」（古典大系本と南波浩校注の為氏本および武田・水野の定家本の翻刻本文を対比して示す）、「B 亭子院の主な廷臣」（人物各説）、「C 第1部の〔語彙の〕漢字一覧」を添える。

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ 平中物語

■ タイトル TALES OF HEICHU

翻訳者

Susan Dowing Videen (スーザン・ドウイング・バイディーン)

出版社 Harvard University Press

刊行年 1989年

1979年に「HEICHU MONOGATARI AND THE HEICHU LEGEND」と題する英訳と平中伝説の研究を、スタンフォード大学に学位論文として提出した(553頁)。本書は、それを大幅に改訂した刊行書である。Harvard East Asian Monographの第137冊。

頁数 ix + 235頁

序文・解説の内容の概略

「序」によれば、遠藤嘉基(日本古典文学大系)・萩谷朴(全講)・目加田さくを(新講)・清水好子(日本古典文学全集)・山岸徳平(朝日古典全書)の諸注により、萩谷氏には種々助言を受けたとある。内容は大きく、「第1部『平中物語』と平中説話の紹介」と「第2部『平中物語』の翻訳」からなり、第1部は「第1章『平中物語』：作品と文学性(伝本・作者・成立・和歌およびジャンルの問題など)」、「第2章 タイラノサダフンすなわち平中：歴史像と『平中物語』における造形」、「第3章 初期の平中伝説：生前および死後百年間のイメージ(『古今集』から『源氏物語』・『赤染衛門集』まで)」、「第4章 後期の平中伝説平安後期から20世紀まで(今昔から谷崎に至る)」を、それぞれ細かく節を分けて考察する。第2部

の後に「注」と「人物一覧」、「参考文献」をあげる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

各段を Chapter と訳し、和歌は通し番号をつけて左に英訳、右にローマ字書き原文と、1句毎に対比している。地の文は平易で、歯切れのよい現代英語である。冒頭の「解説 Introduction」（7頁）で、平貞文とその『今昔物語集』から谷崎に至る説話にもふれながら、平安前期文学の史的環境を一瞥した後、7章を立てて本作を種々の面から考察する。

第1章「平貞文」でその伝記を略述。

第2章「文学史における『平中物語』」では、本作の物語、特に歌物語の展開の中に占める位置を考察する。

第3章「『平中物語』」は、作中の主要なエピソードを紹介しつつ、平中の人物像を分析した後、全文の英訳を示す。

(以下の5章は、平中説話の展開を追ったもの)

第4章「優雅な恋人：平安中期の平中」は「『古今集』」「『伊勢集』」「『大和物語』」「『後撰集』」「『源氏物語』」と『赤染衛門集』の5節に分け、貞文あるいは平中の所見をあげて関係部分の訳をも載せる。

第5章「悪戯者で道化：平安後期・鎌倉時代の平中」では『今昔物語集』『古本説話集』『宇治拾遺物語』『十訓抄』『世継物語』『源氏諸注』（注、『奥入』『紫明抄』『河海抄』『和秘抄』）の所見を述べる。

第6章「江戸の粹男（ダンディー）」では『月刈藻集』『しみのすみか物語』『大東閨語』について触れる。

第7章「二十世紀に健やかに生きる平中」では芥川龍之介の『好色』と谷崎潤一郎の『少将滋幹の母』について、同様に解説・抄訳を展開する。

最後に「結語」で、平中のような弱者・敗者が人気を得る日本文学の一特性を、I・モリスの「The Nobility of Failure」(邦訳『光輝ある敗北』)の所説や『源氏物語』の薫、西鶴・近松の心中物の主人公、『春色梅児誉美』の丹次郎、「浮雲」の文蔵などを例にして論ずる。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

「付録」として「A 平中物語の作者」「B 平中物語の成立年時」「C 大和物語諸本における平中」を立て、ごく短く解説。漢字を手書きで補う。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ 宇津保物語

■ タイトル The Tale of the Cavern

翻訳者 Ziro Uraki (浦城次郎)

出版社 Shinozaki Shorin

刊行年 1984年

頁数 ix + 103頁

序文・解説の内容の概略

短編序文、脚注付きの翻訳。登場人物目録あり。序文は仮名の発達などを含めて初期日本文学の歴史を簡潔に振り返る。「長編小説の最古」「『源氏物語』の親」などと、『宇津保物語』を特権地位に置く。琴を中心にする音楽の重要性を重視しながら、物語のあらすじも簡単に説明。脚注の注釈は一

般の読者が解読できるよう心がけている。仏教の因果関係、太陰暦、引用された和歌などの説明を含む。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

全 20 巻が訳されている。登場人物目録は物語の解読を支援。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(サトコナイトウ・伊井春樹)

■ 多武峰少将物語

■ タイトル

TONOMINE SHOSHO MONOGATARI

—A Translation and Critical Study

翻訳者 Lynne Kimiko Miyake (リンネ・キミコ・ミヤケ)

出版社 University Microfilms International

刊行年 1985 年

頁数 173 頁

序文・解説の内容の概略

1985 年にカリフォルニア大学バークレイに提出した学位論文である。後半の「分析」は、「第 1 章 序説」(歴史的背景、高光の伝記、作者と年代、本文の流传その他)「第 2 章 語りの姿勢」(漢文の伝統、本作と仮名文の伝統、本作と書簡体、語りの態)「第 3 章 『多武峰少将物語』の世界」(山、水のイメージ、「あはれ」と都、の三つを取り上げる)と、日記文学とのジャンルの問題にもふれた「あとがき」(5 頁)とからなる。

翻訳に用いた底本情報

小久保崇明『多武峰少将物語本文及び総索引』（笠間書院、1972、底本は酒井家旧蔵本）

翻訳内容の構成、章立

訳文の前半と「分析研究」と題する後半とから成る。前半の英訳は、原文に無い語をしばしば括弧に入れて補うなど、努めて正確であろうとしたもの。和歌はローマ字書きの原文と訳（句の順にはこだわらない）との各5行を対比して示す。人物や有識故実の事項あるいは文脈上問題になる箇所などをかなり詳しく脚注で説いた他、構想・修辞などは訳文の後に補注で説く。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 無

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ 落窪物語

■ タイトル

OCHIKUBO MONOGATARI or The Tale of the Lady Ochikubo — A Tenth Century Japanese Novel
翻訳者

Wilfrid Whitehouse（ウィルフリッド・ホワイトハウス）

出版社 J. L. Thompson & Co.（神戸）

刊行年 1934年

同名の改訂版がThe Hokuseido Press（北星堂書店）から1965年に刊行されている（iv + 287頁）。扉の注記に国内

販売専用とある。ユネスコの日本文学翻訳シリーズに入れられたと、その裏にある。恐らく誤植などを訂したものであろう。

Wilfrid Whitehouse と Eizo Yanagisawa (柳沢英蔵) の両名は、後に『とはずがたり』の英訳も出している。書名を『Ochikubo Monogatari / THE TALE OF THE LADY OCHIKUBO / A tenth-century Japanese novel』(表紙と背は The Tale of the Lady Ochikubo とのみ) とした、同版と見られる Arena Book 版 (Arrow Books Ltd., London, 1985) が国会図書館にある (KG56-1)。その扉裏によれば、最初の英国版は 1970 年に Peter Owen Ltd から出たようである。また、Anchor Books として、1971 年に新書判(271 頁) が、前記北星堂版をそのまま新書判にして刊行されている。

頁数 iv + 243 頁

序文・解説の内容の概略

短い「緒言 Foreword」(1 頁) で本作の文学史的意義を略述し、本文をやや古風な英語に訳す。同僚 Eizo Yanagisawa の協力によってなつたと、冒頭に記す。訳者ホワイトハウスはケンブリッジ出身で、刊行当時は松本高校の教官(大正 13 ~ 昭和 14 年在任)。柳沢は当時長野県立松本中学校(現、松本高校)教諭で、その後同県立短大を経て本州大学(現、長野大学)教授。

翻訳に用いた底本情報

中村秋香『落窪物語大成』(成蹊学園出版部、1901)

翻訳内容の構成、章立

各巻の途中にも適宜 1 行空けて大段落を示している。官職名や hakama、saku などはローマ字で示して必要に応じ引歌とともに脚注で説明示す方式。和歌は 5-7-5-7-7 の音節

数を保った5行に訳している。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

「付録」のIは、i. 題名、ii. 作者、iii. 成立年時、iv. 落窪物語と平安文学、についてそれぞれ短く説く。IIは「十世紀の日本の官制」と題して、(1) 二官、(2) 八省、(3) 六衛府、(4) 地方官を、これも簡単に説明する。本書の訳者・協力者兩名については、小沢正夫の「西洋人の落窪物語研究」(『中京国文学』第10号、1990)に解説がある。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ タイトル

**Ochikubo Monogatari : or the tale of the Lady
Ochikubo : a tenth century Japanese novel**

翻訳者

Wilfrid Whitehouse (ウィルフリッド・ホワイトハウス)、
Eizo Yanagisawa (柳沢英蔵)

出版社 Routledge

刊行年 2011年

1934年の再版。1965年、2006年にも出版されている。

頁数 vii + 245頁

序文・解説の内容と概略

『源氏物語』の30年以上前に書かれた物語であり、この作品を小説として扱っている。

翻訳に用いた底本情報

中村秋香『落窪物語大成』(成蹊学園出版部、1901)

翻訳内容の構成、章立

4章からなり、原文に忠実に訳されている。

図版、挿絵の有無 有

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 浜松中納言物語

■ タイトル

A Tale of Eleventh-Century Japan :
Hamamatsu Chûnagon Monogatari

翻訳者 Thomas H. Rohlich (トーマス・H・ローリック)

出版社 Princeton University Press

刊行年 1983年

頁数 xi + 247頁

序文・解説の内容の概略

広範囲にわたる「序文」では本文の歴史、著者の問題、『源氏物語』と『無名草子』を比較した上での成立時期の問題、「夢」のモチーフ、紛失した「第一巻」の概要、など様々な問題を課題にする。紛失した巻を含め、本文の享受史を、『無名草子』や『拾遺百番歌合』、源氏物語注釈(『河海抄』、『弄花抄』など)から論ずる。

菅原孝標女を著者とは断言できないとする一方、『更級日記』との類似を指摘する。『無名草子』の『浜松』批評を分析したうえで『源氏物語』とも比較し、それらから当時の物語思考を追跡。夢のテーマにも焦点を置き、物語内の夢と関

わる全 11 箇所を慎重に分析。これらを使い物語全体の筋も述べる。最後に登場人物の目録と、紛失した「第一巻」の大意がある。物語解読のため有用な序文である。

翻訳に用いた底本情報

松尾聡校注 日本古典文学大系『篁物語・平中物語・浜松中納言物語』（岩波書店、1964）

翻訳内容の構成、章立

詳細な脚注は文化的歴史的解説（政治階級、方角に関する迷信など）や、引用されている漢詩などを説明する。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 日本語、英語あり。

索引の有無 有

（サトコナイトウ・伊井春樹）

■ 夜の寝覚

■ タイトル

DEVELOPMENTS IN LATE HEIAN PROSE FICTION:
THE TALE OF NEZAME

翻訳者 Kenneth Leo Richard（ケネス・レオ・リチャード）

出版社 Xerox Universtiy Microfilms

刊行年 1973 年

頁数 491 頁

序文・解説の内容と概略

1973 年にワシントン大学に提出した学位論文。「平安後期物語の様相：過渡期文学の幻想」と題する「解説 Introduction」は、この時期の物語を「浅薄」と評すること

に異を唱えてその価値を称揚した後、『浜松中納言物語』『寝覚物語』の二つの物語を比較。前者は問題の解決を外に求めるのに対して、後者は自己の中に求め、物語の中に空想的な世界を作るに至る、と説く。

翻訳に用いた底本情報

阪倉篤義校注『日本古典文学大系 78 夜の寝覚』（岩波書店、1964）を参照している。

翻訳内容の構成、章立

『寝覚物語』の英訳と研究。BOOK I から BOOK V までがあり、現存する『夜の寝覚』の全体を翻訳している。「語彙」（主な中古語の略解）をおく。

図版、挿絵の有無

古い享受状況の考察に『寝覚物語絵巻』を取り上げ、5つの場面を採って示すが、ほとんど判別できない。

参考文献の有無 和文・欧文一括を付す。

索引の有無 末尾に和歌索引（出現順にローマ字書き）あり。

（福田秀一・神田久義）

■ タイトル

THE TALE OF NEZAME :

Part Three of Yowa no Nezame Monogatari

翻訳者 Carol Hochstedler（キャロル・ホクステッドラー）

出版社 Cornell University

刊行年 1979 年

頁数 269 頁

序文・解説の内容と概略

「解説 Introduction」で、この物語の特質、作者、時代、諸本、引用等について簡潔に述べ、第一、二部の梗概をやや詳しく

記す。次いで第三、四部についても現存本または佚文によって同様に説く。

翻訳に用いた底本情報 底本は不明。

翻訳内容の構成、章立

『寢覚物語』第三部（巻3～5）の抄訳。底本（具体的には明示していない）の巻次にこだわらず20の段落に分けて平易な英語とし、和歌は長短不同の3～4行としている。人名、殿舎名や修辞技巧などについては末尾にやや詳しい注を記し、その後に「資料抄出」を添える。そこには「本文」として戦前の藤田・増淵および橋本校注書、阪倉の日本古典文学大系本、関根・小松の『全釋』、金子武雄の古典文庫本や鈴木弘道の『絵巻詞書注釈』その他、そして平安文学関係の英文研究・翻訳書多数が挙げられている。冒頭目次裏には略系図を記す。

図版、挿絵の有無 有

参考文献の有無

藤田徳太郎・増淵恒吉『校註夜半の寢覚』（中興館、1933）、橋本佳『校本夜半の寢覚』（大岡山書店、1933）、阪倉篤義校注『日本古典文学大系 夜の寢覚』（岩波書店、1964）、関根慶子・小松登美『寢覚物語全釋』（學燈社、1960）、関根慶子・小松登美『増訂 寢覚物語全釋』（學燈社、1972）を参照。翻訳に用いた主たるテキストは必ずしも明確ではない。ほか、円地文子による現代語訳『国民の文学5 王朝名作集1 夜半の寢覚』（河出書房新社、1964）や金子武雄校『夜寢覚物語異本5巻』（古典文庫、1954-1955）を参照。

索引の有無 無

メモ・その他

『Cornell University East Asia Papers』のNo.22。また、

執筆中に出版された注釈書として、鈴木一雄校注『日本古典文学全集 夜の寝覚』（小学館、1974）を紹介。

（福田秀一・神田久義）

■今昔物語集

■ タイトル

The Konjaku Tales :
from a medieval Japanese collection

翻訳者 Yoshiko Kurata Dykstra (ダイクストラ・好子)

頁数

第1、第2の両冊は天竺部。第1冊には巻1～2までを収め全256頁。第2冊は巻3～5までを収めて全50頁。第3冊は震旦部（巻6～10）で全324頁。

第4～6冊は本朝部。第4冊は巻11～16まで全491頁。第5冊は巻17～巻25までで全464頁。第6冊は巻26～31までで、408頁である。なお、第6巻のみ索引のノンブルが別立てになっているので総計とした。

序文・解説の内容と概略

『今昔物語集』の全英訳である。序文によれば、第一巻天竺編には preface が付き、またその序文にはインドのアヴァダーナ（譬喩譚）と日本文学の関係、『今昔物語集』概観、及び天竺部の概観が示される。震旦部以降は、該当巻の解説として序文が配される。同書は、関西外国語大学国際文化研究所刊行物であり、『国際文化研究所モノグラフシリーズ』のNo. 17、18、23、25、27、28にそれぞれ相当する。

翻訳に用いた底本情報

翻訳の依拠本文は、『日本古典文学大系今昔物語集 1～5』
(岩波書店、山田孝雄他校注、1959.3-1963.3) である。

翻訳内容の構成、章立

The Konjaku Tales Indian Section (Tenjiku-Hen) Part 1
英訳今昔物語集天竺編 (一) Dykstra, Y. K. tr. 1986/9

The Konjaku Tales Indian Section (Tenjiku-Hen) Part 2
英訳今昔物語集天竺編 (二) Dykstra, Y. K. tr. 1987/6

The Konjaku Tales: Chinese Section (英訳『今昔物語震旦
編』) Dykstra, Y. K. tr. 1994/12

The Konjaku Tales: Japanese Section (英訳『今昔物語集
本朝編 (一)』) Dykstra, Y. K. Tr. 1999/03

The Konjaku Tales: Japanese Section (英訳『今昔物語集
本朝編 (二)』) Dykstra, Y. K. Tr. 2001/11

The Konjaku Tales: Japanese Section (英訳『今昔物語集
本朝編 (三)』) Dykstra, Y. K. Tr. 2004/03

各冊、序文 (Introduction)、脚注、付録資料、が付されて
いる。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

なお、本朝編 (二) と (三) には、井沢長秀『校訂今昔物
語』より挿絵と本文の一部が影印されている。ただし、その
引用は、稲垣泰一編『新典社善本叢書 考訂今昔物語』(新典社、
1990) 全2冊によるものである。

(荒木浩)

■ タイトル

AGES AGO (今昔) : Thirty-seven Tales from the Konjaku Monogatari Collection

翻訳者

Stanley Wilson Jones(スタンレー・ウィルソン・ジョーンズ)

出版社 Harvard University Press

刊行年 1959年

頁数 175頁

序文・解説の内容と概略

表紙そでに『今昔物語集』についての簡単な紹介文。翻訳者自身による解説(11頁)これが『今昔物語集』の初めての西欧言語への翻訳であると述べる。“Gesta Romanorum”(ローマ人伝説集)に匹敵し、11世紀日本の作品として『源氏物語』や『枕草子』にも並ぶとともに、言語史的に、『カントベリー物語』にも通ずるものがあり、もっとも生き生きしてユーモアをも含む作品である、と称揚する。

「今昔」の題号の意味と本作の特質、本作に言及した英文の文学史や選集などにふれ、構成を概説して本書の採録方針を述べる。それは、インドの動物説話や仏教以前の説話など種々の話材・話型にヘブライ・イソップ・グリムなどの西洋の説話との対比や流入をも考えてのことであるとともに、語りの技法の巧拙をも基準としたという。

さらに、『今昔物語集』と前後する説話作品『日本霊異記』、『三宝絵詞』、『日本往生極楽記』、『大日本法華験記』、『宇治大納言物語』、『宇治拾遺物語』の名を挙げて『今昔物語集』の位置を明らかにする。次に伝承編者源隆国の略伝と諸本に及び、坂井衡一・芳賀矢一の業績を顕彰している。

翻訳に用いた底本情報

芳賀矢一纂訂『攷證今昔物語集上中下』（富山房、1913-1921）

翻訳内容の構成、章立

『今昔物語集』の抄訳と研究本文（3～107頁）。『今昔物語集』より37話分を抜粋している。

収録話及び収録順は以下の通り。

天竺部：巻1-20話、巻3-14話、巻4-9話・40話、巻5-13話・14話・20話・24話・25話・32話

震旦部：巻6-2話・3話、巻9-2話・11話、巻10-7話・9話・13話・21話

本朝部：巻23-19話・23話、巻24-4話・5話・8話・20話・26話、巻25-4話、巻26-2話・7話、巻27-5話・21話、巻28話-34話、巻29-32話、巻31-9話・27話

巻末に背景（111～144頁）、出典及び関連テキスト（145～15頁）、参考文献リスト（156～163頁）を付す。

図版、挿絵の有無

装丁は Marcia R. Lembrecht。表紙画は葛飾北斎 [1760-1849]、『北斎漫画（8巻）』から絵の一部を使用。

索引の有無 有

参考文献の有無 有

メモ・その他 翻訳者 Jones の専門は比較文学。

（福田秀一・可児洋介）

■ タイトル

TALES OF TIMES NOW PAST : Sixty-Two Stories from a Medieval Japanese Collection

翻訳者 Marian Ury (マリアン・ユリー)

出版社 University of California Press

刊行年 1979年

1993年、「Michigan Classics in Japanese Studies No.9」
としてペーパーバック版で再版。

頁数 xi + 199頁

序文・解説の内容と概略

献辞、目次（5頁）、謝辞で、Douglas E. Mills（ダグラス・E・ミルズ）、川口久雄その他に世話になったことを述べる。続く「解説 Introduction」（23頁）で、本作の成立と時代背景、編者、構成（巻ごとに内容を1～2行に要約）、内容・特質（ここでも *Legenda Aurea* や *Gesta Romanorum* を引き合いに出す）、出典、思想（天台系）等について要領よく概説する。翻訳に当たっては、専門家の役にも立つであろうが、第一に一般の物語愛好者を念頭に置いたと言う。自然な英語にすることを第一の目標としたわけではないが、「限り无シ」のような繰り返しがあまり煩瑣な場合には省いた、とも言っている。「主要参考文献」を「本文」と「欧文の翻訳・研究」とに分けて挙げる。

翻訳に用いた底本情報

『日本古典文学大系 22～26 今昔物語集』（岩波書店、1959-1963）。

翻訳内容の構成、章立

『今昔物語集』の抄出英訳。本文（27～199頁）は、天竺・震旦・本朝仏法・同世俗の各部に中扉を置いてそれぞれの内

容を短く（1頁弱）解説し、62話収録。

巻1：1・8・11・18話、巻2：1・21話、巻3：14・28話、
 巻4：9・24・34・41話、巻5：2・13話、巻6：34・35話、
 巻7：18話、巻9：4・44・45話、
 巻10：1・8・12・13話、巻11：3・4話、巻12：28話、
 巻13：10・39話、巻14：3・5話、巻15：28話、
 巻16：17・20・32話、巻17：1・2・44話、
 巻19：8・24話、巻20：35話、巻21：2・23・24話、
 巻23：14話、巻24：2・23・24話、巻25：11話、
 巻26：9話、巻27：15・22・29・41話、
 巻28：5・11・38話、巻29：18・23・28話、巻30：5話、
 巻31：7・31・37話

固有名詞や仏教語などは脚注で簡潔に説明する。閻魔王の四句の偈（巻6～34）はやや長い4行に、蟬丸の和歌など（24～23）は短い5行にしている。

図版、挿絵の有無

カリフォルニア大学東アジアライブラリの所蔵する井澤長秀（蟠竜）編『考訂今昔物語』（本朝部の前編、享保5（1720）年刊）から採ったとある。巻26-9話、巻27-29話、巻28-5・38話、巻29-28話にイラストを挿入する。イラストには短く説明書を添える。

表紙画は、巻26の9話「加賀国の蛇と蜈蚣と諍ひし嶋に往きし人、蛇を助けて嶋に住める」の挿絵より、蛇（龍）の部分を反転して使用。装丁はRandall Goodall（ランドール・グッドール）。

参考文献の有無

参考文献リスト（24～25頁）では、西欧言語の翻訳・研究書も紹介する。

索引の有無 無

メモ・その他

Ury はカリフォルニア大学で比較文学を教える。翻訳に『Poems of the Five Mountains: an Introduction to the Literature of the Zen Monasteries』(1977) 等。

(福田秀一・可見洋介)

■ タイトル

THE KONZYAKU MONOGATARISYU :
An Historical and Critical Intro-duction, with
Annotated Translations of Seventy-eight Tales

翻訳者

Robert Hopkins Brower(ロバート・ホプキンス・ブラウアー)

出版社 University Microfilms International

刊行年 1985 年

頁数 1,062 頁

序文・解説の内容と概略 無

翻訳に用いた底本情報

芳賀矢一纂訂『攷證 今昔物語集上中下』(富山房、1913-1921)

翻訳内容の構成、章立

『今昔物語集』の研究と本朝部の抄出英訳。1952 年にミシガン大学に提出した学位論文(審査委員はジョゼフ・ヤマギワ他)。3部からなり、第1部は「研究 Introduction」、第2部は「抄訳」、第3部は「訳文への注」。

第1部：

「1、インド・シナ・日本の仏教説話集若干」

「2、奈良時代末までの日本の非仏教叙述」

- 「3、平安後期の社会的・文学的状況」
- 「4、今昔物語集の内容と配列ならびに翻訳の選択」
- 「5、同集の源泉および各話の構成と様式ならびに編集の目的」
- 「6、同じく編者と成立の問題点」
- 「7、日本文学史における今昔物語集の位置」

以上7章と文献目録（邦文・欧文一括、漢字仮名は手書きで補う）で計362頁、詳しい脚注を付した意欲的な研究。

第2部は、巻11～31すなわち本朝の仏法・世俗両部から各巻1～8話を採り、かなり原文に忠実な英訳を試みたものの。底本の空白もその形で示す。

第3部は、訳文中の人名・地名・術語等についての詳しい説明と、そこに頻出する文献名の略号表。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

文献目録（和文・欧文一括、漢字仮名は手書きで補う）

索引の有無 無

（福田秀一）

■ タイトル TALES OF DAYS GONE BY

翻訳者 Charles de Wolf（チャールズ・デ・ウルフ）

出版社 ALIS（Arts & Literature International Service）

刊行年 2003年。日本語版も同時に出版された。

頁数 64頁

序文・解説の内容と概略

「解説」では、『今昔物語集』の時代と内容を簡潔に述べる。

翻訳に用いた底本情報

今野達・池上洵一・小峯和明・森正人校注『新日本古典文

学大系 1～5 『今昔物語集』(岩波書店、1996-1999)

翻訳内容の構成、章立

『今昔物語集』の英訳。目次、解説を経て『今昔物語集』17編の物語が、大胆かつ繊細で鮮やかな版画とともに紹介されている。「女性の物語」5編、「不思議の物語」8編、「仏教の物語」4編の3部構成。

冒頭の巻26第11話を「犬の鼻から絹の糸が漂う」と題するように、各話の題は原文を直訳せず話の内容によっている。文章は原文に忠実でリライトではない。

収められた話を第2話以降順に略記する。

巻24-6、巻23-4、巻13-12、巻14-3(以上「女の話」、巻14-42、巻23-14、巻23-22、巻4-31、巻24-24、巻27-5、巻26-1、巻26-9(以上「不思議の話」、巻20(注、12と誤記)-1、巻16-17、巻28-11、巻5-13(以上「仏教の話」)

最後の兎焼身の話以外は本朝の世俗・仏法両部から採っている。人名・地名および若干の習俗等については、該当語句に番号を打ち、巻末の注で略説しているが、官職名等の訳しにくさについては、その冒頭に断りがある。色とりどりの木版画と本文を1頁ごとに交互に載せる。「兎が釈迦のために自ら食べ物になった話」など日本人に馴染みのある話も多く、美しい版画の色合いや独特の迫力とともに楽しめる内容となっている。画家(松原直子)の跋と編者の「あとがき」とを付す。

図版、挿絵の有無

木版画家 Naoko Matsubara (松原直子) による作品 29 点に、Charles de Wolf の英訳を付した『今昔物語集』の版画集。末尾に国名を入れた日本地図(元は近世のもの)を添

える。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

本の大きさは、A4判強で23×30センチメートル。翻訳者 de Wolf はアメリカ出身、刊行時慶応大学教授。『今昔物語集』や『源氏物語』に関する論文や翻訳を多数出版しており、解説において、簡易的な作品説明と同時代文を紹介する。詳細で精密な翻訳もまた特徴の一つである。出版社 ALIS は、アートと文学の融合、関わりという観点からイギリスの木口木版画に注目し、その紹介をしている。1991年に創立、日本では入手しにくい木口木版画に関する洋書の輸入販売のほか、定期的に個展を開き、現代作家の活動・発展に尽力を注ぐ。

(福田秀一・大津直子)

■ 今昔物語集・徒然草

■ タイトル LEGENDS OF JAPAN

翻訳者 Hiroshi Naito (内藤弘)

出版社 Charles E. Tuttle

刊行年 1972年

1982年版。初版の第3版。内容は初版とほぼ同じ。各話2～5頁に改訂する。

頁数 111頁

序文・解説の内容と概略

見返しに『今昔物語集』と『徒然草』の簡単な紹介。目次(5～6頁)につづく翻訳者自身による解説(7～10頁)では、

『今昔物語集』はシェイクスピアやゲーテと同等に貴重な古典である。しかし、同じ平安時代に書かれた『源氏物語』や『枕草子』と比較しても、不幸にも知られていない、と述べる。そてその理由をスタイルが未完成である点、豪華な宮廷生活や上階級を扱っていないため刺激を欠く点の2点に求める。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『今昔物語集』の抄出に『徒然草』から2話を加えて英訳した再版本。冒頭に『今昔物語集』について、芥川龍之介の『羅生門』の一節も英訳して引きながら略説する。本文(11～111頁)は『今昔物語集』から20話、『徒然草』から2話、53・54段(共に仁和寺の僧の失敗談)の抄訳。収録順に以下の通り。

『今昔物語集』巻26-9話、巻23-22話、巻20-9話、巻30-5話、
『徒然草』53段、

『今昔物語集』巻16-32話・28話、巻26-7話、巻28-40話、
巻27-5話、巻31-14話、巻16-15話、巻23-20話、巻20-2話、
巻20-13話、巻28-31話、巻20-39話、巻31-34話、
巻29-35話、

『徒然草』54段、巻27-24話。

各話、タイトル下に Masahiko Nishino の挿絵が1枚ずつ付く。

図版、挿絵の有無

表紙は Masahiko Nishino (ニシノ・マサヒコ)。装丁は Masahiko Nishino と S. Katakura。挿絵にニシノ・マサヒコの木版画がある。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者内藤弘は京都府出身。1955年京都短期大学卒業。1969年立命館大学で学位取得。1953年より「Mainichi Daily News」に日本の民俗、歴史、文学について連載。著書に『The Kamakura murders of 1864』(Harold S. Williams (ハロルド・S・ウィリアムズ)との共著)がある。
(福田秀一・可児洋介)

■ 堤中納言物語

■ タイトル THE LADY WHO LOVED INSECTS

翻訳者 Arthur Waley (アーサー・ウェーリー)

出版社 The Blackamore Press

刊行年 1929年

頁数 38頁

序文・解説の内容と概略 無

翻訳に用いた底本情報

松尾聡・寺本直彦校注『日本古典文学大系 落窪物語 堤中納言物語』(岩波書店、1957)か。

翻訳内容の構成、章立

「虫めづる姫君」の英訳。一般向の訳と見られる。「本性」のような仏教語や「こころ長さ」のような訳しにくい語、あるいは白居易の詩を踏まえた部分などに簡潔な注を付して末尾に記す。

図版、挿絵の有無

その他に Hermine David (エルミーヌ・ダヴィッド)の手になるドライ・ポイント凹版画を掲げる。

参考文献の有無 無

■ タイトル

THE TSUTSUMI CHUNAGON MONOGATARI—A
Collection of 11th-Century Short Stories of Japan

翻訳者 Umeyo Hirano (平野梅代)

出版社 The Hokuseido Press

刊行年 1963年

1965年再版。表紙は国宝『源氏物語絵巻』「宿木三」。本文(1～105頁)からノンブルを改める。それ以外の序文・解説・本文の内容はほぼ初版と同じ。

頁数 x viii + 107 頁

序文・解説の内容と概略

「解説 Introduction」によれば、訳者は戦前に京都大学英文科に学んだ人のようで、故島文次郎に勧められたこの翻訳を1935年に一応完成し、近年補訂したという。

冒頭には Reginald Horace Blyth (レジナルド・ホーラス・ブライス) [1898-1964] による「まえがき Foreword」があり、11世紀日本の貴族文化の創造した比類ない恋愛や、優美で繊細な美的生活様式を賞賛する。

翻訳者は、11頁の解説で、まずこれが西洋では19世紀に発達した短編物語の集であることを指摘し、伝本が少なく研究史の浅いこと、次いでその成立(1939年発見の『類聚歌合巻』の名を挙げる)と作者(単数か複数か、また個々の物語の作者が男性か女性かなどの説について、藤田徳太郎・堀部正二・清水泰の名も挙げる)を論じ、本作の特色に及ぶ。特にその文体の洗練されていることや短編としての技法、ま

た『源氏物語』や『枕草子』にもなく西洋でもまだ見なかった諧謔性などを賞揚している。また翻訳に際しては原文に即することを旨としたが、掛詞・枕詞などのある和歌ではそうも行かず、より自由に訳して脚注で補うことにせざるを得なかったとある。

翻訳に用いた底本情報

清水泰『増訂 堤中納言物語評釈』（京都印書館、1951）の改訂版。箇所によっては久松潜一校注『校註 堤中納言物語』、吉沢義則編『全譯王朝文學叢書 第1巻』（王朝文學叢書刊行会、1924）を参照したという。

翻訳内容の構成、章立

『堤中納言物語』の英訳。各編の題は次のように訳し、原題を括弧に入れたローマ字で下に添えている。

Shosho Who Plucked the Cherry Blossoms, By the Way, The Young Lady Who Loved Insects, Love-affairs According to Standing, Gon-chunagon Who Did Not Cross the Hill of Rendezvous, The Shell-matching Game, The Major-generals Who Spent the Night in Unexpected Places, The Imperial Concubines with Flower Names, The Eyebrow Paint, Insignificant Things, (A Fragmentary Piece)

第8話の題は Hanada no Nyogo としている。脚注でそれでは内容と合わず、「はなだ」は「花々」であろうとする清水の説を採ったと断っている。訳文が正硬なのは解説に断られた通り。和歌は5行（連歌は長短両句を各2行）に訳して、下に原文を括弧に入れたローマ字で示す。また注は、和歌の修辭等の他、地名や有職故実などが付されている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

末尾に「参考文献 Bibliography」として日本語の論著 10 編をローマ字で挙げる。

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者の平野梅代は、『Buddhist plays from Japanese literature (仏教戯曲集)』(1964)、倉田百三『親鸞』(1964)等を翻訳。出版社 The Hokuseido Press (北星堂書店) は 1914 年創業。

(福田秀一・可児洋介)

■ タイトル

THE RIVERSIDE COUNSELOR'S STORIES : Vernacular Fiction of Late Heian Japan

翻訳者 Robert L. Backus (ロバート・L・バックラス)

出版社 Stanford University Press

刊行年 1985 年

頁数 234 頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者自身による。まず、本作中の 2～3 の物語の翻訳を試みた際は逐語訳としたが、それはかえって原作の趣をそぐことがわかった。そこで、今回は正確であるとともに原作の流れるような性質の再現を目ざした。原文の不明瞭な表現には苦勞した、と言う。次に、本文にも注にも頻出する詩歌には掛詞や含意が多いので、一旦直訳した後、含意を入れて訳し直してそれを採用し、注に頼ることを避けている。各句の長短 (5 字・7 字) のリズムは保持し (音節数は守らなくても)、意味の順序もなるべく残した。これは、ブラウワー・

マイナー共著の『Japanese Court Poetry』に倣ったものである。なお、A・ウェーリーに「虫めづる姫君」の訳（1929）が、ライシャワーとヤマギワに本作の完訳（1951）があることにもふれる。人物を官職名で表すのは平安貴族文化の重要な性格であり、できるだけ原文に即したいとの方針からも、やや奇異には響くが、若干簡略化して保存したと断っている。

全体の「解説 Introduction」（20頁）で、平安朝文学の環境としての貴族社会について述べる。その後、当時の文学には詩歌にも散文にも和漢の両文体があり、本作は和文に属すること、和文文学の中には日記・歌物語・作り物語の三種があることを述べて、それぞれの作品を例示する。本作は第三の作り物語に属し、『竹取物語』、『落窪物語』、『宇津保物語』など、多くの散佚作品を先蹤とする。10世紀には写実 realism も見られることを、日記文学や『源氏物語』を証として指摘する。

続いて、11～12世紀の和文物語はすべて『源氏物語』の影の中にあるが、現存作品としては短編に本作10編中の9編、長編には『寝覚物語』、『浜松中納言物語』、『狭衣物語』、『とりかへばや物語』の4作があり、いずれも貴族男女の恋の物語であること、そしてそのいくつかの作者や特質（新機軸）を紹介する。短編という点では、漢文体から発展した「説話」と対比される。その主題や意図、語る姿勢などにおいて対照的で（ただし、「虫めづる姫君」は説話として通る）、そこには作者の階層の問題もあろうとも言う。当時の女性の地位や宮廷・後宮の環境にもふれる。

最後に『堤中納言物語』の比定と題名の由来や今井似閑以来の諸説と似閑本の奥書を認めない山岸徳平の成立説（1390～1497）を紹介して、未定稿的結論だと言っている。

翻訳に用いた底本情報

松尾聡・寺本直彦校注『日本古典文学大系 落窪物語・堤中納言物語』（岩波書店、1957）

翻訳内容の構成、章立

『堤中納言物語』の英訳と研究。本文（1～227頁）からノンブルを改める。訳文は奇数頁のみに記載。偶数頁を注に当てる。全10帖の翻訳の各編は、訳文の前に梗概や作者、モデルに関する解説をおく。本文とともに奇数頁に組み、豊富な注は見開きの偶数頁に収めている。原題をローマ字で付記している。

ちなみに、「冬ごもる空のけしきに、時雨るたびにかき曇る袖の晴れ間は」の未完断片はカットする。また「はなだの女御」は「花々の女御」と校訂し、「女御」は広義には宮仕えする高貴な女性であると注している。和歌は前述の方針で5行に訳している。ローマ字書きの原文を約分左に併記する。また巻末には、広範囲にわたる和英の「文献目録」（231～234頁）を付す。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

翻訳者 Backus は、刊行時、カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校教授。専門は東洋言語・文学。著書に『Matsudaira Sadanobu as a moralist and litterateur』（1963）。

（福田秀一・可児洋介）

■ とりかへばや物語

■ タイトル

The Changelings : A Classical Japanese Court Tale

翻訳者 Rosette F. Willig (ロゼット・F・ウィリッグ)

出版社 Stanford University Press

刊行年 1983年

頁数 248頁

序文・解説の内容の概略

翻訳は三つの巻に分かれていて、解説の「序文」がつく。付録としては『無名草子』の関連箇所翻訳があげられている。唯一の解説となる「序文」では、まず『とりかへばや』が好色ものであるという否定的な評判は、20世紀初めまで有力であったにも関わらず不当だ、と抗議する。『とりかへばや』と『いまとりかへばや』両方の存在（現在伝えられている『とりかへばや』は後者からであると言う）、著者不明の問題、そして物語の書かれた歴史的環境の他、擬古物語のジャンルの問題を取りあげる。日本国内と西洋での『とりかへばや』の解釈の違いがあり、西洋の読者は主に喜劇的な物と読み取るとする。『無名草子』に見られるように、当時の読者らは滑稽に解釈しなかったと断定する。

翻訳に用いた底本情報

鈴木弘道校註・解題『とりかへばや物語の研究』（笠間書院 1972）と今井源衛編、宮内庁書陵部蔵御所本の複製『とりかへばや』（新典社版原典シリーズ 10～11、17～18、新典社、1971）

翻訳内容の構成、章立

脚注は読みやすく、文化遺産の説明などは主に一般の読者向けだが忠実に書かれている。注の数は少ない。歌の引用などを記し、立ち入った解釈の問題などでは、他の説も参考文献で言及する。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 日本語と英語の両方があるが分量は少ない。

索引の有無 無

(サトコナイトウ・伊井春樹)

歴史物語

■ 大鏡

■ タイトル

The Ōkagami : A Japanese Historical Tale

翻訳者 Joseph K. Yamagiwa (ジョーセフ・K・ヤマギワ)

出版社 George Allen and Unwin Ltd

刊行年 1967 年

頁数 488 頁

序文・解説の内容の概略

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）に支援されたプロジェクトで、世界に向け発信する日本古典文化遺産としての『大鏡』の訳である。そのため注は古典や日本史を専門とする学者にも参考になる一方、一般の読者向けにもわかりやすく書かれている。翻訳者は、以前一部の訳を 1951 年に Translations from Early Japanese Literature (Harvard-Yenching Institute and Harvard University Press) で発表している。序論は簡潔で、物語のおおらかな枠組みや話し手の 2 人の老人の事などを述べる。物語の簡単な概略、天皇の伝記、道長を最後とする藤原氏 20 名の伝記などを説明する。2 人の翁たちの話の枠組みや、歴史物語のジャンルの事なども。これら論文は平田俊春や松村博司の研究に基づいている。短い「序論・解説」だが、その簡潔さを補うため、「大鏡と道長」の論文が付録の一つとしてある。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

本翻訳は注釈と文脈に歴史的呼称を取り入れるなど、解読を無難にする一方、翻訳自体は多少不適切な場所も見受けられると批判されている。

付録としての『大鏡』と藤原道長の論文は、日本初期の歴史記録的散文の歴史物語に至るまでの発達、『大鏡』成立の詳細、そして道長の伝記を委しく論じている。『古事記』、『六国史』、『伊勢物語』、『大和物語』、『源氏物語』などの散文（つくり物語）、歴史物語とその作者たちの事も述べる。歴史物語と国史の違いや、万葉仮名、仮名の成立なども扱う。『大鏡』と『史記』とを比較し、後者は系図上でなくあくまでも年代順で編成されている所など違いがある反面、類似点が多い事などを指摘。『栄花物語』との比較も行う。題名や成立年の問題などにも触れる。

「大半の学者は」12世紀末成立と断定しているとしながら、翻訳者はエドウィン・ライシャワー (Edwin Reischauer) のような『大鏡』本文内にみえる「1025年」成立という考えを述べる。『大鏡』は歴史物語としての新しい形であると評価する。また、道長の伝記として、藤原氏の平安期での重要な地位を含めて論じている。

図版、挿絵の有無

付録として簡潔な皇帝と藤原氏の関係を表す系図、平安京の図、大内裏と内裏の図。挿絵無。

参考文献の有無

日本語、英語。独語、仏語もある。『大鏡詳解』（明治書院、1927）を参考にし、そのため翁の年齢が150と140とされている。物集高量編著の『古事記・大鏡・水鏡』（新釈日本

文学叢書 7 日本文学叢書刊行会、1923) や橘純一の『大鏡新講』(武蔵野書院、新版、1958) なども参考にした。

索引の有無 有

(サトコナイトウ・伊井春樹)

■ タイトル

Ōkagami The Great Mirror :
Fujiwara Michinaga (966-1027) and His Times

翻訳者

Helen Craig McCullough (ヘレン・クレイグ・マッカラ)

出版社 Princeton University Press

刊行年 1980 年

頁数 381 頁

序文・解説の内容と概略

翻訳者自身による「解説 Introduction」は、「ジャンルの問題」「歴史語り」「歴史物語」「大鏡：設定と役者たち」「大鏡と史記」「帝紀」「列伝」「藤氏物語」「昔物語」「魂」「魂と理想の源氏」「大鏡と批判精神」「歴史性」の 13 節に分けて、その文学性と文学史的 position を説き、引用の出典や文献を脚注に示す。

翻訳に用いた底本情報

『日本古典文学大系 大鏡』(岩波書店、1960)。その他、保坂弘司著『大鏡新考』(学燈社、1974) も参照している。

翻訳内容の構成、章立

『大鏡』の英訳と研究。本文は大系本に従い、全訳 6 巻にわける。「裏書」は訳出しなかったと断り、古本と流布本とについて簡単に説明する。訳文は原作の巻次にこだわらず、「第一章 V 序・帝紀」(65～89 頁)「第二章 冬嗣～師忠」(90

～126頁)「第三章 師輔～公季」(127～161頁)「第四章 兼家～道兼」(162～183頁)「第五章 道長その一・藤氏物語」(184～214頁)「第六章 道長その二・昔物語」(215～240頁)として、第二～五章に系図を挿入する。

訳文はわかりやすさを旨としたようで、人名・地名・修辭などに最低限の脚注を付す。和歌はこれもローマ字書の原文と訳との各5行対照。

「付録」として「A. 本文中の人名・地名」(略解説)、「B. 古本の欠く章句」(本文中に付した番号で該当箇所を示す)、「C. 大鏡時代の年表」(天皇および撰関・大臣の在位・在任期間を示す)、「D. 鎌足から道長に至る藤原氏の日本宮廷史における役割」(主として川上多助『平安朝史』による論文)を添える。

図版、挿絵の有無

「平安京」「大内裏」「内裏」「清涼殿」の4図

参考文献の有無 有

索引の有無 367～381頁にある。

メモ・その他

「Princeton Library of Asian Translations」の1冊。同シリーズには、『Kokin wakashu (古今和歌集)』、Richard Bowring『Murasaki Shikibu, her diary and poetic memoirs (紫式部日記)』(Princeton University Press、1982)等がある。

(福田秀一・狩集広之)

■ 栄花物語

■ タイトル

A TALE OF FLOWERING FORTUNES : Annals Of
Japanese Aristocratic Life In The Heian Period

翻訳者

William H. McCullough (ウィリアム・H・マッカラ)、
Helen Craig McCullough (ヘレン・クレイグ・マッカラ)

出版社 Stanford University Press

刊行年 1980年

頁数 巻1-428頁、巻2-429～910頁

序文・解説の内容と概略

第1巻は、冒頭「翻訳者注釈(Translators' Note)」(5頁)で、「本文」「成立」「固有名詞、年齢と系図」「注釈の範囲と本質」について言及する。いわゆる続編10巻を省いたのはそれが無味乾燥であり、正編が本作の中心で文学的にも歴史的にもそこが興味をそそるからだ、と、短い(1頁余)「序」に言う。そこにはまた、松村博司の助力・助言への謝意も述べられている。

「解説(Introduction)」(3～68頁)では、「歴史編纂の起源(中古散文文学の発達と中国・日本の史書の沿革)」「歴史書としての『栄花物語』」「歴史物語としての『栄花物語』」「『栄花物語』の史実性」「成立年代と作者」「資料とその用法」「読者」(実隆～土肥経平らはいるが近世を通じて流布は少なかった)の7章を立てる。特に第2章(末法思想や物語性など)、次いで成立・作者(赤染と断定するには至らない)論と資料論(紫式部日記と対比)に重きをおく。ほとんど毎頁

詳しい脚注を施す（訳文でも同じ）。

2冊にまたがる訳文は正確を旨としたようで（もともと「序」で語学的・文学的な弱さを実感しているとある）、特に歴史的な事項に関する脚注や補注にそれが強く出ている（夫のウィリアムは平安時代史の専門家）。

翻訳に用いた底本情報

古本系統第一種本（通称梅沢本）を底本とする、松村博司・山中裕校注『日本古典文学大系 75 栄華物語上』（岩波書店、1977）、『日本古典文学大系 76 栄花物語下』（岩波書店、1978）

翻訳内容の構成、章立

『栄花物語』正編 30 巻の英訳と研究。

本文は、巻1「月の宴」から巻11「つぼみ花」までの英訳（69～360頁）、補注（363～428頁）収録。本文は固有名詞をローマ字表記し、脚注をつけ、和歌は5行書き。ローマ字表記をした原文の右側に英訳を載せる体裁を取る。また、所々に挿絵があるのも特徴である。各巻名の箇所にあがり藤の紋を付す。

第2巻は、巻12「玉の村菊」から巻30「鶴の林」までの英訳（429～775頁）と補注（779～786頁）、付録（A. 官職、B. 大内裏）787～854頁、先行研究一覧（人名・書名すべて一括）855～864頁、索引（本文中の人名・事項等）865頁という構成である。

図版、挿絵の有無

随所に挿入した図版は、UCB（カリフォルニア大学バークレイ校）東亜図書館所蔵の17世紀木版本から採った。

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

William H. McCullough と Helen Craig McCullough は、
刊行当時カリフォルニア大学の東洋文学の教授。

(福田秀一・大津直子)

和歌・漢詩・歌謡

■ 古今和歌集

■ タイトル

Kokinshû :

A Collection of Poems Ancient and Modern

翻訳者

Laurel Rasplica Rodd (ローレル・ラスプリカ・ロッド)、
Mary Catherine Henkenius (メリー・キャサリン・ヘンキ
ニアス)

出版社

University of Tokyo Press, Princeton University Press

刊行年 1984年

頁数 ix + 442頁

序文・解説の内容の概略

序文、翻訳は全1,111首と共に仮名序と真名序を含む。中国文献の影響に関する論文と、付録の論文では別本の問題を考察する。簡単な歌人紹介も含む。解説は一般読者向けとし、さらに専門的知識を得るにはロバート・ブラウアーとアール・マイナーの研究 (Robert Brower and Earl Miner, Japanese Court Poetry, Stanford University Press, 1961) が適しているとする。

歴史的状況を、平安初期の漢詩や唐文化へ抱く憧憬に重点を置き論ずる。『古今和歌集』と『万葉集』の比較も試みる。紀貫之を主とするほか、その他3人の編集者(計4名)の事

も記す。二つの序文に関しては、当時の和歌と漢詩の関係を見いだす。

『古今集』以前の歌の歴史を三通りに分け、枕詞、掛詞、縁語などの説明も含む。『古今集』に見られる歌には主となる歌人と自然などの一体化、時の流れへの関心などを考える。新しく用いられた複雑な題別の構成は、後の勅撰集に大いに影響を与えたとする。ジョン・テイモシー・ウイクステッド (John Timothy Wixted) による中国の影響の論文は、『詩経』の大序、『詩品』、『文選』などを主に扱う。仮名序と真名序の違いでは、前者が歌の表現性を有用性より重視すると主張する。どちらも中国の歌の論説に応じているが、新しい類比や語彙を使用し、『古今集』は日本独特の歌集だとする。

古今集別本の情報は、西下経一・実方清編『国語国文学研究史大成7 古今集・新古今集』(三省堂、1977) に応じている。

翻訳に用いた底本情報

定家本を用いる小沢正夫校注訳『日本古典文学全集7 古今和歌集』(小学館、1971) と、窪田空穂『古今和歌集評釈上中下』(東京堂、1960)。

翻訳内容の構成、章立

仮名序と真名序、両方の脚注が詳細であり、解釈困難な箇所などを示している。5-7-5-7-7の形のまま訳す一方、イメージの順番も保ち、掛詞や枕詞をできるだけ表現しようと試みている。歌はすべて原文日本語をローマ字音訳 (transliteration) でも示されている。本文中に注が加えられている。これら注釈は翻訳に用いた底本の小沢正夫と窪田空穂の注釈に加え、奥村恒哉校注『古今和歌集』(新潮社、1978) も参考とした。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 日本語、中国語、英語、仏語などあり。

索引の有無 和歌冒頭の索引、題目索引あり。

(サトコナイトウ・伊井春樹)

■ タイトル

LOVE AND SPRING

— Selections from the "Kokinshu"

翻訳者 H. Saito (斎藤秀三郎)

出版社 Kobunsha

刊行年 1909年

序文・解説の内容の概略

表紙には上記の英文タイトルの下に縦書で「日英新婚やよひの編／句々対訳古今百首（以上角書）春と恋」とあり、奥付には、これ以前に出た「日英新婚如月の巻」「日英新婚睦月の巻」「句々／対訳百人一首」「句々／対訳詩歌集第1巻」（1909年）の名をあげる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

主として『古今集』から春と恋の歌計100首を選び、各歌を5行詩（脚韻を踏む）に英訳して見開きに対照させたもの。大部分は『古今集』からの抄出で、家隆・崇徳院・式子内親王その他『新古今集』の歌などもある。

図版、挿絵の有無

厚めの料紙には、菫・桜・薔薇・菊などを薄い草色で琳派風に描いた下絵を刷る。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他 訳者は英和辞典も編んだ高名な英語学者。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ タイトル

EARLY JAPANESE POETS

—Complete Translation of the Kokinshū

翻訳者 Takeji Wakameda (若目田武次)

出版社 Eastern Press (London)

刊行年 1922年

1929年 The Yuhodo Press (有朋堂書店) より、Revised edition (xx + 275 + 4頁) として再刊。版型を縮小して組み替えたもの。詞書の活字が非常に小さかったのを大きくして、索引を別項に掲げる。

頁数 xx + 254頁

序文・解説の内容の概略

岩崎小弥太男爵に捧げられている（あるいは資金の援助があったか）。冒頭に「仮名序」を Preface と題して訳し、次いで「解説 Introduction」（6頁）で成立と『万葉集』からの展開、特に長歌の衰退について述べる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

本文は巻ごとに章を分けて全歌を詞書・作者名（原文のままローマ字書き）も含めて2～6行に訳し、脚韻にかなり努力している。まれに、歌の直後に注（例えば EMPEROR KOKO が Emperor of Ninna であること）を加える。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

訳者のフルネームと漢字は1929年再版の本書から。解説者の名はその末尾に、漢字は推測による。

■ タイトル

THE KOKIN WAKA-SHU – The 10th-Century Anthology Edited by The Imperial Edict

翻訳者 H. Honda (本田平八郎)

出版社 The Hokuseido Press, The Eirinsha Press

刊行年 1970年

頁数 viii + 292頁

序文・解説の内容と概略 無

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『古今集』の仮名序および全歌の英訳。歌は詞書から訳して毎首3～4行(折々2行)とし、なるべく脚韻を踏もうとしている。その上に原歌の意味や感動内容も伝えようとするのはかなり困難で、各歌の主題や題材が一応分かるという程度のもが多い。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

カバーおよび奥付には「英訳古今和歌集」ともある。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ タイトル

KOKIN WAKASHU

—The First Imperial Anthology of Japanese Poetry,
With Tosa Nikki and Shinsen Waka

翻訳者

Helen Craig McCullough (ヘレン・クレイグ・マッカラ)

出版社 Stanford University Press

刊行年 1985年

頁数 x + 388頁

序文・解説の内容の概略

『古今集』の全文(両序を含む)に『土左日記』と『新撰和歌集』を添えて英訳したもの。作品についての解説は、同時刊行の姉妹編 *Brocade by Night* に譲って一切省いている。

翻訳に用いた底本情報

『古今集』と『土左日記』は、佐伯梅友校注『日本古典文学大系 古今和歌集』(岩波書店、1958)、鈴木知太郎校注『日本古典文学大系 土左日記』(岩波書店、1957)を、『新撰和歌集』は、菊地靖彦『「古今集」以後における貫之』(桜楓社、1980)を底本とし(したがって1～360の番号を付し、菊地が頭注とした作者名・出典等の他、配列の連想その他について、脚注に記す)、後者の序については菊地著書と古典大系の小島憲之校注『本朝文粹』(岩波書店、1964)に引くものによる。

翻訳内容の構成、章立

歌はすべて(『土左日記』も含めて) Rodd (ロッド) らと同じく、ローマ字書きと訳とを1句毎に対照して(前2作は同1頁に、『新撰和歌集』は左右の頁に)掲げ、かつ訳は原則として5-7-5-7-7の音節数にしてあるが、脚韻までは揃え

ようとしていない。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ タイトル

THE LOVE POEMS OF THE KOKINSHU : A Translation, with Commentary, and Study of the Influence of Chinese and Earlier Japanese Poetry

翻訳者 Nicholas John Teele (ニコルズ・ジョン・ティール)

出版社 University Microfilms International

刊行年 1980年

頁数 651頁

序文・解説の内容の概略

表題通り『古今集』の恋歌漢詩および『万葉集』からの影響を考察する。テキサス大学オースティン校に提出した学位論文である。「第1章 導入 Introduction」では『古今集』の史的位罫とその諸本・注釈・翻訳の歴史を簡潔に述べる。「第2章 宮廷における詩歌の役割」では梁・初唐および万葉・古今時代を、「第3章 中国詩と『古今集』の恋歌」「第4章 『万葉集』と『古今集』の恋歌」ではそれぞれの恋歌の素材や技法等を比較する。「第5章 3期に見る引喩」は、詠人不知歌・六歌仙歌・撰者時代の歌の喩法を、「第6章 『古今集』恋歌の構造と配列」では『文選』や『古今集』以前の撰集との比較を試みる。

翻訳に用いた底本情報

佐伯梅友校注『日本古典文学大系 古今和歌集』(岩波書店、

1958) による。元永本の歌も補う。

翻訳内容の構成、章立

『古今集』恋1～5の全歌について、詳しい注を付した英語を添えている。第7章～15章で恋歌各巻の全歌の訳注をしている。初めに概説を置き、原歌はローマ字で5行に示してその右に訳を示し（必ずしも行ごとの対応ではない）、配列状況や修辞技巧（縁語・懸詞・序詞等）についての注を付す。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 無

メモ・その他 著者には『ONO NO KOMACHI』（共著）もある。

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ 後撰和歌集

■ タイトル

A collection of subsequently selected Japanese poems : compiled for Emperor Murakami

翻訳者

Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 2001年

頁数 317頁

序文・解説の内容と概略

序文では『後撰和歌集』の成立について説明している。「昭陽舎」などの建物の名称や、「藤原伊尹」等の人名はローマ字の後に漢字をあてている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成と章立

翻訳自体は、左に歌の詞書きが書かれ、行をかえて中央に詠者の名前が書かれている。さらに行をかえて左から歌の番号・歌の題名・歌の翻訳という形式をとっている。1巻は巻1～12まで、2巻は巻13～20までを収録している。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 初句・結句・著者別の索引がついている。

(浅川槇子)

■ 拾遺和歌集

■ タイトル

A Collection of rescued Japanese poetry :

Shūi waka shū

翻訳者

Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 2002年

序文・解説の内容と概略

序文は『拾遺和歌集』の成立と、『古今和歌集』をはじめとする勅撰和歌集について述べている。解説はない。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成と章立

翻訳自体は、左に歌の詞書きが書かれ、行をかえて中央に詠者の名前が書かれている。さらに行をかえて左から歌の番

号・歌の題名・歌の翻訳となっている。1巻は巻1から巻11まで、2巻は巻12から巻20までをおさめている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 初句・結句・著者別の索引がついている。

(浅川槇子)

■ 大斎院選子内親王と発心和歌集

■ タイトル

THE BUDDHIST POETRY OF THE GREAT KAMO
PRIESTESS : Daisaiin Senshi and Hosshin Wakashu

翻訳者 Edward Kamens (エドワード・ケイメンズ)

出版社 The University of Michigan

刊行年 1990年

頁数 170頁

序文・解説の内容の概略

「序説 Prologue」で、選子とその時代を概観する。「第1部 大斎院」で、彼女の生涯・地位・思想などを、『賀茂注進雑記』（続群書類従）や家集・説話集・歴史物語などから追究する。「第2部 発心和歌集を読む」では、同集を序から1首1首訳しながら丁寧に読み、その仏教的意義をも解明する。「後記 Epilogue」で、漢文の詞書を持った釈教歌の創作・享受の意義にふれている。

翻訳に用いた底本情報

『新編 国歌大観3』（角川書店、1985）

図版・挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

大斎院選子内親王と『発心和歌集』の研究で、和歌を丁寧に読み解いた労作である。ミシガン大学日本研究センターの『Michigan Monograph Series in Japanese Studies』の第5冊。著者は、当時エール大学東亜言語文学科助教授で、すでに『三宝絵』の研究と翻訳（ミシガン大学の同シリーズ第2冊）がある。本書の作業では橋本ゆり・石原清志の二人と討議したと「謝辞 Acknowledgments」にある。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ 金葉和歌集

■ タイトル

The golden leaf anthology of Japanese poetry
compiled by Minamoto Toshiyori

翻訳者

Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 1996年

頁数 213頁

序文・解説の内容と概略

勅撰和歌集について『古今和歌集』から『金葉和歌集』まで順を追って説明する。『古今和歌集』は巻の題も書かれている。『古今和歌集』などの固有名詞や、「源俊頼」等の人名はローマ字の後に漢字をあてている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成と章立

翻訳自体は、左に歌の詞書きが書かれ、行をかえて中央に詠者の名前が書かれている。さらに行をかえて左から歌の番号・歌の題名・歌の翻訳となっている。左側にローマ字で歌を書き、右側がその歌の翻訳となっている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 初句・結句・著者別の索引がついている。

(浅川槇子)

■ 詞花和歌集

■ タイトル

A collection of verbal blooms in Japanese verse /
compiled by Fujiwara Akisuke

翻訳者

Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 1995年

頁数 124頁

序文・解説の内容と概略

序文では『万葉集』の成立から、『古今和歌集』から『詞花和歌集』に至る勅撰和歌集の流れについて述べている。『古今和歌集』は巻の題も書かれている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成と章立

『詞花和歌集』の英訳である。翻訳自体は、左に歌の詞書きが書かれ、行をかえて中央に詠者の名前が書かれている。さらに行をかえて左から歌の番号・歌の題名・歌の翻訳となっている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 初句・結句・著者別の索引がついている。

(浅川槇子)

■ 千載和歌集

■ タイトル

The anthology of a thousand years of Japanese poetry / compiled by Fujiwara Shunzei

翻訳者

Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 1997年

頁数 369頁

序文・解説の内容と概略

序文では『古今和歌集』の成立から『千載和歌集』に至るまでの、勅撰集の流れを述べている。解説では、『千載和歌集』の成立と藤原俊成について述べ、解説に引用した文献や注を下に付す。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成と章立

『千載和歌集』の英訳である。翻訳自体は、左に歌の詞書きが書かれ、行をかえて中央に詠者の名前が書かれている。さらに行をかえて左から歌の番号・歌の題名・歌の翻訳となっている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 初句・結句・著者別の索引がついている。

(浅川槇子)

■ 和漢朗詠集

■ タイトル

Japanese and Chinese poems to sing :
the Wakan rōei shū

翻訳者

Stephen Addiss (スティーブン・アデイス)、Jonathan Chaves (ジョナサン・チャベス)、J. Thomas Rimer (J・トーマス・ライマー)、Ann Yonemura (アン・ヨネムラ)、Jinichi Konishi (小西甚一)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1997年

頁数 329頁

序文・解説の内容と概略

序文で、翻訳者が『和漢朗詠集』を翻訳するに至った経緯を述べている。解説では、『和漢朗詠集』とはどのような性格をもった作品であるかを説明し、平安時代の代表的な歌人

とその作品をあげている。また、同時代の西洋の詩人についても触れている。後半では松尾芭蕉の俳句と、詩人・英文学者である西脇順三郎が、イギリスの詩人トーマス・スターンズ・エリオットの詩を訳したことを述べている。

翻訳に用いた底本

『新潮日本古典集成 和漢朗詠集』（新潮社、1983）

翻訳内容の構成と章立

翻訳自体は、左から詩の番号・詩の題名・詩の翻訳という形式をとっている。また、翻訳の他に「『和漢朗詠集』における中国の詩」、「日本文学における『和漢朗詠集』とその影響」、「『和漢朗詠集』を歌うこと」、「書道芸術と『和漢朗詠集』」などの論文を収録している。

図版、挿絵の有無

『和漢朗詠集』の影印の写真を載せている。冒頭は三の丸尚蔵館蔵の卷子本である。

参考文献の有無 有

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 梁塵秘抄

■ タイトル

THE DANCE OF THE DUST ON THE RAFTERS :
Selections from Ryōjin-hishō

翻訳者

Yasuhiko Moriguchi (森口靖彦)、David Jenkins (デビット・ジェンキンス)

出版社 Broken Moon Press

刊行年 1990年（ペーパーバック版）

頁数 145頁

序文・解説の内容と概略

裏表紙には Robert Aitken（ロバート・エイトキン）、J. P. Seaton（J・P・シートン）、Sam Hamill（サム・ハミル）など、主に仏教及び中国文学の専門家の評を載せる。John Lennon（ジョン・レノン）への献辞がある。巻頭解説は署名なし。『梁塵秘抄』の書名の由来や文学史的な価値、和田英松による発見と現行の形態などを述べ、今様について説明する。いわゆる源平合戦から起こして末法の時代についての説明は詳細にしてあり、それを踏まえた当時の文学の状況を述べている。そこから『梁塵秘抄』が当時の人々の姿を映すものとする。また後白河法皇の編集意図を自らの贖罪行為とし、末法思想下での作品集であることを詳しく解説する。

翻訳に用いた底本情報

おそらく川口久雄・志田延義校注『日本古典文学大系 和漢朗詠集・梁塵秘抄』（岩波書店、1956）であろう。

翻訳内容の構成、章立

『梁塵秘抄』の抄出英訳。巻1の21首のうち8首、巻2の545首のうち133首を抄訳。ただし、巻1収録の10首の今様は訳されていない。抄出は原文の順によるが、38番（観音の歌）を494番（阿弥陀仏の歌）の前に移すなど、若干の移動を加えている。『梁塵秘抄』の英訳は本作が初。訳は1頁に1首、全て頁の半分までに収められている。改行にも工夫を凝らし、散らし書きをすることで内容を表現しようとしている。注は一切なし。

図版、挿絵の有無

表紙のデザインには 19 世紀の半纏の生地を使用。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者の Jenkins はイギリス出身。大学でイエーツを研究した際、アイルランド文学における日本文学の影響を知り、日本文学に関心を持ち始めた。ロンドンで新聞・雑誌の記者をした後、1980 年に来日。京都に在住し英会話教師をする。森口靖彦も同じく京都在住の英会話教師。二人の共著として本作の後に『閑吟集』『方丈記』の英訳なども手掛けている。

(福田秀一・七田麻美子)

伝記・評伝

■ 空海

■ タイトル

Kūkai : Major Works Translated, with an Account of his Life and a Study of his Thought

翻訳者 Yoshito S. Hakeda (羽毛田義人)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1972 年

頁数 xiv + 303 頁

序文・解説の内容の概略

本書は、Columbia College Program of Translations from the Oriental Classics の 1 冊。冒頭に Committee on Oriental Classics の Wm. Theodore de Bary の「まえがき Foreword」と、著者自身の短い「序 Preface」を置く。「解説 Introduction」で、空海とその研究の意義を述べる。本文は、「第 1 部 空海の生涯 (略伝)」「第 2 部 空海 of 思想 (顕密思想と彼の密教の特質など)」「第 3 部 空海 of 主要著作」の 3 部から成る。

翻訳に用いた底本情報

祖風宣揚会編『弘法大師全集』(吉川弘文館、1923) を用い、注解は『真言宗全書』(真言宗全書刊行会、1933-)、『大正新修大藏経』(大正新修大藏経刊行会、1978)、『豊山全書』(豊山全書刊行会、1912)、『智山全書』(智山全書刊行会、1964) による。重複する引用等は支障のない限り省いたとある。

翻訳内容の構成、章立

第3部では『三教指帰』『請来目録』『弁頭密二教論』『秘蔵宝鑰』『即身成仏義』『声字実相義』『吽字義』『般若心経秘鍵』の8作品を英訳する。『十住心論』『文鏡秘府論』『性霊集』を省いた理由は、簡単に「解説」に述べられている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他

著者は当時コロンビア大学東亜言語文化学科および宗教学科の准教授。末尾に「年表」を付す。ハードカバーで増刷を重ね、ペーパーバック版もある。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ 菅原道真

■ タイトル

SUGAWARA NO MICHIZANE AND THE EARLY
HEIAN COURT

翻訳者 Robert Borgen (ロバート・ボーゲン)

出版社 Harvard University

刊行年 1986年

頁数 xv + 431頁

序文・解説の内容の概略

1980～81年に来日して東大史料編纂所で山中裕に師事し、金井圓・土田直鎮らにも教えを受けたと、冒頭の「謝辞 Acknowledgments」にある。著者は当時ハワイ大学マノア

校准教授。菅原道真の詳しい評伝。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

「導入 Introduction 人と伝説」の後、「1 家と学者」「2 修学時代（当時の学問状況にもふれる）」「3 貴族と教師」「4 讃岐守」「5 高官昇任（蔵人頭任官以後）」「6 外交官（遣唐使問題）」「7 大臣から左遷へ」「8 天神としての道真」の8章を立てる。随所に彼の作品を英訳で引用する。

道真の詩文の英訳はほとんど著者自身のもの。ただし、Burton Watson（バートン・ワトソン）の訳（*Japanese Literature in Chinese, Vol.1* その他の論著と見られる）によったものもあると、巻頭の「緒言 Explanatory Notes」で言う。

図版、挿絵の有無

『絵本菅原実記』など近世版本の挿絵などを豊富に挿入。

参考文献の有無 有

索引の有無 有

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ 小野小町

（小町草紙・小町歌争ひ・草紙洗小町・通小町・鸚鵡小町・卒塔婆小町・関寺小町）

■ タイトル

ONO NO KOMACHI—Poems, Stories, Nō Plays

翻訳者

Roy E. Teele（ロイ・E・ティール）、Nicholas J. Teele（ニコラス・J・ティール）、H. Rebecca Teele（H・レベッカ・

テール)

出版社 Garland Publishing, Inc., New York & London

刊行年 1993年

頁数 xi + 232頁

序文・解説の内容の概要

序文は小野小町と小町伝説・小町能についての考察。Roy [1915-1985] とその2児との研究を併せたものだという。

「解説」では、各章の成立や分担にもふれる。例えば、最初の小町の和歌についての章は、ニコラスが1986年の国際東方学会議と翌年の国際日本文化研究センターでの討議「日本文学と私」で報告したものを基にしている。

本文は、初めに「小野小町の歌」と題し、その特質を語法や伝統の観点から要約(9頁)する。続いて、「古今集の小野小町の歌」の英訳を示し、次に「小町伝説」としてその史料(『古今和歌集目録』『和歌知頭集』等々)をあげ、モチーフ(「生誕」「菩薩の再来」から「野ざらし」に至る16項目)を説明する。この部分も、主としてニコラスの手になると見られる。さらに、「小野小町に関する中世物語」と題して短い解説の後、『小町草紙』、『小町歌争ひ』の2作品の英訳を掲げる。和歌は訳文(原歌の1句を1行に)のみを示す。次の「能と小町一序説」は、「解説」に言う通り本書の中核で、頁数でも過半を占める。能についての短い説明の後、『草紙洗小町』、『通小町』、『鸚鵡小町』、『卒塔婆小町』、『関寺小町』の古典能5作と、津村紀三子(1902-1974、観世緑泉会創始者)の新作能「文殻」の各英訳をあげ、それぞれの前に各曲の面・衣裳・舞などについても述べる。

なお、『卒塔婆小町』を除く古典4作はロイの生前の訳、「卒塔婆小町」はレベッカの訳で、『謡曲大観』や両流の謡本によつ

て加筆したところがあるという。また、「文殻」の訳は、津村禮次郎（緑泉会会長）編『散り来る花に』（同会、1987）により、同氏に相談しつつレベッカが担当したという。

翻訳に用いた底本情報

竹岡正夫『古今和歌集 全評釈』（右文書院、1976）、小沢正夫校注訳『新編日本古典文学全集 11 古今和歌集』（小学館、1994）、横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』（角川書店、1973-）、大島建彦校注訳『日本古典文学全集 36 御伽草子集』（小学館、1974）、藤井隆編『未刊御伽草子集と研究 1』（未刊国文資料刊行会、1956）、『伝承文学研究』第 10 号（むつひ会、1969）、佐成謙太郎『謡曲大観』（明治書院、1931）など。

翻訳内容の構成、章立 上記「解説の内容の概略」参照のこと。

図版、挿絵の有無

舞台写真の他、現行の観世・金剛両流の舞台上の動きを図示する。

参考文献の有無 英文・和文の参考文献がある。

索引の有無 無

メモ・その他

末尾に「付録」として、「A 「古今集」序の関係部分（冒頭の 1 節と小町評との英訳）」「B 衣通姫について（『日本書紀』の関係部分の略説）」「C 能の語彙（術語）一覧」「D 更に知るために（英文・和文の参考文献）」を添える。

（福田秀一・伊藤鉄也）

■ 小野小町・和泉式部

(小野小町集・和泉式部集)

■ タイトル

THE INK DARK MOON—Love Poems by Ono no Komachi and Izumi Shikibu, Women of the Ancient Court of Japan

翻訳者

Jane Hirshfield (ジェーン・ハーシュフィールド)、Mariko Aratani (荒谷真理子)

出版社 Charles Scribner's Sons (N.Y.)

刊行年 1988年

1990年に再版。Vintage Booksとして、A Division of Random House, Inc. (N.Y.)より刊行。212頁。メモ参照。

頁数 116頁

序文・解説の内容の概略

小野小町と和泉式部について概説した、短い「序 Preface」(Hirshfield、訳詩も担当)がある。ただし、再版では、初版の「序」を大幅に増補した「解説 Introduction」(10頁余)がある。2人の作品がサッフォー、カトウルス(注、ガイウス・ウァレリウス)、ディッキンソン(注、エミリー、19世紀アメリカの詩人)らと同じく、文化や時代を超えて輝くと説き起こす。『古今集』序の一節も引きながら、彼女らの文化史的・文学史的位位置と特質を要領よく述べる。

小野小町と和泉式部の恋歌の英訳。もと『The American Poetry Review』その他の雑誌に分載されたもの。書名は和泉式部の「なぐさめむことぞ悲しき墨染の袖には月の影もと

まらで」の訳 (69 頁) に由来するか。

翻訳に用いた底本情報

再版の「注」によれば、朝日古典全書の『和泉式部集 小野小町集』(窪田空穂校註) から抄出。

翻訳内容の構成、章立

小野小町 36 首、和泉式部 86 首の歌 (多くは恋歌) を、各 5 行 (長短不定) に訳して、毎頁 1 首 (和泉式部の連作は 2 首) を載せる。いくつかには詞書の訳も付すが、注や解説はない。ただし、再版では、小町 44 首 (他に僧の返歌 1 首)、和泉式部 123 首と増補し、順序もかなり変えている。しかし、必要なものだけに詞書を要約して付すのみで、各歌の番号や入集状況なども記されていない。もっぱら一般読書人に、二人の歌を気分的に味わわせる意図の訳となっている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

再版にある。末尾に「主要参考文献 Selected Bibliography」
として、英文のものだけ 20 点ほどをあげる。

索引の有無 無

メモ・その他

本書を増補改訂して Vintage Classics の 1 冊としたものが、1990 年に再版されている。再版では、「暗きより」の歌について、和泉式部の死の床での最後の作とされていると憶測するなど、学問的ではない。巻末「付録」の「第 1 日本の詩歌と翻訳の手法について On Japanese Poetry and the Process of Translation」で、修辭技巧その他に言及している。また、「歌への注」に各歌の原文をローマ字書きで示したり、「煙」が「死」を暗示することなどの説明がある。なお、訳者の一人 J. Hirshfield は詩人、マリコ・アラタニは東京芸大

卒で音楽と織物に携わっていると、末尾の紹介にある。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ 六歌仙

■ タイトル

THE ROKKASEN—The Illustrated Poems by the Six Poetical Geniuses

翻訳者 Akiyama Aisaburo (秋山愛三郎)

出版社 私家版

刊行年 1894年

頁数 袋綴、9丁 (B5横)

序文・解説の内容の概略 活字による英文の「序 Preface」あり。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

六歌仙の歌各1首を英訳し、浮世絵風の絵(各1面)を付した。歌は、小町「いろみえで」、業平「おほかたの」、遍昭「蓮葉の」、康秀「ふくからに」、喜撰「我庵は」、黒主「かゞみやま」を取り上げる。

図版、挿絵の有無 原歌(連綿体、濁点なし)と絵と奥付は木版。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

各歌の英訳は活字による。チリメン本の一つで、彩色あり。

(福田秀一・伊藤鉄也)

■ 和泉式部

(浄瑠璃物語・小式部・琴腹・洛陽誓願寺縁起)

■ タイトル

IMAGINING IZUMI SHIKIBU : Representations of a Heian Woman Poet in the Literature of Medieval Japan

翻訳者

Randle Keller Kimbrough (ランドル・ケラー・キンブロー)

出版社 UMI (Ann Arbor, Michigan)

刊行年 1999 年

頁数 332 頁

序文・解説の内容の概略

和泉式部伝説の中世における展開を考察したもの。エール大学に提出した学位論文。論文作成にあたり、指導教授 E・ケーメンスの他、日本で小峯和明・徳田和夫など多くの図書館・博物館にも世話になったと、「謝辞 Acknowledgments」に述べる。

『和泉式部』、『浄瑠璃物語 (抄出)』、『小式部』、『小式部 (別本)』、『琴腹』、『洛陽誓願寺縁起 (抄出)』の各英訳。注は脚注としている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

本文は4章からなり、「第1章 序説 Introduction」で平安中期の女流文学の繁栄と、紫式部・清少納言・赤染衛門・和泉式部らの中世文学（説話文学、お伽草子、縁起その他）への投影を概観する。その後、「第2章 和泉式部と道命阿闍梨」

(3節を立ててお伽草子『琴腹』、『和泉式部』などを考察する)、
「第3章 和泉式部・性空上人および中世仏教伝承」(3節を
立てて『三国伝記』や『洛陽誓願寺縁起』などを取り上げる)、
「第4章 女性と神聖」(「女性のヒーローとしての和泉式部」「お
伽草子『浄瑠璃物語』」の2節を立てる)と展開する。

図版、挿絵の有無 モノクロ図版を挿入

参考文献の有無 有

索引の有無 無

メモ・その他

「付録」として、「A『小式部』の諸本」「B「紫式部の巻」(注、
京大赤木文庫本『石山物語』巻4)の梗概」「C『松島日記』(注、
伝清少納言作)の梗概」がある。

(福田秀一・伊藤鉄也)

仏教関係

■ 円仁行記

■ タイトル

ENNIN'S DIARY—The Record of a Pilgrimage to
China in Search of the Law

翻訳者 Edwin O. Reischauer (エドウィン・O・ライシャワー)

出版社 Ronald Press Company

刊行年 1955 年

頁数 vi + 454 頁

序文・解説の内容と概略

冒頭の「序」(10 頁)は、現存の写本・刊本について詳しく解説した上、今回は東寺所蔵本(正応4(1291)年写)の複製を基に大日本仏教全書本を参照したと断る。そして本作の語法・成立や翻訳上の留意点(数や時制のような言語上の問題や史実、固有名詞の訳など)を述べる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『入唐求法巡礼行記』の英訳。後に刊行される研究編と同装で同時に刊行された姉妹編。本文は、巻1～4をFirst～Fourth Scrollと訳し、日付ごとに改行したり(6月をSixth MonthでなくSixth Moonとするのは古風な感じを出すためか)引用文書は活字を落とし、かつその宛所・年月・差出所などをイタリックにするなど読みやすく工夫して、平易な英語に翻訳している。特に固有名詞や仏教関係の術語、制度・

行事などは文中に漢字を加えたものが多い。脚注はそれら以外の事項についても比較的詳しく説明する。

図版、挿絵の有無

前見返しには「838-847年円仁の唐への往復路」と題する地図（右下隅に「北九州」の拡大図）を、後見返しには同年間の「円仁の唐での巡礼」の足跡を示す地図を印刷。本文の前に円仁の画像（12世紀）をカラーで挿入。

参考文献の有無 有

索引の有無

巻末にローマ字化したものの漢字を示す一覧と「索引」（固有名詞・普通語彙混合）を付す。

（福田秀一）

■ 三宝絵

■ タイトル

THE THREE JEWELS—A Study and Translation of Minamoto Tamenori's Sanbōe

翻訳者 Edward Kamens (エドワード・ケイメンズ)

出版社

Center for Japanese Studies, The University of Michigan

刊行年 1988年

頁数 446頁

序文・解説の内容と概略

短い（2頁）「序 Preface」で、為憲が意図したのが最初の読者の立場に尊子内親王を置こうとしたこと、これがエール大学に1982年に提出した学位論文を基にしていることを

述べる。次いで「第一部 解説 Introduction」において「第一章 三宝英訳小史」「第二章『三宝絵』を読む」の2章を立てることを言う。

第一章で為憲・尊子の略伝（本作の序その他による）と諸本や題名、尊子以後の流伝などを説く。第二章では、序の内容や引用法とそこに言う三宝・三時・功德、上・中・下各巻の序とそれぞれの構成、因果の理や本生譚モチーフ（以上上巻）、即報・伝記・奇蹟譚（以上中巻）、「ひとしく皆敬へ」、修行暦（以上下巻）その他および各巻の「賛」について原文の即して解説を加え、章ごとに詳しい注を付す。

翻訳に用いた底本情報

小泉弘・高橋伸幸『笠間叢書 131 諸本対照三宝絵集成』（笠間書院、1980）、山田孝雄『三宝絵略注』（宝文館、1951）による。

翻訳内容の構成、章立

『三宝絵』の研究と英訳。「第二部翻訳」は序以下全文の英訳で、章ごとに現存本文の所在（大部分は前田家本と東寺観智院本〔東京国立博物館現蔵〕、時に東大寺切など）をその題の下に示す。仏教語や固有名詞等には英訳または原語（梵語や漢語）に多くローマ字書きで原文の日本語を括弧に入れて補い、末尾の「人名・書名・術語等一覧」にそれらの漢字を手書きで示す。巻末にはなお、「参考文献抄出」（邦文・欧文一括）と「索引」（人名・書名・事項一括）を添え、全体として学術的な労作。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 有

メモ・その他 「ミシガン日本研究単行シリーズ」の第2冊。

随筆

■ 枕草子

■ タイトル THE PILLOW BOOK OF SEI SHONAGON

翻訳者 Arthur Waley (アーサー・ウェーリー)

出版社 George Allen & Unwin Ltd

刊行年 1928年

Edmund Blunden (エドマンド・ブランデン) の書入れがある彼の旧蔵書。1929・1949・1957年の刷がある。

1960年版 Arthur Waley (アーサー・ウェーリー) による『枕草子』の英訳。ペーパーバック版。表紙には、国宝『源氏物語絵巻』「夕霧」より、雲居の雁の顔の部分を用いる。序文、本文(87頁)、翻訳の注からなる。新しく書かれた序文では、初版に書かれた記述には修正を要する点もあるが、訂正は適当ではないと考えるところもある。また、翻訳の注は、初版の覚書の部分を末尾へ移したものである。原典と訳出箇所との対照表は省く。行文は全く初版のままとする。新たに「目次」を立てて「十世紀の日本」「清少納言の『枕草子』」「少納言の性格」「翻訳の注」の4章を示し、本文もこれに応じて改頁している。なお、「翻訳の注」は前掲書の「凡例」(抄出方針、当時の欧文への抄訳および底本・助力者)を末尾へ移したもので、訳出段と底本との対照表は省かれている。また、同じ1960年(Grove Press)の版もある。

頁数 93頁

序文・解説の内容と概略

覚書には、翻訳の量、当時の欧文への抄訳および底本について触れる。末尾に他の Arthur Waley 翻訳書の紹介。「凡例 Preliminary notes」によれば、難解な箇所を省いて全体の約4分の1を訳出したとある。

翻訳に用いた底本情報

底本は金子元臣『枕草子評釈』（明治書院、初版：上巻1921、下巻1924）。また校正を土井忠生（当時英国留学中）にも読んで貰ったともある。

翻訳内容の構成、章立

Arthur Waley による『枕草子』について、抄出英訳をつないで解説した書。覚書（5～6頁）、Arthur Waley 自身による翻訳（7～160頁）、原典と本書訳出箇所との対照表（161～162頁）からなる。本文は「10世紀の日本」、「清少納言の枕草子」、「清少納言の性格」「訳注」からなる。

本文については、近年邦訳が出版され、英訳との対比について詳細に検討している（津島知明『ウェイリーと読む枕草子』鼎書房、2002）。目次・章分けはない。冒頭に「十世紀の日本」と題して平安貴族社会の美の尊重や宗教（特に西欧キリスト教と対比）と往生思想、次いで清少納言の家系・略伝を説き、その宮仕えから李商隱の「雑纂」との対比や本作の流布（末尾を引用）に及ぶ。以下、「宮にはじめてまゐりたるころ」の自由な訳（段数は示さず、贈答歌は普通の会話に）に始まり、内容の年代順に「小白河の御八講」、「清涼殿の丑寅の隅の」の途中等々の訳を示して清少納言の言動とその環境（例えば行成との交友を「職の御曹司の西面の」を引いて）や宮廷の様子を読者に紹介していく。後半には「説教の講師は」「うつくしきもの」「うれしきもの」の冒頭部など、

年月を特定できない段も多数示している。そして、定子没後の清少納言の事跡がほとんど知られないこと、「頭中将のすずろなるそら言を」を引いてその容貌・性格などに言及し、平安女流仮名文学から一葉に至る流れを称揚して結びとしている。巻末に訳文所出頁と底本の段（計 48 段）との相互対照表を付す。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

Arthur Waley は、イギリスの日本文学者。ケンブリッジ大学出身。中国絵画史、思想史、日本文学等を研究。『源氏物語』の英訳がある。

(福田秀一・唐曉可)

■ タイトル

THE SKETCH BOOK OF THE LADY SHŌNAGON

翻訳者 Nobuko Kobayashi (小林信子)

出版社 John Murray

刊行年 1930 年

1977 年版（静坐社（製作）、日本古書通信社（発売））ハードカバー版。

頁数 139 頁

序文・解説の内容と概略

目次（5～7 頁）、L. Cranmer-Byng、S. A. Kapadia による編集ノート（8 頁）、L. Adams Beck による解説（9～19 頁）、本編（20～139 頁）、同シリーズ紹介。冒頭に木村

毅「英訳『枕草子』解題」(全4頁)と題する別紙を添付する。編集ノートではこれが東西の架け橋となること、平等の精神の復活の助けとなることを述べる。解説では、『枕草子』に東洋の美と精神を読んでいる。また、清少納言と小林信子とを、その「Self-Portrait」の側面において重ね、日本の女性知識人による翻訳の稀有さを示す。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『枕草子』の抄訳。本文は、いわゆる日記的章段を軸に54項目を立項。ただし小項目(右頁上段に項目名を記す)を含めると計115。小林の全訳からL. Adams Beck(L・アダムス・ベック)が選択。

「春は曙」(Before She Becomes a Court Official)に始まり、「賀茂へまゐる道に」(Kamo Shrine)の段に含められた小項目「故殿の御ために」(Lords of a little day)を末尾とする。翻訳は、木村毅が「平明で、素直ないい文だ」(岡倉由三郎)という評言を引くように、逐語訳というよりも平易に内容を伝えるもの。活字版だが、手書きで校訂を加えたまま印刷している。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

「東洋の知恵 Wisdom of the East」シリーズの1冊。翻訳者の人物と翻訳の経緯は、木村毅がふれる。訳者は、真言宗東寺運営の済生病院長小林参三郎の妻。参三郎は岡田式静坐法を医療に取り入れた人物。信子はハワイ開業に同道し、3年程滞米した。静坐社は1928年、参三郎の死を契機に、「岡

田式静坐法」振興のために信子が設立した。機関誌『静坐』。設立と編集は信子による。木村毅『世界の女性を語る』（千倉書房、1933）によれば、このもととなる訳稿は Waley 訳の 10 年ほど前に、「日本の女性が着手しなければ恥だ位の意気込みで」完成されていた。山邊習学の紹介により The Wisdom of The East (東方智識叢書) から刊行する予定だったが果たせずにあった。Waley 訳刊行予定の報を得、せめて Waley 訳の下訳に供すべく渡欧する木村に託した。しかし、Waley の作業は既に校了しており、小林稿は用いられなかった。その後、カナダの女性作家 L. Adams Beck (別名イー・バーリントン) によって刊行が実現した。これらの人物を繋ぐのは「東洋」や「静坐」であり、これを信子の「隠し芸」とする木村評は的確と言うべきだろう。L. Adams Beck には『東洋哲学物語』（アルス、1930-1940）などがある。

(福田秀一・服部訓和)

■ タイトル THE PILLOW BOOK OF SEI SHONAGON

翻訳者 Ivan Morris (アイヴァン・モリス)

出版社

Columbia University Press, Oxford University Press

刊行年 1967 年

Columbia、Oxford 両大学出版部から同時に刊行された。全く同内容だが、本文編の前付に僅かの違いがあり、特に Columbia 版は同大学東洋古典翻訳シリーズとして責任者 Wm. Theodore de Bary の Foreword がある。

1970 年版 (Penguin Books)。Ivan Morris による清少納言『枕草子』の英訳。1967 年に Oxford University Press・Columbia University Press より同時刊行したものの再版本。

表紙は国宝『源氏物語絵巻』「鈴虫二」。解説（9～19頁）、本文（21～264頁）の内容は初版とほぼ同じ。ただし、解説で、2巻立てのOxford Columbia版をペーパーバック1冊にまとめるにあたり、地名などを列挙する段や、主に専門家の関心を引く段を省略したことを断っている。本文は、地名（「山は」の類）その他名詞列挙（「月は」の類）の段や一般の興味を引かないと思われる段を省いて185段の採録。巻末には注と付録（265～410頁）を収める。後半には、「注」（訳文の該当箇所番号を付した584項）と「付録」として「1. 暦」（前掲書の3に説明を増補したものと1を簡略化したものとを併せる）、「2. 官制」（文章で説明）、「3. 地名」（畿内・都周辺・平安京の3図に番号を記入して検索する）、「4. 服装・殿舎等」、「5. 年表」の5項、そして「より深く読むために」を収める。

頁数 巻1-268頁、巻2-326頁

序文・解説の内容と概略

「解説」では、作者の伝記がほとんど知られないこと、李商隱と『枕草子』に関する見解成立の動機・年代、当時散文文学は他にもあったが散逸したこと、構成と諸本、伝来、文体（「をかし」「いと」などの反復）とその翻訳の困難、逐語訳や繰返しは避けたが内容的には原文に忠実とした（部分的な省略や移動は控えた）こと、官職名の訳語は主としてR. K. Reischauer（R・K・ライシャワー）のEarly Japanese Historyによったことなどが、章や節を立てずに述べられている。

翻訳に用いた底本情報

金子元臣『枕草子評釈』が示した春曙抄本〔系統〕の全文に加えて、そこに見えない段を、池田亀鑑・岸上楨二・秋山

虔校注『日本古典文学大系 枕草子・紫式部日記』（岩波書店、1958）から補い、注解には田中重太郎校注『日本古典全書 枕冊子』（朝日新聞社、1947、底本は三巻本系統の陽明文庫本）をも参照したとある。これは春曙抄本と三巻本系統の双方に基づくためとする。全体は326段となっている。

翻訳内容の構成、章立

『枕草子』の英訳。各段ごとに英語でタイトルを付す。これは『枕草子評釈』の目次の見出し語を元としている。「～なるもの」の段では、原文の1句ごとに改行し（「山は」「河は」のような段はそうにしたものとししないものとある）、一部のみを引かれた古歌もその場で詠まれた歌と同様改行して掲げ、読者に理解しやすくしている。なお、その場の詠歌は長短不定の3～5行とする。また、地名の意味に限り、直訳を脚注に示している。例えば「かしこ淵」を訳した「The Pool of Kashiko」の「Kashiko」に「Wisdom」と注するごとくである。

第2巻は本編と同じサイズの別の手引き書。全編より年中行事等計1,161箇所が付された語注、登場人物解説、十二支による古時刻、古方位について、関連年表（各年代に関連する章段についても一覧する）、天皇家・藤原家系図、官位相当表、平安時代風俗に関する画、和歌一覧がある。

「付録」には、以下の10項目。

- 「1. 作品に見える年中行事」
- 「2. 登場人物」（箇所ごとの動静）
- 「3. 干支」（時刻の図解など）
- 「4. 年表」（年月の判る段の検索表とその逆の表とを付す）
- 「5. 金子評釈・古典大系・古典全書との章段対照表」
- 「6. 系図」（皇室と村上源氏、藤原・清原・高階各氏の世代

表とそれぞれの系図と)

「7. 官制と位階表」

「8. 図版」(服装・殿舎・乗物・楽器その他)

「9. 地図」(諸国、畿内、平安京とその周辺、平安京、大内裏、内裏、清涼殿)

「10. 詩歌」(注に示した引用詩歌の作中における引用され方)

図版、挿絵の有無

2冊セット本。2冊ともに表紙には『枕草子絵巻』から東宮妃である淑景舎入内の段の一節を使用。東京国立博物館所蔵『枕草子絵巻』からは書中にも「雪山の段」などの場면을7葉載せ、各画に関する解説を付す。

参考文献の有無

「参考文献」(複製本や注釈書・研究書とその他の日本古典文学を含む欧文の翻訳や研究書など) および57頁にわたる「語彙」(作中に見えて「注」にローマ字で示した語句や人名等の説明で、一種の古語辞典と言える)を添える。

索引の有無 有

(福田秀一・七田麻美子・山田紘一郎)

■ タイトル

**The pillow book of Sei Shōnagon :
the diary of a courtesan in tenth-century Japan**

翻訳者 Arthur Waley (アーサー・ウェイリー)

出版社 Tuttle Publishing

刊行年 2011年

頁数 127頁

序文・解説の内容と概略

Dennis Washburn (デニス・ワッシュバーン) による序

文がある。また、翻訳者による翻訳記録があり、翻訳の分量、翻訳をすること、底本について述べている。

翻訳に用いた底本情報

慶安版本『枕草子春曙抄』が底本である、金子元臣『枕草子評釈』（明治書院、1924・1926）

翻訳内容の構成、章立

本文の翻訳の他に、翻訳者による「10世紀の日本」、「清少納言の『枕草子』」、「清少納言の性格」についての解説がある。

図版、挿絵の有無 家系図が載っている。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槿子)

■ タイトル

Worlding Sei Shônagon :

The Pillow Book in Translation

翻訳者 Valerie Henitiuk (ヴァレリー・ヘンニチュック)

出版社 University of Ottawa Press

刊行年 2012年

頁数 312頁

序文・解説の内容と概略

『枕草子』は135年の間に16の言語に翻訳されており、その翻訳本を紹介している。翻訳者は、『枕草子』が何度も翻訳された理由として、清少納言の叙情詩的な文体・説得力のあるイメージ・個人としての声が、ヨーロッパ人の心をつかんだのではないかと述べている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

冒頭である「春はあけぼの」の章段を、約 50 の翻訳本から抜粋して掲載する。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無 有

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槇子)

日記

■ 土佐日記

■ タイトル

LOG OF A JAPANESE JOURNEY FROM THE
PROVINCE OF TOSA TO THE CAPITAL

by Tsurayuki with Illustrations by Toshio Aoki

翻訳者 Flora Best Harris (フローラ・ベスト・ハリス)

出版社 Flood & Vincent (Meadville, Pa.)

刊行年 1891 年

萩谷朴校注『日本古典全書 土佐日記』（朝日新聞社、1969）の解説によれば、「Tosa Nikki」と題した1910年の教文館刊本もあるという。

頁数 54 頁

序文・解説の内容と概略

冒頭の「訳者のことば」で女性仮託を優れたユーモアと見なし、できるだけ逐語的に訳したと言う。直訳や音訳だけでは伝わらない the hour of the Dog や hanamuke, Kokubunji などは脚注で説明している。和歌は4行に訳したものも多いものの、6行あるいはそれ以上としたものもある。かなり情報を付加して脚韻を揃えているものが多い。しかし散文の部分はきれいな英語のようである。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『土佐日記』の英訳。本文は24章からなる。「船旅なれど

馬のはなむけ」などの章名は訳されていない。

図版、挿絵の有無

表紙（メイン・タイトルのみ）は漢字・仮名に似せた飾り文字、扉・中扉にも漢字の飾り文字がカット風に入れられている。巻頭の松の根元に座る紀貫之の像以下風景・風俗の挿絵 13 枚は、青木敏雄によるもの。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

訳者は米国ペンシルヴァニア州ミードヴィルの出身。明治初年夫君 M・C・ハリスと共に伝道のため来日し、函館・弘前などにも足跡を残した（そのことは次掲対訳書の解説に詳しい）。しかし、明治 10 年出産のため帰国して翌年迎えに行った夫君とともに再来日する太平洋の船上で生後間もない令嬢を亡くした。前から日本の古典文学に親しんでいた夫人が本作を翻訳したのは、このことが大きな契機となっていると考えられる。

（福田秀一）

■ タイトル

土佐日記（或る日本人旅行記）：

Log of A Japanese Journey

翻訳者 Flora Best Harris（フローラ・ベスト・ハリス）

出版社 新谷武四郎（出版者）

刊行年 1973 年

初版、再版年、国別等

1891 年に Flood & Vincent から出版された Flora Best Harris 『LOG OF A JAPANESE JOURNEY From the

Province of Tosa to the Capital』の日本版。

頁数 161 頁

序文・解説の内容と概略

左頁に前項書（青山学院本）の影印と対応部分の原文（横組み）、右頁に英訳の和訳を示す。

弘前学園長村中末吉による日本語の「推薦の言葉」（1～3頁）は、詩想豊かなハリス夫人が明治初年に『土佐日記』を英訳し、それがアメリカで出版されたことは日本文学史上特筆すべきことだという。

新谷武四郎による日本語の解説「ハリス夫人と土佐日記」（4～8頁）では、ハリス夫人の人となりを紹介。ハリス夫人が愛娘を太平洋上で亡くした事実を指摘し、翻訳の理由を故郷を遠く離れた所で愛児を失った親としての悲嘆追慕の情が共通している点に求める。また、優れた翻訳であり、信仰の問題からも重要な文献で、広く読まれることを希望するという。

古典原文とハリス英訳、新谷日本語直訳を併列対称させた理由としては、原典と英訳の相違、日本文学の理解度、日本の古典の風物・習慣等に関する研究・理解が何え、興味深いからだと述べる。「翻訳者の言葉」では、日本の古典の魅力を「白梅の花」に喩える。

翻訳に用いた底本情報

無。ハリス英訳は青山学院所収本を底本とする。

翻訳内容の構成、章立

Flora Best Harris による『土佐日記』の英訳、及び新谷武四郎によるその日本語訳。本文（10～161頁）は、偶数頁の左側に古典原文、右側にハリス英訳、奇数頁に新谷日本語直訳のレイアウト。ただし、挿絵の場合は偶数頁の真ん中

に配置。和歌の行数は4～6行と不統一。修辞は脚注で説明する。

図版、挿絵の有無

表紙の副題は漢字・仮名を模した飾り文字で記す(「木」「未」の文字は単なる装飾)。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者名はハリス夫人と表記。本の幅は26cm。翻訳者 F. B. Harris は米国領事の夫と共に渡日。夫妻は米国メソジスト監督教会の牧師として函館で布教活動を行い、女子教育の必要性を感じて遺愛学院の前身、カロライン・ライト・メモリアルスクールを開校。詩作も行い、新谷武四郎訳『ハリス夫人詩集』私家版(1971)にまとめられている。新谷武四郎は津軽の東奥義塾長を勤めた。

(福田秀一・可児洋介)

■ タイトル THE TOSA DIARY by Ki no Tsurayuki

翻訳者 William N. Porter (ウィリアム・N・ポーター)

出版社 Henry Frowde

刊行年 1912年

1981年版(Charles E. Tuttle)。冒頭に「刊行者まえがき」を加え、後見返し of 航路地図を省いて、全文をそのまま復刻したもの。初版本所収の「貫之の旅の航路図(The sketch of Ki no Tsurayuki's route)」の部分は割愛する。

頁数 148頁

序文・解説の内容と概略

解説(3～10頁)は翻訳者自身による。作品と作者につ

いて略述。

翻訳に用いた底本情報 群書類従本か日本古典全書本。

翻訳内容の構成、章立

『土佐日記』のローマ字書きの原文と英訳とを対訳にしたもの。本文(12～133頁)は、見開き左側に日本語本文のローマ字表記を、右側にその英訳を併記する。特に注意を払うのは和歌で、ローマ字表記本文で5-7-5-7-7を1句ずつ改行し、さらにその中の単語を句切って記載する。

これは恐らく1911年に百人一首の翻訳を手がけた著者の経験に基づく配慮であり、英語圏の人々の和歌の理解に当時大いに役立つものであった。桜・梅・紅葉・桔梗などの紋を章立てごとにマークのように付す。散文の部分に関しても、複合語の間に「-」を打つなどの工夫がなされている。注(134～148頁)。

図版、挿絵の有無

表紙には舟に乗る烏帽子姿の男と寄り添う女、海に浮かぶ小島を描く後見返しに入れた航路を示す地図の地名は、主に海軍水路部の海図によるという。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

翻訳者 Porter はアイルランドのウェリントン生まれ。モーゼル・カレッジ卒業。Porter の履歴は、植村直己「第五高等学校外国人教師履歴」(『熊本大学教養部紀要』22号、1987)に詳しい。以下植村論を参照しつつ略歴を紹介する。

1908年にはオックスフォード大学にて日本語・日本文学の研究に進む。翌年には『A Hundred Verses from Old Japan: being a translation of the Hyaku-nin-issui』

(Clarendon Press, 1909、『小倉百人一首』英訳) を刊行。続けて『A Year of Japanese Epigrams』(Frowde, 1911、発句集英訳)、『The Tosa Diary』(Frowde, 1912、『土佐日記』英訳)、『The Miscellany of Japanese Priest』(Humphrey Milford, 1914、『徒然草』英訳) を出版。石橋和訓・有島生馬・平井武雄などの留学生と、オックスフォード・リヴァプール周辺において文化的な交流を持つ。1915年2月から、日本の旧制神戸第二中学校で英語教師を務める。1916年8月から1925年3月まで、ラフカディオ・ハーンも在籍した旧制第五高等学校に、御雇外国人教師として在職。語学教育に力を注ぐ。熊本県の黒髪北地区に暮らし、周囲の人々には「ポーター」という愛称で呼ばれる。

現在も彼の在職当時の蔵書35点が熊本大学附属図書館に特殊文庫として保存されている。その多くは上記翻訳群に関する和書、翻訳書など。同蔵書には詳細な書き込みがあり、さらに添付紙片にも和歌や発句逐一に関する綿密な解釈やメモがある。メモ用紙にはPorterの住まいであった「Buena Vista Hotel」のメモを多用。当時の一欧州人が日本文学をどのように享受・翻訳し、輸出したのかを考えるための貴重な資料といえる。

なお同大附属図書館のホームページではPorterの牛乳配達業経営などを紹介する。

(福田秀一・服部訓和・大津直子)

■ 蜻蛉日記・道綱母集

■ タイトル

KAGERŌ NIKKI :

Journal of a 10th Century Noblewoman

翻訳者

Edward Seidensticker (エドワード・サイデンステッカー)

出版社 The Asiatic Society of Japan

刊行年 1955年

頁数 258頁

序文・解説の内容と概略

翻訳者による解説は6節からなり、『蜻蛉日記』の性格や「かげろふ」の語義、作者の家系・略伝、伝本と研究史、“写実性”と『源氏物語』に至る文学史的位置、当時の思想や殿舎・服装等の説明、参考文献・留意点等を記す。また、多数の和歌は長歌以外ほとんど韻文とせず、二重引用符を付した会話の中に一重の引用符で囲んで示したことと、人名は用いず兼家は“the Prince”、道綱は“the boy”のように統一したことを断る。

翻訳に用いた底本情報

喜多義勇校訂『日本古典全書 蜻蛉日記』（朝日新聞社、1949）、喜多義勇校訂『蜻蛉日記』（岩波文庫、岩波書店、1942）

翻訳内容の構成、章立

『蜻蛉日記』の英訳。上中下3巻のほか、後の版にはない巻末歌集の全訳を収める。本文はBOOK 1～3とし、1（上巻）には年ごとの見出しを立てて自伝風に、2～3は一人称

小説風にして明快な訳とする一方、各巻末に注として、人物・地名や懸詞・引歌などの修辞、風習、さらには文意が確定できない箇所の補説などを記す。本文（31～167頁）は年毎にわけ、それぞれ年号と西暦を示す。また呼称は、兼家は the Prince、道綱は the boy、時姫は the lady に統一。巻末には注と図録がある（169～208頁）。注には地名や和歌に関する説明も多い。ローマ字書きと対訳にした右頁の和歌は、各行をできるだけ5-7-5-7-7の音節数に近づけている。末尾に『道綱母集』の訳を付す。『道綱母集』は散文体に訳し、その分類を記号や字体で示す。

図版、挿絵の有無

『春日権現絵巻』、『伴大納言絵巻』、『年中行事絵巻』、『石山寺縁起絵巻』から、殿舎・服装・祭礼行列等の図などを掲載する。京阪地区の地図をモノクロ図版7葉を入れる。挿絵には、伏見稲荷、榊、簾を下した牛車、沓のモノクロ写真を載せる。

参考文献の有無 和文・英文一括のものがある。

索引の有無

詳しい索引（地名・人名・作品名、官職・調度名等）を付す。

メモ・その他

「The Transactions of The Asiatic Society of Japan, Third Series, Vol. 4」。The Asiatic Society of Japan（日本アジア協会）は1872年に横浜で設立された、日本初の学会である。創設者はヘボン、パークス、アーネスト・サトウら。初期のメンバーにチェンバレン、アストン、森有礼、新渡戸稲造ら。現在も紀要の公刊及び月例の講演を中心に活動が続いている。翻訳者 Seidensticker は、アメリカのコロラド州生まれ。コロンビア大学出身。川端康成や谷崎潤一郎の

翻訳、『現代日本作家論』（1964）、『東京下町山の手 1867～1923』（1986）、『流れゆく日ターサイデンステッカー自伝』（2004）などの著書がある。日本翻訳文化賞を3度、川端康成『山の音』での全米図書賞（翻訳部門、1970）、日本文学を世界に紹介した功績で旭日三等勲章を受賞。

（福田秀一・大内英範）

■ 蜻蛉日記

■ タイトル

THE GOSSAMER YEARS :

The Diary of a Noblewoman of Heian Japan

翻訳者

Edward Seidensticker（エドワード・サイデンステッカー）

出版社 Charles E. Tuttle Company

刊行年 1964年

初版は、1955年(the Asiatic Society)。再版は1973年(ペーパーバック版)。2001年(Tuttle Publishing)。

頁数 201頁

序文・解説の内容と概略

解説（7～29頁）によると、翻訳上の留意点は、以前の翻訳の誤りを正すこと、本文批判、本文を忠実に訳出すること、の3点である。鈴木知太郎、川口久雄、遠藤嘉基、西下経一校注『日本古典文学大系 土左日記 かげろふ日記 和泉式部日記 更級日記』（岩波書店、1957）による研究進展状況を踏まえている。

末尾の「改訳について」（Japan Quarterly Vol. VII, No.4, 1960）は、文学作品翻訳の問題点や本作の訳題にウェーリー

の用いた gossamer (言わば遊糸) の語を採った経緯なども述べてある。表題には、「蜻蛉」の語義とされる従来の説(「a mayfly (蜻蛉の虫)」「a heat wave (陽炎)」)を採らず、日本古典文学大系の「薄い蜘蛛の糸」説を採用する。これは Arthur Waley の英訳にも使用され、より詩的で文献的な題である、とする。内容に関しては、作者の系譜と社会的位置を系図(藤原氏、天皇家)も示して説明し、夫兼家との確執と妻妾への嫉妬(悪意)が作品内に多くみられること、及び作者は歌物語のように過去を回想している、と分析する。また、下巻を『源氏物語』に匹敵するものであると評価している。その他、平安時代の宗教、風俗、習慣、建築様式など、例を挙げて紹介する。また、既存の翻訳書、研究書にも触れる。

翻訳に用いた底本情報

鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基・西下経一校注『日本古典文学大系 土左日記・かげろふ日記・和泉式部日記・更級日記』(岩波書店、1957)

翻訳内容の構成、章立

翻訳部分(31～167頁)は、『蜻蛉日記』3巻分を年号毎に段落分けし、「The Eighth Year of Tenryaku (954)」のように西暦を付した後、翻訳する。末尾に注釈を付す。

図版、挿絵の有無

口絵とした『石山寺縁起絵巻』の1葉を最後に加え、巻末に「付録中古施設の絵と地図」を付す。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

「Unesco Collection of Representative Works : Japanese Series (ユネスコ代表的作品選集日本シリーズ)」の一

冊。出版社 Tuttle はこの他にも Edward Seidensticker 『A Strange Tale from East of the River, and Other Stories』(永井荷風『東綺譚』他英訳)等の日本文学・文化に関する書籍を数多く出版。

(福田秀一・岩原真代)

■ タイトル THE KAGERŌ DIARY

翻訳者 Sonja Arntzen (ソニア・アルンツェン)

出版社

Center for Japanese Studies, The University of Michigan

刊行年 1997年(ペーパーバック版)

1998年にハードカバー版も刊行。

2012年にオンデマンド版(lulu.com)。こちらのタイトルは、『The Kagero Diary: A Woman's Autobiographical Text from the Tenth Century Study Guide』。

頁数 xv + 415頁

序文・解説の内容と概略

上中下各巻及び巻末歌集のはじめに、それぞれ Summary を付す。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『蜻蛉日記』上中下3巻及び巻末歌集の英訳。

左頁に注釈、右頁に本文を配し、和歌はローマ字と英訳の併記の形となっている。エドワード・サイデンステッカーによるテキストをもとにした研究ガイドで、概要と分析が含まれる。

図版、挿絵の有無

表紙は Asian Art Museum (サンフランシスコ)所蔵の、『源

氏物語屏風（江戸時代）』による。途中、多くの写真を掲載し、内容理解の補助としている。写真はすべて訳者による。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

『Michigan Monographs in Japanese Studies』 Number 19. Sonja Arntzen は、British Columbia 大学で日本文学の博士号を取得し、Alberta 大学助教授を経て、刊行当時トロント大学教授。

2012 年版は、オンデマンド出版を行う lulu.com より刊行。

(福田秀一・大内英範)

■ 和泉式部日記

■ タイトル

THE IZUMI SHIKIBU DIARY :

A Romance of the Heian Court

翻訳者 Edwin A. Cranston (エドウィン・A・克蘭ストン)

出版社 Harvard University Press

刊行年 1969 年

頁数 x + 332 頁

序文・解説の内容と概略

解説では、1 章で和泉式部の略歴について述べ、2 章では、記述、本文研究史、著者と成立、ジャンルの問題、翻訳の注記、にわけて『和泉式部日記』について詳述する。平安時代中期文学の地理歴史的あるいは自然的環境と当時までの英訳（ウェーリー訳『源氏物語』と『枕草子』、サイデンステッカー

訳『蜻蛉日記』)について簡単に述べる。もとは1965年にスタンフォード大学に提出した学位論文である。その過程でサイデンステッカー、W・マッカラウなどその他、来日しては遠藤嘉基に指導を受けたことを記す。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『和泉式部日記』の英訳と研究。本文は大きく「序説 Introduction(4頁)」と「和泉式部日記:平安宮廷の一物語(3~127頁)」とからなる。頁数の半分近くを占める前者は本格的な研究で、後半の「訳文編(131~191頁)」に対して「研究編」と呼ぶのが至当である。

「1 和泉式部」「2 和泉式部日記」の2章を立てている。1は、家集や当時の記録と岡田希雄から吉田幸一に至る文献を博搜した彼女の略伝。2は、作品研究で、「A 叙法」「B 本文史」「C 作者と成立」「D ジャンルの問題」「E 訳出に当たって」の5節からなり、固有名詞や奥書などは漢字の原文も示したのものもある。

Aは、三人称叙述のことや敬語用法とか話法とかにみる主人公と宮との性格などを論じ、Bは吉田の分類に従って三条西本以下の諸本とその成立を解説してそれらを基にした近代の注釈にもふれる。Cはまず戦前以来の他作説を要約し、外部徴証・寛元本奥書・内部徴証のそれぞれが自作説または他作説にどう加担するかを、川瀬・吉田・山岸その他の論を引きつつ検討する。その結果、決定的なことは言えないが学界の多数は自作説で、特に俊成あるいは健寿御前の作とするのは困難だがそれも完全に否定されていない、と結んでいる。

DはCとともに労作で、当時の日記の概念(公私や文体にかかわらず事実の記録)から散文文学に見られる抒情性と韻

文・散文の混交、万葉以来の自伝文章、私家集・歌物語・日記文学の相互近似などについて述べ、本作は本質的に他作の歌物語だが、果たしてそうかまたは虚構の多い回想かは、作者が決まるまでは読者に委ねられている、と言う。

最後の E は先行の独訳と大森安仁子・土居光知の英訳 (Diaries of Court Ladies of Old Japan) を挙げた後、今回の訳は後者 (6つの挿話その他多くの語句を省く) と底本も訳文も異なること、三条西本 (注、影印本か) をもとにして、原文に忠実かつ読むに耐える英語とし (やや意識とした箇所は注に直訳を示す)、掛詞も生かそうとしたが、和歌は5行とはしたものの韻律は無視し、音節数は必ずしも守れなかったことなどを断っている。

A～Dは当時の日本の学界水準を出てはいないが、文献を博搜してそれを完全に消化し的確に駆使して詳細な論を展開しているのは、当時としては画期的なことである。

訳文は、女主人公を「彼女 She」として地の文は読みやすい英語、和歌はローマ字書きの原文と訳との各5行を対比して示す。研究編・訳文編ともに詳しい注、「文献」(『和泉式部日記』、式部とその家集、一般、歌集、その他に分け、漢字を添える) を付す。長く日本古典文学研究の模範とされてきた著作である。

図版、挿絵の有無

表紙は、冷泉為恭 (れいぜいためちか) [1823-1864] によるか。『聯珠百人一首』の和泉式部を掲載する。

参考文献の有無 有

索引の有無 「和歌初句索引」「索引」(人物・書名・事項等)

メモ・その他

「Harvard-Yenching Institute Monograph Series 19」。

Edwin A. Cranston は、マサチューセッツ生まれ。1966 年に日本文学の博士号取得。この他、『A Waka Anthology, Volume One : The Gem-Glistening Cup (和歌詩選第一巻：珠玉の杯)』（スタンフォード大学出版、1993）を出版、日米友好委員会賞を受賞。刊行時ハーバード大学で日本文学を教える。

(福田秀一・大野祐子)

■ 紫式部日記・紫式部集

■ タイトル

Murasaki Shikibu : Her Diary and Poetic Memoirs

翻訳者 Richard Bowring (リチャード・バウリング)

出版社 Princeton University Press

刊行年 1982 年

頁数 ix+290 頁

序文・解説の内容の概略

第一部に紫式部の生涯を論じ、二部と三部には『紫式部日記』と『紫式部集』の翻訳を發表し、両方に序文を加えている。特に『紫式部日記』の注釈は詳細である。片面に翻訳を記し、もう一面に注釈を施して、読みやすい。

(NOTE : Revised translation published as The Diary of Lady Murasaki Shikibu, Penguin Classics, 1996)

紫式部の生涯を論ずるにあたり平安朝貴族社会の事にも言及する。本文の解説はより詳細で、日記構成、『栄花物語』との関係、成立、ジャンル意識、本文と写本系統の歴史などに触れる。『紫式部日記絵詞』の事も述べる。『紫式部集』の

解説序文は歌集を自伝と想定しない態度を示し、注釈では「紫」という呼称を使用しているが、それぞれ「女」などにも入れ替えられる、と述べる。哀愁と自己感が強い歌が多いと指摘。各歌ごと注釈を加えており、それらは詞の意味、背景、他の歌との前後関係などを指摘。翻訳とローマ字音訳 (transliteration) を含む。

翻訳に用いた底本情報

黒川本を用いる萩谷朴『紫式部日記全注釈 上、下』(角川書店、1971-73)を基として、池田亀鑑・秋山虔校注『日本古典文学大系 枕草子・紫式部日記』(岩波書店、1958)、池田亀鑑『源氏物語考証』(1961)、中野幸一編『日本古典文学全集 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』(小学館、1971)、曾沢太吉・森重敏『紫式部日記新釈』(武蔵野書院、1964)も参照。

翻訳内容の構成、章立

日記の翻訳は萩谷朴に従って80段に分けている。意味が明確でない箇所は、本文のローマ字音訳も付す。付録として、補注(日記冒頭の年代の問題、「はべり」の使用法、女性の衣類、李白のことなど)、登場人物索引、歴史的背後、土御門邸や一条邸の図、などを含む。歌集の付録としては、歌集にみられない紫式部作の歌、定家本と古本の違い、『紫式部集』と勅撰集の関係、序文の校訂など。

図版、挿絵の有無

『紫式部日記絵詞』から白黒挿絵8枚。『日本絵巻大成9』(中央公論社)、藤田美術館、五島美術館、日野原家から。

参考文献の有無 日本語、英語あり。

索引の有無 総合索引、人名索引、和歌冒頭索引有

メモ・その他

『紫式部集』が収録されているが、「日記」を中心的に扱っているため、本書では「日記」カテゴリーに収録した。

(サトコナイトウ・伊井春樹)

■ 更級日記・紫式部日記・和泉式部日記

■ タイトル

DIARIES OF COURT LADIES OF OLD JAPAN

翻訳者

Annie Shepley Omori (大森安仁子)、Kochi Doi (土居光知)

出版社 Houghton Mifflin Company

刊行年 1920年

1935年版(Kenkyusha)。改訂版。「解説」から「付録」まで、全文をそのまま保持し、服装・調度などの図版のみ省く。1961年に第2刷、1963年に第3刷。

1961年版(Kenkyusha)。1935年版の改訂新版。カバーは寝殿造の図。『更級日記』1枚、『紫式部日記』2枚、『和泉式部日記』4枚、それぞれの場面にあわせた挿絵を載せる。内容はほぼ同じ。

1970年版(Ams Press)。内容はほぼ同じ。異なるのは、カラー図版はモノクロとし、3つの日記ごとの挿絵の他に、扉絵には正装をした女房の立ち姿を掲載し、服装・調度などの図版も盛り込んでいることである。

2012年版は、昭和9(1934)年に研究社から出版されていた本の再版。出版社はGeneral Books。タイトルは『Diaries of court ladies of old Japan : Murasaki Shikibu and Izumi

Shikibu』となっている。

頁数 201 頁

序文・解説の内容と概略

解説（9～29頁）は、アメリカの女流詩人 Amy Lowell による。日本文化の発生から大陸文化の移入、平安時代の政治と貴族生活（例えば旅や信仰）の一斑を時に西洋中世と対比して説き、三つの日記の作者とその内容・特質を略述している。西欧の文化が開花しない時代に高度な文化社会があり、それを記録する女性がいたということを絶賛し、美しい叙情と自然の描写、複雑な人間関係による微妙な感情の揺れなどが詳細に美しく描かれていることを説明する。平安時代・京都のお寺などについて述べる。さらに、「発句（Hokku）は、短歌の下の句を削ったものである。」と説明し、俳句についても触れる。

翻訳に用いた底本情報 『和泉式部日記』は群書類従本と推測。

翻訳内容の構成、章立

『更級日記』、『紫式部日記』、『和泉式部日記』の英訳に解説を冠したもの。訳文は、「都」を Royal City、帝・后を「King」「Queen」とし、「九月（ながつき）」を Long-moon month とする。和歌は長短不定の2～5行とし、若干の史実、人物比定、風習その他を脚注で説明する。末尾に「付録」として、「A 旧暦」（その異名の直訳）「B 関連年表」（974 和泉式部生誕から 1021 孝標女帰京まで）の二つを添える。本文は三作品『更級日記』（1～70頁）、『紫式部日記』（71～150頁）、『和泉式部日記』（151～204頁）それぞれの全訳。

図版、挿絵の有無

巻頭および途中に男女の服装（『国史大辞典』吉川弘文館）や殿舎・調度の図、版本の挿絵などを示す。その他、古代日

本の12ヶ月の説明と登場人物の年表を載せている。

参考文献の有無 無

索引の有無 有。2012年版はなし。

メモ・その他

翻訳者大森安仁子は、アメリカのミネソタ州出身。旧名はアンニー・シェプレ。1909年日本人大森兵衛と結婚し帰化する。その後、東京の淀橋区柏木に私財で有隣園を設立し、恵まれぬ児童を保護した。夫の死没後も日本に留まり、30年余にわたって社会事業の面で大きく尽力する。また『紫式部日記』、『聖徳太子』を英訳している。

翻訳者土居光知は、元東北帝国大学法文学部西洋文学第一講座担任教授。この他、『ブレイク詩集』(平凡社ライブラリー)などの翻訳も手がける。英文学研究室を大正13年に発足。英文学者・比較文学者。

Kenkyusha (研究社) は、1907年の創業。一貫して英語関連の出版事業に携わる。創業当初から、つねに世界に開かれた出版をモットーとしてかかげ、辞書・書籍・雑誌の領域において出版物を刊行した。

(福田秀一・菅原郁子)

■ 更級日記

■ タイトル

AS I CROSSED A BRIDGE OF DREAMS :
Recollections of a Woman
in Eleventh-Century Japan

翻訳者 Ivan Morris (アイヴァン・モリス)

出版社 The Dial Press

刊行年 1971年

1973年版 (Harper & Row, Publishers)。ペーパーバック版。表紙は Emanuel Schongut による美人画、裏表紙は Thomas Lask、Curtis W. Stucki、Santha Rama Rau の書評の抜粋。本文は初版とほぼ同じ。縮小版のため、「解説」や「訳文」「注」の組版も同一だが、頁の左右の余白を減らし、段落番号が各段落冒頭の外側にあったものを段落の直前に移す。表紙の裏の地図の挿絵を本文の中に折り込むなどしたため、索引・注 (156～160頁) などの頁数が少し異なる。しかし、序文 (11～38頁)・翻訳部分 (39～122頁) などは体裁も同じ。

1975年版 (Penguin Books)。ペーパーバック版。表紙は、東京国立博物館蔵『聖徳太子絵伝』。序文 (1～29頁)、本文 (31～110頁) と頁数のみ異なる。内容は初版と同じ。ただし、頁組や段落番号の体裁は改め、写真は削り、3葉の地図は「解説」の前にまとめて掲載する。

頁数 159頁

序文・解説の内容と概略

巻頭に翻訳者の著作一覧がある。解説 (11～38頁) は訳者自身による。『更級日記』の作者の生い立ち、当時の社会状況と人物関係、注釈史等に触れ、また、作者の執筆動機を肉親との死別と死の予感にある、とする。注釈史では、特に近世国学の本居宣長とその門人による、父孝標の官職をめぐる問答をとりあげ (常陸守説と下総守説)、一般には上総介とされている事を示唆する。本文研究に関しては玉井幸助の定家本の錯簡を発見した挿話を示して、現在の本文に至った経緯等を紹介する。

翻訳に用いた底本情報

宮田和一郎校注『更級日記 評釋』（麻田書店、1931）、西下経一校注『日本古典文学大系 土佐日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・更級日記』（岩波書店、1964）、いずれも定家本を底本とするものを使用している。

翻訳内容の構成、章立

『更級日記』の英訳と研究。翻訳部分(39～122頁)は『更級日記』の本文を34段落に分け、段落番号を付す。巻末に注と索引(123～159頁)を付す。目次には記事の年次を付す。一般読者を対象とする為、和歌は意味を主として音節数不定の2～5行としている。人名・地名・花鳥名や仏教語、稀に引歌や宮廷行事のほか、訳文だけではわかりにくい語句や参考のために直訳を示す箇所などは、その行の端(頁の外側)に番号を打って末尾の「注」で説明する。なお、この方式は、先行の『The Pillow Book of Sei Shonagon』を踏襲したもの。

図版、挿絵の有無

表紙は国宝『源氏物語絵巻』「東屋一」、浮舟が絵物語に親しむ場面。挿絵は、1704年の絵入版本より絵を挿入する(清水寺、長谷寺、平等院、鞍馬寺は現代の写真)。なお、前後の見返しには、「地図1 上総から都への旅」と「地図2 都とその周辺」(日本海・伊勢神宮・吉野・住吉浦を入れる)および「地図3 洛中」(いずれも絵図風で、墨絵画家の手になる)とを掲載する。

参考文献の有無 無

索引の有無 有

メモ・その他

翻訳者がタイトルに用いた語「夢浮橋」は、『更級日記』中にはないが、夢が繰り返し描かれている点、『源氏物語』

の「夢浮橋」のように、人生をはかないと捉えている点からタイトルとしている。翻訳者 Morris はロンドン生まれ。ハーバード大学にて日本語・日本文学・日本文化を学び、1968年にロンドン大学で D. Litt. (文学博士号) を取得。日本文学の研究者。日本での居住経験があり、晩年はコロンビア大学で日本史、日本文学を講義した。その論考は古代から近代まで幅広い。日本文学の翻訳作品も多数ある。翻訳に『金閣寺』『枕草子』、著書に『The World of the Shining Prince : Court Life in Ancient Japan』、『The Tale of Genji Scroll』等がある。

(福田秀一・岩原真代・森田幸・菅原郁子)

■ タイトル Sarashina Nikki (更級日記)

翻訳者 原順子

出版社 近代文芸社

刊行年 2000年

頁数 86頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者自身による(1頁)。「The nature of Sarashina Nikki」と題し、孝標女の人生を概略する。詳しい(6頁)「更級日記年表」がある。『更級日記』のテーマが、物語一辺倒の人生が時に矛盾しながらも信仰を内在した人生に変化する点であると、翻訳者は考えている。序文に続いて、孝標女の誕生から52歳までの出来事をまとめた年譜が置かれている(4～9頁)。年譜には、日記中の出来事を中心に、天皇・年号・西暦・孝標女の年齢が記載されている。

翻訳に用いた底本情報

池田利夫訳注『更級日記』(旺文社、1994)

翻訳内容の構成、章立

『更級日記』を専門とする研究者、原順子による『更級日記』の英訳。全体を3章にわけ、それぞれサブタイトルを付けて全訳（13～77頁）。

Chapter1: *The Trip to Kyo* 「京への旅」

Chapter2: *My Lonely Period* 「孤独な時期（ひろびろと荒れたる所の～「年はくれ」の歌）」

Chapter3: *The Light of Amida Buddha* 「仏の光」

和歌は2～4行に自由に訳す。登場人物名・地名・書名・引歌などには簡単な注を末尾に記す。

図版、挿絵の有無

表紙のタイトルは漢字（御物本『更級日記』よりの写し）とアルファベットの併記。

索引の有無 無

メモ・その他

訳者略歴は日本語と英語の両言語で書かれている。翻訳者原順子は米国テキサス州立女子大学に留学し、英米文学を学ぶ。その後、梅光女学院大学大学院で日本古典文学を専攻、修了。英国インディアナ州立大学大学院で言語学を専攻。

（福田秀一・森田幸）

■ 讃岐典侍日記

■ タイトル

SANUKI NO SUKE NIKKI

—A Translation of The Emperor Horikawa Diary

翻訳者 Jennifer Brewster (ジェニファー・ブルースター)

出版社 Australian National University Press

刊行年 1977年

University Press of Hawaii からも『The Emperor Horikawa
Diary : Sanuki no Suke Nikki』とし、同時出版。

頁数 155頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者自身による。まず、日記のあらすじを示し、上下巻の差異・和歌との関連・記述におけるテクニックについて言及。次に、諸本を整理し、「日記」というジャンルについて考察。続いて有職故実と歴史的背景を説明。最後に、『讃岐典侍日記』全体を解説している。

「解説 Introduction」は、先ず上下各巻の内容と成立を略述して、下巻は自他の歌が多いところから家集を意図したかとの推測や同じく下巻の回想手法の効果などについて、述べている。続いて、類従本上巻の奥書などに指摘されている本文の誤脱の問題から諸本を今小路覚瑞・三谷幸子編『校本讃岐典侍日記』（初音書房、1967）によって分類・列举し、次に中古日記文学の成立と展開やジャンルとしての位置などを説く。その後、本作の伝来と当時の流布、堀河帝の生涯と性格・事跡ならびにそれを叙した作者の筆についてやや詳しく述べ、院政とその制度（院庁や院の近臣など）そして作者の位置や父顕綱の業績などにもふれる。見出しや章・節を立てず書き流している。『中右記』の関係箇所や玉井幸助説などを補注的に記したのも含む詳しい注がある。

翻訳に用いた底本情報

石井文夫校注訳『日本古典文学全集 讃岐典侍日記』（小学館、1971）

翻訳内容の構成、章立

Jennifer Brewster による『讃岐典侍日記』の英訳と研究。はしがき・謝辞・目次・序文（1～42頁）、序文の注（43～54頁）、翻訳（55～114頁）、本文の注（115～146頁）、参考文献一覧（147～152頁）、索引（153～155頁）という構成をとる。本文は小学館本にならい、上巻を1～24、下巻を25～55の節に分け番号を打ち、訳文を記すが、「解説」や「注」と区別するためか、各頁の周囲を罫で囲んだのは新機軸。和歌は長短不定の4～5行（多くは4行）としている。和歌は中央揃え。注はかなり多く、地名・人物・殿舎・有識・仏典・枕詞・引歌などの説明の他、『中右記』『殿暦』等の参考記事（英訳または要約で示す）、本文に訳して出した神楽歌の原文（ローマ字）と神楽そのものの説明など多くにわたる。歌語の説明の場合は、他の和歌を取り上げ、そのローマ字表記と英訳を記載する。ただし、本文中の和歌に関しては英訳のみでローマ字表記はない。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

巻末に参考文献あり。本作に直接関係するものと一般的なものとに分け、それぞれ邦文・英文一括である。前者には雑誌論文も含む。

索引の有無 索引（人名・書名・事項等一括）を付す。

メモ・その他

Brewster はオーストラリア国際大学出身。

（福田秀一・森田幸）

中世

Medieval Period

軍記物語

■ 将門記

■ タイトル MASAKADOKI

翻訳者 Giuliana Stramigioli (ジュリアナ・ストラミジョリ)

出版社 Università di Roma

刊行年 1979年

頁数 69頁

序文・解説の内容の概略

永積安明・石井進の援助と矢代和夫・梶原正昭の助力・激励によってなったという。

翻訳に用いた底本情報

底本は、現存2本（真福寺本・楊守敬本）。必要に応じて、林陸朗校注『将門記』（新日本古典文庫、現代思潮社、1975）、梶原正昭訳注『将門記』全2巻（平凡社東洋文庫、1975-76）を参照した。

翻訳内容の構成、章立

『将門記』の最初の英訳。全体を「源氏や同族平氏を襲った将門の勝利」、「将門同族に敗れ後勝つ」、「将門貞盛に遭遇してその仲介を受ける」、「将門関東を占拠し新皇と号す」、「将門の忠平宛書状」、「将門の権力観と和歌の休戦」、「将門の敗死と後日談・影響」、「将門の霊の消息」の8章に分け、平易な英語に訳している。原文の香りを残すとともに、必要な語句は文中に補って読みやすくしたとする。翻訳者はこれに先立って『Preliminary Notes on Masakadoki and the Taira

no Masakado Story』(1973)を書いている。本文中の和歌は音節数を5-7-5-7-7、もしくはそれに近づけた5行に訳している。注解の補説や固有名詞・官職名等を脚注に手書きの漢字で示す。『保元物語』・『平治物語』のイタリア語訳を併せて収録する。

図版・挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(福田秀一・浅川槇子)

■ 保元物語

■ タイトル

HÖGEN MONOGATARI

TALE OF THE DISORDER IN HÖGEN

翻訳者 William R. Wilson (ウィリアム・R・ウイルソン)

出版社 Sophia University

刊行年 1971年

頁数 x iv + 276頁

序文・解説の内容と概略

1967年にワシントン大学に提出した学位論文。序文は翻訳者による。「軍記物語」についての説明から始まり、『保元物語』の「保元」というタイトルが、年号から採られたことを述べている。

翻訳に用いた底本情報

吉村重徳『保元物語新釈』(大同館書店、1927)。参考文献として、永積安明・島田勇雄校注『日本古典文学大系 保元

『物語・平治物語』（岩波書店、1966）がある。

翻訳内容の構成、章立

『保元物語』流布本の英訳と研究である。流布本の全訳の他に、付録として『愚管抄』、『保暦間記』、『撰集抄』、半井本『保元物語』、金刀比羅本『保元物語』、『源平盛衰記』の解説が付いている。索引はない。注は頁の下欄ではなく、末尾にまとめてある。

図版・挿絵の有無

冒頭に、シアトル美術館蔵『平治物語絵巻』の一場面を入れる。

参考文献の有無 有

索引の有無 無

(福田秀一・浅川槇子)

■ 平治物語・十六夜日記・堤中納言物語・大鏡

■ タイトル

TRANSLATIONS

FROM EARLY JAPANESE LITERATURE

翻訳者

Edwin O. Reischauer (エドウィン・O・ライシャワー)、
Joseph K. Yamagiwa (ジョセフ・K・山際)

出版社 Harvard University Press

刊行年 1951年。1972年再版。

頁数 467頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。序文では、具体的な作品名をあげな

から中世の日本文学史について述べている。例えば、『十六夜日記』の作者である阿仏尼とその一族について、江戸時代の冷泉家にいたるまで説明している。

翻訳に用いた底本情報

『平治物語』：

今井弘濟校訂・内藤貞顕重校『参考保元物語・平治物語』（国書刊行会、1914）、佐伯常麿校訂『校註日本文学大系 14 保元物語・平治物語・平家物語』（国民図書、1925）、岸谷誠一校訂『平治物語』（岩波文庫、岩波書店、1931）。

『十六夜日記』：

佐野保太郎『十六夜日記新釋』（有精堂書店、1930）、小室由三『十六夜日記全釋』（廣文堂、1930）。

翻訳内容の構成、章立

『平治物語』、『十六夜日記』、『堤中納言物語』、『大鏡』（『大鏡』は初版のみ収録）の英訳。

『平治物語』は、巻上は全訳されているが、巻中の「待賢門の軍附けたり信頼落つる事」以降は章段名をたてず、簡単な解説がある。本文では人名・地名は、「Yoshitomo 義朝」、「Rokuhara 六波羅」のように、ローマ字と漢字の両方で書かれている。故事については「Hakukō hi o tsuranuku 白虹日を貫く、Japanese rendering of the Chinese phrase, pai hung jih 白虹貫日」というように、ローマ字と漢字の順で書かれ、さらに、中国語の読みと出典となった『文選』39での表記に則った書き方をしている。

『十六夜日記』は全訳。本文の左横に章段名を小さく記載する。本文の下部に注を載せており、「Hi no moto 日の本」のようにローマ字と漢字で表記がされている。また、訳の後には『平治物語絵巻』についての解説があり、「三条殿焼討

ちの巻」、「信西の巻」、「六波羅行幸の巻」の3つの絵巻をとりあげている。

図版・挿絵の有無

付録に、阿仏尼が辿った行程を箇条書きにした表・地図と、彼女の一族の家系図を載せる。

参考文献の有無

柴田隆『もつとも分り易き保元平治の解釈』（日本出版社、1929）、黒川真道編『日本歴史文庫 将門純友東西軍記・奥州後三年記・保元物語・平治物語』（集文館、1911）、野口竹次郎編『日本文学全書 保元物語・平治物語・秋乃夜長物語・鴉鷺合戦物語』（博文館、1891）、正宗敦夫編纂校訂『日本古典全集 保元物語・平治物語・承久記』（日本古典全集刊行会、1928）、三浦理編『保元物語・平治物語・北條九代記』（有朋堂、1913、テキストでは1927年とあるが、該当する本はなし）、鈴木敏也・松井博信『中等国文解釈叢書 平治物語』（立川書店、1936）、三木五百枝講述『中等教育和漢文講義 十六夜日記講義』（誠之堂書店、1905）、『新釈日本文学叢書 十六夜日記』（広文庫出版会、1915）をあげている。

索引の有無 有

（浅川槇子）

■ 平家物語

■ タイトル THE HEIKE MONOGATARI

翻訳者

Arthur Lindsay Sadler（アーサー・リンゼイ・サドラー）

出版社 Kimiwada Shoten

刊行年 1941年

頁数 1巻 (xiv + 278頁)、2巻 (ii + 354頁)

序文・解説の内容の概略

序文は、翻訳者による。『平家物語』の訳に「剣巻」の訳を添えている。『Transactions of the Asiatic Society』(1918)に載せたものを訳者の許可を得て出版したと、各冊の扉にある。

「主題と構成」(後者は内海弘蔵の二部説、山田孝雄の三部説を紹介)、「作者と成立」、「平家物語の仏教的傾向」、「平家物語と当時の他作品」、「平家物語の文体」の各節を立て、藤岡作太郎の『鎌倉室町時代文学史』などを引いて分かりやすく説いている。続いて源平両氏の系図ならびに官職名・僧位僧官名とその主な英訳を挙げている。

翻訳に用いた底本情報

梅澤和軒(清一)『平家物語評釈』(有宏社、1923)、内海弘蔵『平家物語評釈』(明治書院、1949)。

翻訳内容の構成、章立

『平家物語』の英訳。本文の巻の中は、巻一の *Chapter I* 「*Gion Shoja* (「祇園精舎)」)、*Chapter II* 「*The Assassination at Court* (「殿上闇討)」」というように、ローマ数字と章題(しばしばローマ字)を掲げている。

第1冊は、巻6の *Chapter 7* 「*Death of the Nyudo* (「入道死去)」」まで収録。第2冊は短い「序 *Preface*」(「剣巻」について簡単に述べている)の後、巻6の *Chapter 8* 「*Kyonoshima* (「経の島」、本によっては「築島)」」から巻12の「*Kancho Maki* (「灌頂巻)」」の *Chapter 5* 「*The Passing Away of the Former Empress* (「女院出家)」」までの訳に、「*The Book of Swords* (「剣巻)」」の全訳を添えている。固有名詞(神仏名も)

や仏教語・有職故実などには必要に応じて時には漢字も加えた脚注を付す。和歌は多く直訳して長めの2行としている。

図版、挿絵の有無

「中央・西部日本」「都およびその周囲」の折込地図2葉を付す。

参考文献の有無

参考文献として、藤岡作太郎『鎌倉室町時代文学史』（大倉書店、1915）がある。

索引の有無

末尾には「付録」として「梵語索引」（訳文中のローマ字に漢字を充て、そのもとのサンسكريット語のローマ字表記と所出巻章を示す）と「漢語索引」（中国の人名・地名のローマ字と漢字表記、その現代中国発音および所出巻章を示す）を添える。

（福田秀一・浅川槇子）

■ タイトル The Tale of the Heike

翻訳者 Royall Tyler（ロイヤル・タイラー）

出版社 Viking

刊行年 2012年

頁数 xlvi + 734頁

序文・解説の内容と概略

序文では平氏と源氏とはどういった一族であるか、また、12世紀末期の日本について述べている。そして『平家物語』には、語り本と読み本という大きく分けて二つの諸本系統があり、その中でも覚一本と延慶本について説明をしている。また、登場人物の名前についての説明がある。それによると、男性の場合は長男を「太郎」と呼ぶという慣習があり、「九郎」と呼ばれた源義経の例をあげている。一方、女性は女房名で

呼ばれることがあることをあげ、安徳天皇乳母で平重衡の妻である、大納言典侍（藤原輔子）の例をあげている。

翻訳内容の構成、章立

『平家物語』の全訳。韻文形式に近い訳になっている。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無

表紙は歌川広重「平清盛福原にて怪異を見る図」。葛飾北斎の弟子、蹄斎北馬の木版画55作品（高井蘭山述『平家物語図会』）が挿絵として使われている。登場人物の説明が入る。天皇・源氏・平氏・藤原氏の家系図と地図が載っている。

参考文献の有無

梶原正昭・山下宏明校注訳『新日本古典文学大系 平家物語』（岩波書店、1991・1993）、市古貞次校注訳『新編日本古典文学全集 平家物語』（小学館、1994）。いずれも東京大学国語研究室蔵本（高野辰之旧蔵本）である。また、Helen Craig McCullough（ヘレン・クレイグ・マッカラ）による『The Tale of Heike』（Stanford University Press、1988）をあげている。

索引の有無 無

（浅川槇子）

■ 義経記

■ タイトル

YOSHITSUNE

—A Fifteenth-Century Japanese Chronicle

翻訳者

Helen Craig McCullough（ヘレン・クレイグ・マッカラ）

出版社

University of Tokyo Press、Stanford University Press

刊行年 1966年

頁数 367頁

序文・解説の内容と概略

目次（巻の中の章題まで示す）と日本史時代区分表の後、長文（66頁）の「解説 Introduction」がある。

「解説」では、初めに源平の争乱から鎌倉幕府の成立に至る史的背景と義経伝説の形成を概観し、次いで「1、史的人物像」、「2、伝説」、の2章を立てて述べる。1はA父祖、B幼少時代、C戦歴、D頼朝の敵意、E逃亡時代、F最期に分け、『平治物語』、『平家物語』および本作を主な史料として説く。2は、A史実に関する伝説（1坂落、2逆櫓、3弓流し、4腰越状、5堀河夜討）とB室町伝説（1牛若伝説—伏見・鞍馬の伝説や『天狗の内裏』、『橋弁慶』、浄瑠璃の『十二段草子』、『御曹子島渡』、『鬼一法眼』など。2末期—『船弁慶』、吉野・鎌倉での静、奥州下り）の2節に分け、それぞれについて『平家物語』、『源平盛衰記』、幸若舞、能、お伽草子の諸作品を挙げて略説し、必要に応じて訳文を挙げて例示する。

島津久基の『義経伝説と文学』に負うところが多く、よくまとめてある。そして本作における叙述と人物形象（特に弁慶と静）の妙や儒仏の呪縛の少ないこと（その点で『曾我物語』の対極にある）などを高く評価し、従来不当に低く評されていたとする。

翻訳に用いた底本情報

岡見正雄校注『日本古典文学大系 37 義経記』（十二行木活字本系統の丹祿絵入本）（岩波書店、1959）。

翻訳内容の構成、章立

『義経記』の全訳。訳文は読みやすい現代語である。注意すべきは官職名だけで記されている人物を実名で示し、人名・地名の列挙が続く部分は、例えば本文に *There were at least a dozen.* と述べて注記号を付し、その部分の訳は後の「付録 C」に譲っていることである。道行文の短いものは前後の散文に埋没した形になっているが、やや長いもの（例えば巻4 義経都落の事）は前後と区切った韻文にしている。和歌も、単に対話や独白としたものもある。巻6 静の有名な2首などは音節数を無視した5行としており、他にも3～5行としたものが多い。地名や有職故実、修辞あるいは別の読解が可能な箇所などは、脚注で簡潔に説明する。

「付録」として、「A 義経の潜伏」（黒板勝美『日本文化名著選 第9 義経伝』創元社、1939年の抄訳）、「B 人名地名略解」、「C 省略部分」を添える。

図版・挿絵の有無

前後の見返しには、必要な地名を記入した日本地図（琵琶湖周辺や北陸・鎌倉など局地拡大図4枚を含む）を掲げ、カバーには静嘉堂文庫蔵『平治物語絵巻』の一場面を示す。

参考文献の有無

高木卓『古典日本文学全集 17 義経記曾我物語』（筑摩書房、1961）、『新訂増補国史大系 32～33 吾妻鏡』（吉川弘文館、1942）、三浦理・塚本哲三編『源平盛衰記』（有朋堂書店、1912）、『玉葉』第3巻（国書刊行会、1906）、高木市之助校注『日本古典文学大系 32～33 平家物語』（岩波書店、1959-1960）、黒板勝美『日本文化名著選第9 義経伝』（創元社、1939）、島津久基『義経伝説と文学』（明治書院、1935）がある。

索引の有無 「索引」(人名・地名・書名・事項等一括)を付す。
メモ・その他

『Nachrichten』(ニュース)104(1968年)にR・シュナイダーの書評がある。

(福田秀一・浅川槇子)

■ 曾我物語

■ タイトル THE TALE OF THE SOGA BROTHERS

翻訳者 Hiroshi Kitagawa (北川弘)

出版社 Faculty of Economics, Shiga University

刊行年 1981年

初版、再版年、国別等 1985年再版。

頁数 1-x iv + 232頁、2-xxx ii + 169頁

序文・解説の内容と概略

冒頭に、目次(「章題 Chapter」までを出す)と「解説 Introduction」を置く。1では梗概と成立・流伝など、2では曾我伝説の展開、すなわち能・幸若・浄瑠璃・歌舞伎の「曾我物語」について、かなり詳しく紹介している。いくつかの固有名詞や引用・仏教語などは章末の注で簡潔に説く。ただし、紙幅の都合でそうした注は省いたとしている。

翻訳に用いた底本情報

市古貞次・大島建彦校注『日本古典文学大系 曾我物語』(岩波書店、1966)

翻訳内容の構成、章立

『曾我物語』の全訳である。本文は、題は「神代のはじまりの事」を「The origin of the Country」とするなど、ある

程度意識している。和歌は音節数を無視して簡潔な5行に、文中に引用した和漢の詩句や文言(例えば「香炉峰の雪」云々)も改行して短詩句のようにしている。

参考文献の有無 無

図版・挿絵の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他 『滋賀大学経済学部研究叢書』第7、10号。

(福田秀一・浅川槇子)

■ 太平記

■ タイトル

THE TAIHEIKI—A Chronicle of Medieval Japan

翻訳者

Helen Craig McCullough (ヘレン・クレイグ・マッカー)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1959年

頁数 401頁

序文・解説の内容と概略

「序 Preface」(1頁)によれば、底本の他に必要に応じて、西源院本・神田本や『参考太平記』に挙げる諸本で校訂し、現代の注解として石田吉貞の『太平記新釈』(大同館、1925)と永積安明の『続日本古典読本5 太平記』(日本評論社、1948)とを参照したという。また多くの助言者の名を挙げ、日本では市古貞次の助力を得たと記している。

長文(49頁)の「解説 Introduction」は、ホメロスの叙事詩に比較し得る軍記物語ジャンルの主要作、『太平記』の

特質・作者ならびに史的価値、南北朝期までの社会体制や思想史的背景の概説と武士像の変遷、そして両統迭立以降の宮廷史と『太平記』第1部の概略を説く。当時の時刻制度と作中に見える年号の一覧とを付している。その重要な点は、市古の紹介（「マッケロー氏の英訳太平記」『国語と国文学』至文堂、1960年）にもうかがえる。

翻訳に用いた底本情報

物集高見監修『日本文学叢書5 太平記 上』（日本文学叢書刊行会、1927）、『日本文学叢書6 太平記 下・吉野拾遺・櫻雲記』（日本文学叢書刊行会、1928）、鷲尾順敬校訂『太平記西源院本』（西源院本太平記刊行会、1936）、『太平記神田本』（国書刊行会、1907）、国書刊行会編輯『参考太平記』（国書刊行会、1914）

翻訳内容の構成、章立

『太平記』巻1～12の英訳。訳文（後代の付加とされる序は省く）は、漢文脈も濃い原文をよく理解した跡が見える。時に古語を用いたりして原文の調子を出そうとした工夫が認められる。しかし、“*barbarian-subduing-shogun*”（征夷大將軍）とか“*The Great Subject of the Right*”（右大臣）などの表現で、読者に該当人物の地位やイメージが伝わるかは疑問である。

詩歌や引歌、さらには縁語・懸詞や七五調の美文などについては一律でなく、臨機応変に処置している。例えば、巻2の不動の咒や俊基の辞世の偈は各4行の韻文とし、巻4「八歳宮御歌事」の問答に見える能因や雅経らの歌や宮自身の「つくづく」と～の歌は単なる独白のように会話符号で区切って文中に入れている。一方、同じ巻の児島高德の漢詩2句は短い2行としている。巻2の俊基朝臣の道行が長い韻文に訳出されている（そこでも懸詞はほとんど訳しきれていない）こ

とは市古も冒頭を例示している。なお、高德の作詩に続く「呉越軍事」の部分には、前後に「作者は次に高德の寓意を説明するために中国の有名な故事を語る」および「挿話終」と断っている。固有名詞や有職故実・仏教等に関する語句は脚注で簡潔に説く。

図版・挿絵の有無

巻頭および途中には、肖像や絵巻物から採った合戦・住居
絵計 8 葉をモノクロで入れる。

参考文献の有無

石田吉貞『太平記新釈』（大同館、1925、テキストでは
1928）、永積安明『続日本古典読本 5 太平記』（日本評論社、
1948）がある。

索引の有無

巻末には「漢字一覧」（本文にローマ字で示した人名・書
名等を手書き漢字で示す）と「索引」（人名・地名・書名等）
を付している。

メモ・その他

『参考太平記』にあげる諸本は、今出川本・今川家本・毛
利家本・北条家（小田原北条氏）本・金勝院本・西源院本・
天正本である。

（福田秀一・浅川槇子）

■ 神皇正統記

■ タイトル

A CHRONICLE OF GODS AND SOVEREIGNS

翻訳者 H. Paul Varley (H・ポール・バレー)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1980年

頁数 300頁

序文・解説の内容の概略

冒頭長文(41頁)の「解説 Introduction」は、作者北畠親房の家系と経歴および時代背景、神国思想とその由来、その政道論と武士観、宗教性すなわち神・儒・仏・道の融合などを、かなり詳しく説く。

翻訳に用いた底本情報

岩佐正・時枝誠記・木藤才蔵校注『日本古典文学大系 87 神皇正統記 増鏡』(岩波書店、1965)で、國學院大學蔵、猪熊信男旧蔵本。

翻訳内容の構成、章立

『神皇正統記』の英訳。本文は、上・中・下を「第1部・第2部・第3部」とする。上巻の「[地神] 第二代、正哉吾勝々ノ速日天忍穗耳尊」以降、下巻最後の「第九十五代、第四十九世、後醍醐天皇」まで、例えば“*Emperor Godaigo/ Ninety-fifth reign; forty-ninth generation/ Personal name: Takaharu/ Second son of Gouda/ Mother: Dantenmon-in,* (中略) */Raised by his grand-father, the retired Emperor Kameyama*” (斜線は改行)のように、各天皇(上巻の途中までは神)の条の出自や経歴に関する部分を年代記風にイタリックで掲げて、その後に記述を普通の文章に訳している。なお、最後の後村上天皇は、原文(第九十六代、第五十世ノ天皇、諱ハ義良、～)通りとせず、“*Emperor Gomurakami/ Ninety-sixth reign; fiftieth generation/ Personal name: Noriyoshi/ ~*”として、脚注でこの諡号は本作著作以後の命名であると断っている。

訳文の頁の左右欄外に底本の頁数を示し、また解説・訳文の全体を通じて、術語や文意の取りにくい箇所の説明とか記

紀等の史書や諸家の説による補足とかを、脚注で簡潔に説いている。

末尾に「付録1 官職名」(本文では原則としてライシャワーの『Early Japanese History』の訳を採り、その原語をローマ字で示す)、「付録2 術語」(若干の地名や有職故実などの漢字表記と訳とを示す)を付す。

図版・挿絵の有無

末尾に「付録3 親房の考えた天皇系図」を付す。

参考文献の有無

「文献」(欧文・邦文一括)を付す。参考文献として、山田孝雄『神皇正統記述義』(民友社、1932)、大塚龍雄『神皇正統記新講』(東京修文館、1933)がある。

索引の有無 「索引」(神名・人名・書名等)を付す。

メモ・その他

『Translations from the Oriental Classics』の1冊。『MN』36-2(1981年夏)にブラウンリー(トロント大)の書評がある。

(福田秀一・浅川槇子)

■ 応仁記

■ タイトル

THE ŌNIN WAR—History of Its Origins and Background with a Selective Translation of The Chronicle of Ōnin

翻訳者 H. Paul Varley (H・ポール・バレー)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1967年

頁数 238頁

序文・解説の内容と概略

応仁の乱の原因・経緯を考察した歴史研究であり、後半に『応仁記』の抄訳を収める。短い「序 Preface」(2頁)の後半の「謝辞 Acknowledgments」で、翻訳者は、キーン、モリス両教授の他、来日して藤木邦彦・桑山浩然の両名(特に後者)の指導を受けたと言っている。

内容は大きく2部からなり、第1部が本論で、「序説」(幕府時代の3期とその第1～2期を区切る応仁の乱の意義)、「1、鎌倉[期]の守護」「2、室町幕府」「3、室町[期]の守護」「4、幕府と守護[大名]との勢力の均衡」「5、室町幕府の没落(義教暗殺、初期の継嗣抗争、畠山氏の継嗣抗争、斯波氏の継嗣抗争、義政治下の偏愛・放縦・飢饉の各節を立て、しばしば古今東西の歴史と対比する)に分け、応仁の乱に至る史的背景を論じる。史料等については脚注に簡潔に説く。

翻訳に用いた底本情報

『群書類従 20 合戦部』(続群書類従完成会、1959)

翻訳内容の構成、章立

第2部は、乱の経緯の概略と『応仁記』の英語による抄訳。省略箇所については冒頭の「訳者緒言」で、巻2～3の合戦の記事は類型的な描写の繰返しが多い上に人名・地名の同定も困難なので、今回は省いたと断っている。事実、巻2では「所々合戦之事」から「岩倉合戦之事」までと「相国寺炎上之事」以下とが省かれ、巻3は「赤松家伝之事并神爾御事」「義視西陣へ御出之事」「一条政房卿御最期之事」「山名入道薨逝之事」のみを訳出している。中国故事などの挿話などは省いており、その点は巻1「乱前御晴之事」の末尾「中庸ニ云」以下も同様である。歴史研究としては当然とも言えるが、軍記

物語研究としては残念な面もある。ただ、省略部分はその旨が分かるようにはなっている。和歌・狂歌は音数を無視し意味を採ってやや散文的に訳している。

訳文の後に「地方の戦闘と農民蜂起」と題する「後記」の論を展開。その後に「付録」として「一次史料についてのメモ」、「語彙」、「参考文献」を付す。

図版・挿絵の有無

扉前には「近代以前の日本の諸国」として本州・四国・九州の国名をローマ字で記した地図を掲げ、各章の初めには関係氏族の紋所や人物の花押、また合戦絵（源平時代）の線描画などを入れる。

参考文献の有無 有（ほとんどは和文）

索引の有無 「索引」（人名・地名・書名）を付す。

メモ・その他 『Studies in Oriental Culture』 Number 1

（福田秀一・浅川槇子）

物語

■ 松浦宮物語

■ タイトル

The Tale of Matsura :

Fujiwara Teika's Experiment in Fiction

翻訳者 Wayne P. Lammers (ウェイン・P・ラマーズ)

出版社 Center for Japanese Studies, University of Michigan

刊行年 1992年

頁数 xii + 208頁

序文・解説の内容の概略

日本文学史上おむね軽んじられているとするこの物語は、著者とされる藤原定家の存在が大きい。翻訳者は最大の論争点を、その定家の作者確定問題と物語の価値とし、それらを中心に序文と付録の論文を構成している。翻訳は適当な脚注も含まれている。「解説」とする序文は3段落に分かれる。藤原定家、優艶の美学（特に物語と和歌での違い）、そして別本の問題。付録には成立時と著者の問題を扱う。ただし、石田吉貞の研究を再検討し、やはり『松浦宮物語』は藤原定家の著作と断定する。他の物語から異なる点は奈良の設定、政治と政府の重視、そしてなによりも超自然的な物語であることだとする。物語のあらすじを検討しながら、題名の意味の問題を追求する。

翻訳に用いた底本情報

萩谷朴訳注『松浦宮物語』（角川書店、1970）

翻訳内容の構成、章立

和歌は通常ローマ字音訳と英語訳を並べている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 日本語、英語参考文献あり。

索引の有無

総合索引、和歌初句の索引あり。和歌索引は翻訳内(物語内)の和歌だけでなく、解説や注釈に引用した歌も記されている。

(サトコナイトウ・伊井春樹・補：浅川槇子)

■ 西行物語

■ タイトル

THE TALE OF SAIGYO (SAIGYO MONOGATARI)

翻訳者 Meredith Mckinney (メレディス・マッキニー)

出版社 The University of Michigan

刊行年 1998年

頁数 xii + 90頁

序文・解説の内容と概略

「序 Preface」(1頁)によると、俳句に比べて西洋の読者に馴染みの薄い和歌とその伝統、とりわけ西行に親しんで貰うために作成されたものであり、そのため翻訳に際しては原作の詩的な調子を保持しようと努めた、という。K・ブラゼル(当時コーネル大学)、M・チャイルズ(同カンサス大学)、桑原博史(同筑波大学)の指導に感謝している。

「解説 Introduction」(16頁)は、本作のジャンル(歌物語の伝統に乗った伝記)や絵巻物への発展についてふれた後、本作の西行が松尾芭蕉や種田山頭火の原型であるとともに、

中国や日本にも隠者の先駆はあると述べる。特に能因が西行・芭蕉の先縦であるが、両者には差異もあること、また聖の実態なども説く。以下、「西行の生涯」、「西行の物語」（『とはずがたり』の言及）、「西行の形象」（歌僧としての生き方）、「和歌」（当時の歌壇における西行の評価や王朝以来の和歌の伝統など）の節を立てて、一般読者のために詳しい解説を行う。

翻訳に用いた底本情報

桑原博史訳注『講談社学術文庫 西行物語』（講談社、1981）、伊藤嘉夫・久曾神昇『西行全集』（ひたく書房、1981）

翻訳内容の構成、章立

『西行物語』の英訳。本文は、桑原の分けた8章に従う（ただし章の題は桑原の立てたものを直訳せず内容によっている）。その下の節番号は付さず、またその区切りも必ずしも桑原と同じではない。和歌はローマ字書きにした原歌と、音節数不定の5行とした訳（行対応ではない）とを対照して掲げ、固有名詞や本歌、出典、和歌の他出、仏教語などは脚注で簡潔に説明する。

図版・挿絵の有無

出光美術館蔵『西行物語絵巻』からいくつかの場面をモノクロで掲載している。

参考文献の有無 有

索引の有無

末尾に「付録—西行の和歌とその出典」と「索引」（人名・書名・事項一括）とを付す。

メモ・その他

『Michigan Papers in Japanese Studies』 Number 25

（福田秀一・浅川槇子）

■ 御伽草子集

■ タイトル

TALES OF TEARS AND LAUGHTER

—Short fiction of medieval Japan

翻訳者 Virginia Skord (ヴァージニア・スコード)

出版社 University of Hawaii Press

刊行年 1991年

全く同内容のペーパーバック版(1993)あり。

頁数 vi + 222頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。前半(言わば研究編)を省いて代りに短い「解説 Introduction」(15頁)を置く。『御伽草子』の概念と時代、享受の形態、和歌の存在、古典の影響その他を、かなり啓蒙的に説く。K・ブラゼル、徳田和夫、笠井昌昭らの指導・助言を得たと述べる。本文は、作品ごとに題名を英訳し、初めに短く解説した後に訳している。

翻訳に用いた底本情報

『音無草紙』:

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(角川書店、1973)、『音無草紙絵巻』(東京国立博物館蔵)、萩野由之『新編御伽草子』(誠之堂書店、1901)。

『猫の草紙』:

市古貞次校注『日本古典文学大系 38 御伽草子』(岩波書店、1958)、『御伽文庫ブックレット』(旧国会図書館支部上野図書館→東京大学図書館)。

『常盤の姫』：

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』（角川書店、1973）、『常盤の姫』（慶応義塾大学蔵）

『鏡男絵巻』：

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』（角川書店、1973）、絵は国会図書館蔵。

『転寝草紙』：

市古貞次校注『新日本古典文学大系 54 室町物語集上』（岩波書店、1989）、『転寝草紙』の校注は田島一夫、絵は国立歴史民族博物館蔵。

『伊香物語』：

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』（角川書店、1973）。

『火桶の草子』：

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』（角川書店、1973）、絵は天理大学附属図書館蔵、徳田和夫「火桶の草子の方法と構造」（野村純一『日本昔話研究集成昔話と文学』名著出版、1984）。

『小男の草子』：

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』（角川書店、1973）。

『道成寺物語』：

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』（角川書店、1973）、絵は慶応義塾大学蔵、万治3（1660）年12月。作者は菱屋清兵衛。

『福富長者物語』：

市古貞次校注『日本古典文学大系 御伽草子』（岩波書店、1958）、絵は大東急記念文庫蔵。

『乳母の草子』：

市古貞次『未刊中世小説2』（古典文庫、1948）

『物くさ太郎』：

市古貞次校注『日本古典文学大系 御伽草子』（岩波書店、1958）、絵は東京大学総合図書館蔵。

『おようの尼』：

市古貞次・野間光辰編『鑑賞日本古典文学 26 御伽草子仮名草子』（角川書店、1976）、絵は東京大学総合図書館蔵。

翻訳内容の構成、章立

『御伽草子』13編の英訳。訳文（和歌を含む）や注（作品ごとの末尾に置く）は多少とも推敲され、末尾に「英語文献案内」を添える。

図版・挿絵の有無

物語ごとに数枚の絵が入っている。いずれも、該当作品の絵巻物から採られたものである。

参考文献の有無

参考文献として、奥平英雄『御伽草子絵巻』（角川書店、1982）がある。

索引の有無 無

（福田秀一・浅川槇子）

■ 高野物語・幻夢物語・三人法師・七人比丘尼

■ タイトル

RETHINKING SORROW

—Revelatory Tales of Late Medieval Japan

翻訳者

Margaret Helen Childs（マーガレット・ヘレン・チャイルズ）

出版社

Center for Japanese Studies, The University of Michigan

刊行年 1991 年

頁数 x iii + 181 頁

序文・解説の内容の概略

冒頭の「序 Preface」(2頁余)では、本書で扱った時代や monk などの訳語を断る。挿入図版の配慮や内容の助言(B・ルーシュ、佐竹昭広・岡見正雄・五来重・徳田和夫その他)への感謝を述べる。

本文冒頭の「序説 Introduction」では中世後期の発心談の中でも本書で扱った4作に見る revelatory tale(複数が順に懺悔する物語)が一つの類をなしていることを述べる。さらに、それらの歴史的宗教的背景や文学史的位置なども略述する。「宗教的背景」「文学[史]的環境」「中世短篇物語」「ジャンル」「懺悔」「諸本」の章を立て、豊富な論拠や文献を脚注に挙げ、それぞれの問題をかなり詳しく検討する。

翻訳に用いた底本情報

『高野物語』・『幻夢物語』:

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(角川書店、1973)。

『三人法師』:

市古貞次校注『日本古典文学大系 御伽草子』(岩波書店、1958)。

『七人比丘尼』: 無

翻訳内容の構成、章立

『高野物語』、『幻夢物語』、『三人法師』、『七人比丘尼』の英訳と研究。最後の章で本文は、『幻夢物語』(絵は東京藝術大学大学美術館本から)と『高野物語』は『室町時代物語大成』、

『三人法師』は『日本古典文学大系』によつたと断る。『七人比丘尼』について底本の明示はなく、絵を近世文学書誌研究会編『近世文學資料類従 仮名草子編 10 七人比丘尼・小倉物語・二人比丘尼』（勉誠社、1973）から採つたと「序」にあるだけである。訳文は固有名詞・仏教語・出典などを脚注で簡潔に説明し、和歌は多く3行に訳している。訳文の後に「分析」として、各作品の構成・叙述・人物・教訓性などを各作品5頁程度で検討する。

図版・挿絵の有無 有

参考文献の有無 和文・欧文一括のものが収録されている。

索引の有無 末尾に索引（但し漢字なし）を付す。

（福田秀一・浅川槇子）

歴史物語・記録

■ 愚管抄

■ タイトル

THE FUTURE AND THE PAST A TRANSLATION
AND STUDY OF THE GUKANSHŌ :
an Interpretative History of Japan Written in 1219

翻訳者

Delmer M. Brown(デルマー・M・ブラウン)、Ichiro Ishida(石田一郎)

出版社 University of California Press

刊行年 1970年

頁数 479頁

序文・解説の内容と概略

冒頭の「序 Preface」(6頁、著者連名)は、この企画の意義と経緯を述べている。本作の研究史と既出の翻訳について一通り述べ、続く「解説 Introduction」(14頁)は、本作成立の史的背景、著作の意図、歴史観(道理と末法)と歴史の構成原理(仏法と王法、また神の観念)等について論じている。

翻訳に用いた底本

丸山二郎校訂『愚管抄』(岩波書店、1949)、黒板勝美校訂『新訂増補国史大系 19 古今著聞集 愚管抄』(吉川弘文館、1964)、中島悦次『愚管抄評釋』(国文研究会、1931)

翻訳内容の構成、章立

『愚管抄』の英訳と研究。本文は3部からなる。「第一部

愚管抄」は、原作の述作部分である第3～第6および付録の翻訳。巻名はやや変えてあり、以下の通り。

- 「1、古代：神武天皇から藤原道長まで」
- 「2、中世：一条天皇から保元の乱まで」
- 「3、武士の世Ⅰ：後白河天皇から源頼朝まで」
- 「4、武士の世Ⅱ：九条兼実から九条良経まで」
- 「5、要旨と結語」

各章の中も「序説」「悪化の始まり」「神功皇后」のように細かく節を分け、読みやすくしている。また、他の史書（『大鏡』等）や原作巻1～2の「皇帝年代記」、あるいは慈円の他箇所と言及等と比較して注意すべき点、あるいは理解を助けるための系図などを、脚注に挙げている。

「第二部 愚管抄の皇帝年代記」は、第1、第2の訳である。「6、年代記Ⅰ：神武天皇から醍醐天皇まで」（冒頭の「漢家年代」から始める）および「7、年代記Ⅱ：朱雀天皇から後堀河天皇まで」の2章としている。底本の傍書や割注の小字部分は括弧に入れ、年代には西暦を角括弧に入れて補って、正確な訳を心がけている。

「第三部 研究論文」は、以下の通り。

- 「8、愚管抄以前の史書」（ブラウン）
- 「9、慈円とその苦難時代」（同上）
- 「10、愚管抄の思想の構造と成立」（石田）

8は『古事記』、『六国史』から軍記物語に至る各作品の成立とそれらの諸相を概観、9は慈円の出自と九条家の盛衰から本作の成立契機を考察。10は、図や年表も使って仏教の思想と史観を基として承久の変を契機とした慈円の思想の成立を探る。末尾に「語彙」（慈円の史観における主要な語をローマ字と漢字で挙げて訳を示す）を付す。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

史料と文献を分類して挙げ、若干の英文論著も掲げる。

索引の有無 索引（人名・事項）を付す。

（福田秀一・浅川槇子）

■ 増鏡

■ タイトル

A STUDY AND PARTIAL TRANSLATION OF MASUKAGAMI

翻訳者 George W. Perkins (ジョージ・W・パーキンス)

出版社 University Microfilms International

刊行年 1977年

頁数 v + 635頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。1977年にスタンフォード大学に提出した学位論文。冒頭で、審査委員のW・マッカラ、M・ウエダ、S・マティソフ、原稿を点検した瀧沼誠二などへの「謝辞 Acknowledgements」あり。

翻訳に用いた底本情報

『日本古典文学大系 神皇正統記 増鏡』（岩波書店、1965）で、学習院本。

翻訳内容の構成、章立

『増鏡』の研究と抄訳。本文は「第一部 研究」と「第二部 翻訳」とからなり、第一部は「1、増鏡の外表面」（題名・作者・成立年時・諸本の略述）、「2、増鏡の史的側面：本作と先行

作品」(歴史物語の定義と史書の歴史から中古中世の歴史物語の概略および「増鏡」の内容・特質を説く)、「3、増鏡の文学面」(主題・和歌・文体・語り手・人物描写について概観)の各章・節を立てて概説する。

第二部は、巻7(北野の雪)～巻12(浦千鳥)を省く。訳文中の地名や年号には手書きの漢字を添え、和歌は音節数に拘泥しない5行の訳とローマ字で記した原文とを対比している。固有名詞や有職故実語、修辞(懸詞・引歌など)・術語(例、重祚)あるいは史実に関する補足などは、末尾の「注」で説明している。

図版・挿絵の有無 無

参考文献の有無

佐成謙太郎『増鏡通釋』(星野書店、1938)、岡一男訳『古典日本文学全集 13 大鏡・増鏡』(筑摩書房、1966)、和田英松・佐藤球『重修増鏡詳解』(明治書院、1925)、塚本哲三『通解増鏡』(有朋堂書店、1951)がある。和文と英文に分け、前者には漢字を手書きで補う。

索引の有無 有

(福田秀一・浅川槇子)

説話

■ 唐物語

■ タイトル Kara monogatari : tales of China

翻訳者

John Van Ward Geddes (ジョン・ヴァン・ワード・ゲッデス)

出版社 Arizona State University. Center for Asian Studies

刊行年 1984 年

頁数 vii + 192 頁

序文・解説の内容と概略

序文では、『唐物語』がどのような作品であるかについての解説がある。作中の登場人物名について、常用漢字を使って表記をしたことを断っている。

翻訳に用いた底本情報

『唐物語校本及び総索引』（笠間書院、1975）

翻訳内容の構成と章立

『唐物語』の英訳である。人名と固有名詞は、ローマ字で記した後に漢字の表記がなされている。中国の人名は、中国語の読みに従っている。作中の歌は、左側にローマ字・右側にその歌の英訳という形式になっている。5-7-5-7-7 の句ごとに分かち書きがなされている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

本居豊穎他校訂注解『校註国文叢書 第18冊』（博文館、1915）、

編『有朋堂文庫6 平安朝物語集全』（有朋堂書店、1918）

索引の有無

目次・索引がある。索引で本の項目がある場合は、出版社と年号も記載されている。

（浅川槇子）

■ 宇治拾遺物語

■ タイトル A COLLECTION OF TALES FROM UJI

翻訳者 D. E. Mills (D・E・ミルズ)

出版社 Cambridge University Press

刊行年 1970年

頁数 xii + 459頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。ロンドン大学に提出した学位論文を増訂したもの。ダニエルの指導と長野嘗一の助言を受けたと言う。主な内容は、研究編とも言うべき「解説 Introduction」と「翻訳」とからなる。

前者はまず日本における物語文学・説話文学の定義を短く紹介した後、「1 鎌倉時代末までの日本の語りの文学の発達概略」「2 語りの文学の問題点と様相」の2章で説話文学の特質とその享受・研究について幅広く考察する。3～7は『宇治拾遺物語』についての考察で、I～Vに分けられている。すなわち「I 内容・文体と文学の質」（同じ題材の説話を他の説話集と比較するなど）・「II 他の作品と共通する話の考察」（『古本説話集』・『打聞集』・『今昔物語』との大小の類似）・「III 成立年時についての日本の諸説」・「IV 他の作品との関係

についての日本の諸説」（『宇治大納言物語』についても）・「V 成立・構成・位置についての個人的見解」で、研究史をよく踏まえた研究である。

翻訳に用いた底本情報

渡邊綱也・西尾光一校注『日本古典文学大系 宇治拾遺物語』（岩波書店、1960）で寛永古活字本。絵は、万治刊本で補う。

翻訳内容の構成、章立

『宇治拾遺物語』の英訳。各話の題の「～事」を通例“How～”、時に“About～”とし、固有名詞（中国・インドのものは原語のローマ字綴り）や仏教語・修辞などは脚注でかなり詳しく説く。和歌は簡潔な5行に訳している。末尾に「付録」として、第1章にふれた説話集の編者・成立一覧表や諸本の巻の分け方一覧表（日本古典文学大系の「解説」より翻訳）、IIに扱った説話集との同話の所在一覧表など、6つの表を掲げている。

図版・挿絵の有無 無

参考文献の有無

「文献目録」（邦文と欧文、後者は作品別に分ける）を付す。

索引の有無 索引（固有名詞・事項一括）を付す。

メモ・その他

『ケンブリッジ大学 Oriental Publications』 No.15。

（福田秀一・浅川槇子）

■ 十訓抄

■ タイトル

A PARTIAL TRANSLATION AND STUDY OF THE JIKKINSHŌ

翻訳者

John Van Ward Geddes (ジョン・ヴァン・ワード・ゲッデス)

出版社 University Microfilms International

刊行年 1976年

頁数 611頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。1976年にワシントン大学に提出した学位論文。内容は大きく「A. 検討の分析」「B. 翻訳」「C. 付録と文献目録」の3部からなる。

Aは以下の5章を立てる。

- 「1、序説 Introduction」(時代背景、読者、受容・研究史)
- 「2、説話の歴史と展開」(本生譚・靈異記以降、歌物語)
- 「3、十訓抄の内容・編者・諸本」(先行説話集との比較、編者の諸説、諸本の分類)
- 「4、十訓抄の文学様式」(構成や中世の他ジャンルとの比較)
- 「5、十訓抄の倫理と思想」(時代の影響と日本的特色の指摘)

翻訳に用いた底本情報

永積安明校訂『十訓抄』(岩波文庫、岩波書店、1942)で、
東京大学国文学研究室本。

翻訳内容の構成、章立

『十訓抄』の英文研究と抄訳。全282話から日本の学者に種々の意味で重要としてよく引用されるものなど、計172

話を選び、第何巻の第何話と記して目次の題の訳を掲げ、「序」「跋」とともに英訳したものである。和歌はローマ字書き原文と訳（音節数は無視している）とを5行に対照し、固有名詞や史実・出典・修辭、時には話の配列に関することや語句の別訳の可能性などを脚注で説く。

Cは「付録1 永積氏の「解説」と『国書総目録』とに見える諸本の対照表」「付録2 時下米太郎による『十訓抄』と法華経との対比表や高橋貢による組織図式など」「付録3 十訓抄の出典となった漢籍・和書一覧」（漢字・仮名を手書きで補う）がある。

図版・挿絵の有無 無

参考文献の有無

石橋尚寶『十訓抄詳解』（明治書院、1927）、この他に「参考文献」（著書と論文に分け、それぞれ邦文と欧文の両方がある）。

索引の有無 無

（福田秀一・浅川槇子）

■ 沙石集

■ タイトル

REPRESENTATIVE TRANSLATIONS
AND SUMMARIES FROM THE SHASEKISHŪ
with Commentary and Critical Introduction

翻訳者 Robert Ellis Morrell（ロバート・エリス・マレル）

出版社 University Microfilms International

刊行年 1985年

頁数 v + 576 頁

序文・解説の内容の概略

1968年にスタンフォード大学に提出した学位論文。R・H・ブラワー、W・マッカラなどが審査に当たっている。

はじめに、説話文学史上の『沙石集』の位置と無住について短く述べた、「序 Preface」(2頁)がある。のち、「研究編」に相当する第一部と翻訳・要約の第二部に分かれる。第一部は「1、歴史的背景と伝記史料」、「2、無住の生涯と作品」、「3、無住の教養と修学」、「4、沙石集の諸本」(A近代以前の写刊本とB近代の活字本と)、「5、説話文学史における沙石集」、「6、構成・文体・内容」の6章で、4章以外はやや簡略。

翻訳に用いた底本情報

渡邊綱也校注『日本古典文学大系 85 沙石集』(岩波書店、1966)

翻訳内容の構成、章立

University Microfilms International による無住と『沙石集』の研究に各話の英訳または梗概を添えたもの。翻訳・梗概の区別は、底本の段落に abc～ の符号をつけてその段落を基準に行う。例えば、巻1第4話は第1段落のみ翻訳し、第2～4段落は梗概を記している。初めに翻訳した部分を並べて梗概の部分はその後記す。巻第1第4話で言えば前半(訳文を並べた部分)ではこの話の a 段落の訳文の後に「b～d は梗概を見よ」とあり、後半(梗概を並べた部分)ではこの話の冒頭に「a は翻訳を見よ」と記す。そして毎頁右上に「翻訳 1:4」「梗概 1:1」のような見出しを立てる。末尾に、全体を通じての詳しい「注」と「付録:『沙石集の出典』(仏典・和書・漢籍の各略解説)がある。

図版・挿絵の有無 有

参考文献の有無

「文献目録」（一般・説話関係、『沙石集』関係等々に分け、略解説を付す）が収録されている。

索引の有無 無

（福田秀一・浅川槇子）

日記・紀行

■ 宗長手記

■ タイトル THE JOURNAL OF SŌCHŌ

翻訳者 H. Mack Horton (H・マック・ホートン)

出版社 Stanford University Press

刊行年 2002年

頁数 xv + 367頁

序文・解説の内容の概略 無

翻訳に用いた底本情報

翻訳の底本には彰考館本を基にした『宗長日記』(岩波文庫、岩波書店、1975)を用いている。柴屋寺蔵写本や祐徳稲荷文庫蔵『宗長道之記』(抄出改編本、重松裕巳が『宗長作品集』(古典文庫、1983・1990)に翻刻)・群書類従本・新校群書類従本・鶴沢覚が翻刻した内閣文庫蔵『宗長駿河日記』(古典文庫、1975)を参照したと「凡例」にある。

翻訳内容の構成と章立

『宗長手記』の英訳。本文は岩波文庫本の立てた年次ごとに頁を改め、またその小見出しもそのまま(固有名詞以外は)英訳して掲げる。挿入された短歌や発句・付句は頭に通し番号、続いて句ごとに改行したローマ字書きの原文と各行の音節数を5-7-5や7-7(短歌はこれを一続きに)として、意味もできるだけ行対応とした訳とを示す(その手際はあざやか)。その後「付録」として「A 今川家」(その略沿革)「同 B 朝比奈戦忠の史実」「同 C 「宗長手記」年立」、「参考資料」

として「注」（訳文に番号を打った固有名詞や歌句の修辭あるいは地理的・歴史的事項についての詳しい説明）をあげている。

図版、挿絵の有無 有

参考文献の有無

和文・英文一括のものがある。この二つは人名・文献名等に漢字仮名の原文を補う。

索引の有無

「初句索引」と「一般索引」（人名・地名・書名等）を付す。

（福田秀一・浅川槇子）

■ 高倉院巖島御幸記・信生法師日記・

都のつと・善光寺紀行

■ タイトル

FOUR JAPANESE TRAVEL DIARIES OF THE
MIDDLE AGES

翻訳者

Herbert Plutschow（ヘルベルト・プルチョウ）、Hideichi Fukuda（福田秀一）

出版社 Cornell University

刊行年 1981年

頁数 127頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。プルチョウが、1973年にコロンビア大学に提出した中世紀行文学に関する学位論文を基にしたもの。研究編とも言うべき冒頭の「解説 Introduction」（23

頁余) でまず、およそ 70 を数える中世紀行文学の中から、そのスタイルを最もよく示す 4 作品を選んだと言う。続いて中古・中世の紀行文学を概説し、多くの作品を挙げながら、歌枕の重要性(その宗教的意義を高く評価し過ぎる)や修辭技巧、旅行の目的による分類の可能性、隠者と僧侶の別などを説いている。

翻訳に用いた底本情報

『高倉院巖島御幸記』:

水川喜夫『源通親日記全釈』(笠間書院、1978)

翻訳内容の構成、章立

『高倉院巖島御幸記』、『信生法師日記』、『都のつと』、『善光寺紀行』の英訳と研究。訳文は、それぞれの冒頭にその作品・作者についてやや詳しい解説を記し、底本について『高倉院巖島御幸記』は水川(ミズハラと誤記)喜夫の『源通親日記全釈』によったと言う。『信生法師日記』はどちらによったとも書いていないが、佐佐木信綱の最初の紹介とともに桂宮本叢書本をも挙げていて、両者を参照したとされる。他の 2 作品も底本のことはふれていない。本文は、文脈上必要な語句をしばしば角括弧で補い、和歌は長短不定の 4~6 行(多くは 5 行)としている。地名・引歌・故事などについては、番号を打って巻末の注で説く。

図版・挿絵の有無 作品ごとに、関連する場所の地図を掲載。

参考文献の有無

参考文献として、William LaFleur (ウイリアム・ラフルーア)『西行和歌抄訳書 (Mirror for the moon: a selection of poems / by Saigyō -)』(New Directions Pub.、1978)がある。参考文献(作品別、付記した William LaFleur の『西行和歌抄訳書 (『Mirror for the Moon』)』以外はすべて邦文)

を付す。

索引の有無 無

メモ・その他

『Cornell University East Asia Papers』Number 25。『朝日新聞』(1983年3月25日の「国際線」)に紹介がある。また『MN』vol. 37-1(1982春)に、B・M・ヤング(B. M. Young)の書評がある。訳文にプルチョウの母語ドイツ語を思わせる奇異な表現があり、後者はそれとともにいくつかの失考を指摘している。

(福田秀一・浅川槿子)

随筆

■ 方丈記

■ タイトル

HŌJŌKI [Notes from a Ten Feet Square Hut] from
the Japanese of Kamo no Chōmei,
A Buddhist Recluse of the 12th Century

翻訳者 F. Victor Dickins, C.B (F. ヴィクター・ディケンズ)

出版社 Gownas & Gray, Sankakusha

刊行年 1907年。1933年に再版。

頁数 38頁

序文・解説の内容と概略

表紙には、『HŌJŌKI : Square Hut』とあり、次に「A Famous Japanese Classic」と書かれている。当初『Royal Asiatic Society』に発表したもの（南方熊楠の助力を得た）の改訂という。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『方丈記』の英訳。全体を16章に分け、毎頁に地名や史実その他についての簡潔な脚注を付している。末尾付加の「月かげは入る山の端も～」の歌は5行書きで掲載する。訳文の後に短い「鴨長明の生涯」とやや長文の「南方熊楠の長明論」（西行の歌と称するもの1首と『鴨長明集』の歌8首の訳を添える）とを付す。

図版・挿絵の有無 無

参考文献の有無 無
索引の有無 無

(福田秀一・浅川槇子)

■ 方丈記・平家物語

■ タイトル

THE TEN FOOT SQUARE HUT AND TALES OF
THE HEIKE

翻訳者

Arthur Lindsay Sadler (アーサー・リンゼー・サドラー)

出版社 Greenwood Press

刊行年 1970年

頁数 271頁

序文・解説の内容の概略

解説は翻訳者による。冒頭の「解説 Introduction」(12頁)は、両作品の思想、内容(『平家物語』を『ローランの歌』やサーガと対比させている)、作者、歴史的背景などについて略説する。和歌は5-7-5-7-7というリズムを守って訳したが、懸詞などの修辞技巧までは訳出できていないことを断っている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『方丈記』の全訳と『平家物語』の抄訳とを併せて1冊としたもの。『平家物語』は『Transactions of the Asiatic Society of Japan』に発表したものを多少修正したと、「解説」末尾に言っている。しかし、頭注や脚注をかなり省いた他、

長い2行としていた和歌を5行にするなど、相当に修正している。本文の『方丈記』は、区切りを置かず一続きに翻訳している。『平家物語』の方は、冒頭「風の前の塵に同じ」までをイタリックとし、以下は巻数を示さず“*Boy Attendants*”（「禿」）、“*The Splendor of Kiyomori*”（「吾身栄花」）のように章題の訳を掲げて、“*The Passing Away of the Former Empress*”（「女院御往生」）まで50余章を採り、読者が一応作品全体を掴めるように配慮している。

図版・挿絵の有無

巻頭に後白河法皇の画像（東京大学蔵）と官職および僧官・僧位一覧を載せている。また、本文の随所には、元禄2（1699）年の版本の絵（計19面）を挿入する。末尾に日本・西洋対照の年表と当時の皇室の系図を載せている。

参考文献の有無 無

索引の有無 索引（和漢の人名・地名・書名等一括）を付す。

（福田秀一・浅川槇子）

■ 徒然草

■ タイトル

ESSAYS IN IDLENESS : THE TSUREZUREGUSA OF
KENKŌ

翻訳者 Donald Keene（ドナルド・キーン）

出版社 Columbia University Press

刊行年 1967年

頁数 x + 213頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。コロンビア大学史学科編集の『文明記録：史料と研究』叢書の東洋記録編集担当 Wm. Theodore de Bary (Wm. テオドール・ド・バリー) の「緒言 Foreword」に次いで、訳者自身が「序 Preface」で、本作の翻訳のむずかしさ（例えば訳文に類似の表現が繰り返さないようにする必要）や、人物を官職よりも実名で表したこと、注（各段の後に記す）は専門家のためであること、本文の問題の箇所は『日本古典文学大系 方丈記・徒然草』により、注解については田辺爵の『徒然草諸注集成』に負う点が多いことなどを断る。「解説 Introduction」（10頁）は、前半で作者兼好の時代・略歴・成立・流伝を略述し、後半の「作品」で随筆として『枕草子』との比較や兼好の尚古思想とその美学などを、要領よく説く。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『徒然草』の英訳。本文は、序段には番号も付さず、第1段以下は1・2～243と大きく標記し、人名・地名・出典や有職故実・習俗・仏教語などには、上述の趣旨で簡潔な注を付す。

図版・挿絵の有無

西川祐信『絵本徒然草』（菊屋喜兵衛、1740年初版→弘文堂船井政太郎、出版年不明→博文館、1894→富山房、1927）

参考文献の有無

前書きで、George Bailey Sansom 『The Tsuredzure Gusa of Yoshida No Kaneyoshi』（1911）を参考にしたとしている。また、末尾の「主要文献」に西尾實校注『日本古典文学大系 30 方丈記・徒然草』（岩波書店、1957）、田辺爵『徒然草 諸

注集成』(右文書院、1962)、松尾聡『新纂 徒然草全釈』上・下巻(清水書院、1953)、佐野保太郎『徒然草新講』(藤井書店、1934→福村書店、1949・1951)、富倉二郎『兼好法師研究』(東洋閣、1937)がある。

索引の有無 索引(人名・地名・書名・事項等一括)を付す。

メモ・その他

『Columbia College Program of Translations from the Oriental Classics』の1冊。

(福田秀一・浅川槇子)

■ とはずがたり

■ タイトル The Confessions of Lady Nijō

翻訳者 Karen Brazell (キャレン・ブラゼル)

出版社 Anchor Press Doubleday

刊行年 1973年

頁数 xxxi + 288頁

序文・解説の内容の概略

簡潔な序文と注釈を補注したこの翻訳は、研究者より一般読者向けの読み物となされている。その読みやすさが評価され1973年に翻訳賞(ナショナルブックアワード)受賞。1940年に山岸徳平により発見された唯一の写本は、1966年に初めて編集され発表された。それが日本文学、特に女流日記文学を考えるにあたって、どれほど影響を与えたかを述べる。作者の生きた時代の貴族社会から武人社会への変わり目、そしてその中で動いた知識人たち。女流日記に多くみられるごとく、その著作内では政治問題などはさけている。翻訳者

は『とはずがたり』以外にも当時の結婚のあり方、神道と仏教の関係、人々の「夢」の概念、哀愁という文章法も解説となる序文で短く論じる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

5巻をさらに細かくわけ、年も各箇所記すことにより、非常に解読しやすくなっている。翻訳最後に付されている注釈は少ないが、文化的前触れや、和歌の規則などを説明。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

次田香澄『日本古典全書 とはずがたり』（朝日新聞社、1966）の解釈に主に基づいているが、山岸徳平、富倉徳次郎、玉井幸助や呉竹同友会の注釈も参考にする。また、松本寧至、長野嘗一の注釈も参考になったとしている。

索引の有無 主な登場人物の索引あり。

（サトコナイトウ・伊井春樹・補：浅川槇子）

和歌・歌謡・連歌

■ 山家集

■ タイトル

A collection of Japanese poems from a mountain home / by Saigyō

翻訳者

Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 1996年

頁数 318頁

序文・解説の内容と概略

『山家集』の作者である西行について説明がある。まず西行は、俗名を「佐藤義清」と言う北面の武士であり、彼が藤原秀郷の子孫であることを述べている。1140年にいきなり出家をし、それ以後は仁和寺・紀伊・高野山・鎌倉など各地を旅したとしている。西行の歌については、その時代の典型的な歌ではなく、自然と西行個人の経験から生み出されたものであるとしている。また最後に僧としての西行に触れている。

翻訳に用いた定本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『山家集』の英訳。翻訳自体は、左に歌の詞書きが書かれ、行をかえて中央に詠者の名前が書かれている。さらに行をかえて左から歌の番号・歌の題名・歌の翻訳という形式をとっている。

図版、挿絵の有無 有

参考文献の有無 無

索引の有無 初句・結句の索引がある。

(浅川槇子)

■ 建礼門院右京大夫集

■ タイトル The Poetic Memories of Lady Daibu

翻訳者 Phillip Tudor Harries (フィリップ・ハリーズ)

出版社 Stanford, California: Stanford University Press

刊行年 1980年

頁数 xii + 324頁

序文・解説の内容の概略

359歌とその詞書の全本文の翻訳を、前半と後半に大きく二つに分けて、203番までを平氏の栄華を描くものとする。さらに、建礼門院の心境を基として6部分に分ける。解説では短い伝記、日記の構成などを述べる。補遺には本文修正、成立の年、本文や写本の歴史を述べる。

解説は『建礼門院右京大夫集』の魅力の一つとして、軍記物語や歴史資料から知られる人々が「人間らしく」描かれている事などを強調する。この時代の背景として平安朝とその直後、12世紀末の封建制への変化を示す。藤原氏、平氏、源氏の関係を鎌倉幕府設立までごく簡潔に説明。右京大夫について知られていること、父の藤原伊行(『源氏積』作者)や、雅楽寮に仕えた母・夕霧の大神家のことなど。1166年から1173年の間に女房として出仕する。右京大夫の呼称に関しては、彼女の後見者は誰かという問題が残る事を述べる。

翻訳に用いた底本情報

九州大学本を用いる。久松潜一他『日本古典文学大系 平安鎌倉私家集』(岩波書店、1964)。ほかに村井順『建礼門院右京大夫集評解』(有精堂出版、1971)、久保田淳「建礼門院右京大夫」(『國文學 解釈と鑑賞』12、學燈社、1967年1月)、本位田重美『評注 建礼門院右京大夫集全釈』(武蔵野書院、1950)を参考とする。

翻訳内容の構成、章立

和歌が読みやすく、通常の5行で翻訳とローマ字音訳(transliteration)された和歌が並んでみられる。これらは、和歌冒頭索引がある事からも探しやすく、読みやすい。注は翻訳の対向の頁に記されている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 日本語、英語あり。

索引の有無 事項索引、和歌初句索引あり。

(サトコナイトウ・伊井春樹・補：浅川槇子)

■ 新古今和歌集

■ タイトル

THE SHIN KOKINSHU—The 13th-Century
Anthology Edited by Imperial Edict

翻訳者 H. Honda (本多平八郎)

出版社 Hokuseido Press、Eirinsha Press

刊行年 1970年

頁数 563頁

序文・解説の内容と概略

「解説 Introduction」で『新古今和歌集』の成立・特質等

を略述し、和歌に多い懸詞や比喩に言及するが、訳には反映されていない。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『新古今和歌集』の仮名序と和歌の全訳。カバーと奥付には英文タイトルの下に「英訳新古今集」と添える。本文の初めに、「後鳥羽上皇に奉った藤原良経の序」と題して「仮名序」の全文を置き、和歌を5行に訳す。ただし、音数や韻律にはこだわらず、語句の意味も細部は捨てて一首の情景を写すことを主としている。詞書と左注は忠実に訳し、作者名は官位は省くが、称号等は訳す。

図版・挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 有

(福田秀一・浅川槿子)

■ 正治百首

■ タイトル

FUJIWARA TEIKA'S HUNDRED-POEM SEQUENCE
OF THE SHŌJI ERA, 1200

翻訳者 Robert H. Brower (ロバート・H・ブラウー)

刊行年 1978年

頁数 120頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。前半の「解説 Introduction」は「1、緒言」「2、定数歌の発達」「3、正治百首」(その成立と作者たち)

「4、定家と正治百首」（その成立過程）「5、定家の「百首」（その歌風・題材など）を考察している。

翻訳に用いた底本情報

久松潜一・西尾実校注『日本古典文学大系 歌論集能楽集』（岩波書店、1961年）

翻訳内容の構成、章立

藤原定家『正治百首』の英訳。頁数の大半を占める後半の「翻訳」は問題の百首の各歌について、先ず番号、次にローマ字書きの原文とその訳とを各5行（訳は各行を極力5-7-5-7-7の音数に近づける）に対比して示す。その後、語句・情景・本歌その他について解説を加える。

図版・挿絵の有無

永青文庫蔵『俊成・定家一筆懐紙』の解説・写真・釈文と英訳を付し、巻頭に東京国立博物館蔵『時代不同歌合』の藤原定家の部分が添えられている。

索引の有無

巻末に「引用文献一覧」と「初句索引」および「索引」（固有名詞・術語一括）を付す。

メモ・その他

『Monumenta Nipponica Monograph』第55冊。訳者には、『近代秀歌』に発表した『後鳥羽院御口伝』の英訳もある。

（福田秀一・浅川槇子）

■ 近代秀歌

■ タイトル

FUJIWARA TEIKA'S SUPERIOR POEMS OF OUR TIME—A Thirteenth-Century Poetic Treatise and Sequence

翻訳者

Robert H. Brower (ロバート・H・ブラワー)、Earl Miner (アール・マイナー)

出版社 University of Tokyo Press

刊行年 1967年

頁数 178頁

序文・解説の内容と概略

「解説 Introduction」(34頁)は、「歌人・批評家・教師としての定家」、「序論」(注、秀歌例に先立つ部分を指す)、「例歌」、「歌群の配列」の節を立て、それぞれ作品例を挙げて説く。

翻訳に用いた底本情報

『日本古典文学大系 歌論集 能楽集』(岩波書店、1961)

翻訳内容の構成、章立

『近代秀歌』自筆本の英訳と研究。秀歌例の部分は、各歌を5行に記したローマ字書きとその英訳(5行とし、各行を5-7-5-7-7またはそれに近い音節数とする)とを左右の頁に対比する。左頁(原文)には作者と出典の詞書および語句の注と定家の他の秀歌選への入集状況を、右頁(訳)には各歌の「時」「場所」「モチーフ」を記す。また、「解説」の末節と照応して、訳者らが強い影響を受けた小西甚一の論(“Association and Progression: Principles of Integration in

Anthologies and Sequences of Japanese Court Poetry, A.D.900-1350」『Harvard, Journal of Asiatic Studies』XXI、ハーバード大学、1958)を適用している。

図版・挿絵の有無

『時代不同歌合』『天子撰関御影』『自筆本『近代秀歌』』等の各一部の図版をも挿入する。

参考文献の有無 無

索引の有無

「付録」として「近代秀歌の諸本」「文学用語索引」（「本歌取」から「縁語」に至る7項目を訳語のABC順に掲げて簡潔に説明する）「文献」（論著を含む「資料」と「定家の秀歌選」とに分かつ）および「初句索引」「歌人名索引」を付す。

(福田秀一・浅川槇子)

■ 金槐和歌集

■ タイトル A golden pagoda-tree of Japanese poetry

翻訳者

Donald M. Richardon (ドナルド・M・リチャードソン)

出版社 Winchester, Virginia

刊行年 1995年

頁数 i + 134頁

序文・解説の内容の概略

序文では、作者である源実朝についての解説がある。実朝は源頼朝の子で、兄の頼家が死去した後に將軍職に就いたが、北条時政に実権を握られたことでそのエネルギーが歌へ向いたのだとしている。また、『金槐和歌集』の「金」が鎌の偏

を表し、「槐」は槐門（大臣の別称）を表しているため、『鎌倉右大臣家集』と呼ばれることにも触れている。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成と章立

『金槐和歌集』の英訳である。翻訳自体は、中央に和歌の部立てが書かれ、その下に詞書が書かれている。行を変えて、左に和歌のローマ字、右側に和歌の翻訳が書かれている。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 初句・結句の索引がある。

(浅川槿子)

■ 井蛙抄・頓阿法師詠

■ タイトル

JUST LIVING

—Poems and Prose by the Japanese Monk Tonna

翻訳者 Steven D. Carter (スティーブン・D・カーター)

出版社 Columbia University Press

刊行年 2003年

頁数 250頁

序文・解説の内容の概略

冒頭のやや長い解説で、頓阿の略伝と和歌史における彼の位置およびその研究の意義を説き、題詠歌の理解法について書いている。

翻訳に用いた底本情報

『草庵集』は『新編国歌大観4』（角川書店、1986）が底

本である。その他には『頓阿法師詠』（『中世和歌集 室町篇』岩波書店、1990）や本居宣長の『草庵集玉箒』の注も参照したという。『井蛙抄』は底本に『日本歌学大系 5』（風間書房、1957）を用い、『歌論歌学集成 第 10 卷』（三弥井書店、1999）も参照したとある。

翻訳内容の構成と章立

頓阿の和歌と歌論の抄訳。『草庵集』正統から計 150 首、『井蛙抄』第 6 からかなり多くの条を選んで英訳したもの。できる限り 5-7-5-7-7 の音節数を守ったが、原歌の思考・感情の流れや休止を各行の配置で表したとある。前半の「和歌」は 1 頁に 1 首、番号の次に詞書を掲げている。官職等は直訳している。上記のレイアウトで記した訳の後に原歌（句の境を斜線で示す）をローマ字書きで掲げる。後者の番号で言えば 4～10、24～27、20～22、24、26～37（中略）、61～67（以下、歌学歌論集成本になし）および歌学大系本 120 頁 1 行に至るまでかなりの条を採り、前半と同様の方針で訳出している。末尾に「主要人名・地名一覧」（ローマ字書き）と「和歌出典一覧」を付す。「コロンビア アジア研究シリーズ」の「アジア古典翻訳叢書」の 1 冊。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 初句索引（前半の和歌のみ）がある。

（福田秀一・補：浅川槇子）

■ 湯山三吟

■ タイトル THREE POETS AT YUYAMA

翻訳者 Steven D. Carter (スティーブ・D・カーター)

出版社

Institute of East Asian studies, Univ. of Calif. Berkeley,
Center for Japanese Studies

刊行年 1983年

頁数 ix + 126頁

序文・解説の内容の概略

冒頭の「謝辞 Acknowledgements」によれば、『MN』33巻(1978年夏秋)に発表したものを基にしているという。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

宗祇と『湯山三吟』の研究に、後者の英訳を付したもの。本文は、「1、序説：宗祇以前の連歌」「2、宗祇：ある連歌師の生涯」「3、[宗祇の] 詩的遺産」「4、湯山三吟：背景と鑑賞」(初め10句の分析を含む)「5、訳注」の5部からなり、左頁に句番号とローマ字の原文(各句1行)およびその訳(原文に合わせて2行または3行)を、右頁に季節(それを示す語も)または旅・恋等のモチーフと情景の詳しい説明および付合を注す。全体に、文献や補注的な事項を脚注に記す。

図版・挿絵の有無

末尾に「付録1：宗祇作品年表」「同2：湯山三吟の諸本略説」を付す。

参考文献の有無 「引用文献」(邦文・英文一括で著者のABC順)を載せている。

索引の有無 無

メモ・その他 『Japan Research Monograph』の第4冊。

(福田秀一・浅川槇子)

歌論

■ 正徹物語

■ タイトル

CONVERSATIONS WITH SHŌTETSU
(Shōtetsu Monogatari)

翻訳者

Robert H. Brower (ロバート・H・ブラワー)

出版社

Center for Japanese Studies, The University of Michigan

刊行年 1992年

頁数 v + 223頁

序文・解説の内容の概略

序文は、Steven D. Carter (スティーブン・D・カーター) である。「解説」は、「緒言」(中世後期の和歌史における正徹の位置を説く)、「中世後期の和歌」(新古今時代以後の和歌史を歌の家の抗争・消長に重点をおいて略述)、「正徹」(彼の伝記と作風の詳細な考察)、そして『正徹物語』の諸本・成立・内容を概説している。さらに、内容を「逸話」、「弟子への教訓」、「例歌」、「美的理念」の4項に分けて解説している。

翻訳に用いた底本情報

『日本古典文学大系 歌論集 能楽論集』(岩波書店、1988)

翻訳内容の構成と章立

カーターが、訳文にも僅かの加筆をした。章段の出入りを『日本歌学大系5』(風間書房、1957)と比較した上、丁寧

に英訳したものである。例歌は句ごとに改行して、ローマ字書きの原文と各行を、5-7-5-7-7 もしくはそれに近づけた音節数にした訳とを対比して示している。また、固有名詞・述語・その他の語について、かなり細かく脚注で説く。巻末に、固有名詞・学術語の漢字（稀に仮名）一覧を付す。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 和文・英文一括のものがある。

索引の有無 固有名詞と学術語を対象にしたものがある。

(福田秀一・補：浅川槿子)

■ ささめごと

■ タイトル

Murmured conversations : a treatise on poetry and
Buddhism by the poet-monk Shinkei

翻訳者

Esperanza Ramirez-Christensen (エスペランサ・ラミレス
・クリステンセン)

出版社 Stanford University Press

刊行年 2008 年

頁数 xiv + 416 頁

序文・解説の内容と概略

書名『ささめごと』の意味と、作者である心敬についての解説がある。

翻訳内容の構成、章立

『ささめごと』の英訳。62 章からなる。各章の本文の下に「COMMENTARY」という翻訳者の解説がある。書名や古語

は、斜字体で記載する。

翻訳に用いた底本情報

底本は、木藤才蔵・井本農一校注『日本古典文学大系 連歌論集 俳論集』（岩波書店、1961）である。英訳では Esperanza Ramirez-Christensen の『Heart's Flower : The Life and Poetry of Shinkei』（Stanford University Press、1994）を参考にしたとする。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無

伊地知鉄男 校注訳『日本古典文学全集 連歌集・能楽論集・俳論集』（小学館、1971）

索引の有無 巻末に登場人物と固有名詞の索引がある。

(浅川槿子)

漢詩

■ 狂雲集

■ タイトル

IKKYU AND THE CRAZY CLOUD ANTHOLOGY —A Zen Poet of Medieval Japan

翻訳者

Sonja Arntzen (ソニア・アルンツェン)、Shuichi Kato (加藤周一)

出版社 University of Tokyo Press

刊行年 1986年

頁数 xvi + 197頁

序文・解説の内容と概略

Shuichi Katoの「緒言」では、一休をフランソワ・ヴィヨン、陶淵明、ジョン・ダンに対比する。「序」では、Sonja Arntzenが、京都留学で指導を受けた柳田聖山・平野宗浄への謝意などを述べる。研究編とも言うべき「解説」では、「一休：人と時代」、「非二元論の弁証法」（「善悪不二」の思想）、「典拠による修辭」（五山詩に顕著な本歌取的手法）、「底本とその構成」の4章を立てて的確に説く。

翻訳に用いた底本情報

市川白弦・入矢義高・柳田聖山校注『日本思想大系 16 中世禅家の思想』（岩波書店、1972）

翻訳内容の構成、章立

Sonja Arntzen、Shuichi Katoによる一休の評伝と『狂雲

集』の抄出英訳。翻訳して引用した作品の原文を該当頁の右端に掲げる。『狂雲集』から144首を選び、題から訳して（詩は一句1行に）詳しい注解を施したもの。

図版・挿絵の有無

巻頭には一休の画像と墨跡各2葉を載せている。

参考文献の有無

末尾に「文献」（中国語を含めてローマ字で出し、必要な漢字を添える）を付す。

索引の有無

「詩索引」（題によって掲げ、題を欠くものは題材または初句の訳で出す）、「語彙索引」（固有名詞や術語をローマ字で掲げ、漢字を添えて所出頁を示す）を付す。

（福田秀一・浅川槇子）

■ 狂雲集・一休骸骨

■ タイトル WILD WAYS : Zen Poems of Ikkyu

翻訳者 John Stevens (ジョン・スティーブンス)

出版社 Shambhala Publications

刊行年 1995年

頁数 xvi + 131頁

序文・解説の内容と概略

冒頭の「訳者解説」で一休の生涯を略説する。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

John Stevensによる『狂雲集』の抄出英訳に、『一休骸骨』の英訳を付したもの。本文は“Zen Poems”と“Skeletons”の

2部からなり、解放的な禅生活と性の喜びとを歌ったものを選んだという。『狂雲集』は、題詞を掲げて60余首を示す。韻律・音数にはこだわらず、人名やいくつかの事実などは脚注で説く。『一休骸骨』は全文を訳し、和歌は無韻の5行とする。

図版・挿絵の有無

挿絵に、『一休諸国物語図会』や『一休咄』から採った絵を挿入する。1693年の版本（絵入）の頁を多く示す。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

（福田秀一・浅川槇子）

謡曲

■ 能楽論

■ タイトル ON THE ART OF THE NŌ DRAMA

翻訳者

J. Thomas Rimer (J・トーマス・リメル)、
Yamazaki Masakazu (山崎正和)

出版社 Princeton University Press

刊行年 1984年

頁数 298頁

序文・解説の内容と概略

ミズーリ州セントルイスの劇場芸術監督、Wallace Chappell (ウォレス・チャップル) の「緒言」と訳者の「謝辞」があるほか、訳者の「世阿弥能楽論の背景」と山崎正和の「曖昧の美学：世阿弥の能楽論」の2本の論文が収録されている。

翻訳に用いた底本情報

『習道書』：

能勢朝次『世阿彌十六部集 評釋』（岩波書店、1940）

『風姿花伝』、『至花道』、『花鏡』、『遊楽習道風見』、『九位』、『拾玉得花』、『三道あるいは能作書』、『申楽談義』：

久松潜一・西尾実校『日本古典文学大系 歌論集・能楽論集』（岩波書店、1961）

翻訳内容の構成、章立

世阿弥の能楽論の英訳。「能楽論九篇」として、『風姿花伝』、『至花道』、『花鏡』、『遊楽習道風見』、『九位』、『拾玉得花』、『三

道あるいは能作書』、『習道書』、『申楽談義』の訳文を掲げる。末尾に「1、英和語彙」（英訳した術語の漢字を含む原語とその説明）、「2、和英語彙」（ローマ字と漢字で掲げた術語の説明）、「3、主要人物（解説）」、「4、引用曲略解」を付す。

図版・挿絵の有無

本文中の1箇所には舞台と面の写真（カラー）、山崎氏の論文の後に禅竹の「二曲三体図」の写真を入れる。

参考文献の有無

山崎正和『日本の名著 10 世阿弥』（中央公論社、1969）、田中裕『新潮日本古典集成 世阿弥芸術論集』（新潮社、1976）、表章・加藤周一校注『日本思想大系 24 世阿彌禅竹』（岩波書店、1974）がある。この他、欧文主要文献を付す。

索引の有無 有

メモ・その他

『Princeton Library of Asian Translations』の1冊

（福田秀一・浅川槇子）

■ 風姿花伝

■ タイトル

The flowering spirit :
classic teachings on the art of Nō

翻訳者

William Scott Wilson (ウィリアム・スコット・ウィルソン)

出版社 Kodansha International

刊行年 2006 年

頁数 183 頁

序文・解説の内容と概略

翻訳者が30年ほど前に熱田神宮で見た能に魅せられ、「能」のバイブルと言える『風姿花伝』を翻訳しようと思ったことが述べられる。「能」の起源から、「能」の世界における「花」や「幽玄」など、本文の語句説明も兼ねて書かれている。また、本文の翻訳以外に、観阿弥・世阿弥親子の生涯にも触れている。

翻訳内容の概略、章立

『風姿花伝』の英訳。『敦盛』の英訳も収録されている。

翻訳に用いた底本情報

『風姿花伝』は、能勢朝次の『世阿弥十六部集』（岩波書店、1940）、『風姿花伝』（岩波文庫、岩波書店、1957）。『敦盛』は、二十四世観世左近の『敦盛』（檜書店、1950）を翻訳した。

図版、挿絵の有無

国立能楽堂が協力した能に関する写真を掲載している。『敦盛』の冒頭には、観世流で演じられた『敦盛』の写真が載っている。

参考文献の有無 有

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 敦盛

■ タイトル 敦盛 ATSUMORI

翻訳者

Monica Bethe (モニカ・ベス)、Richard Emmert (リチャード・エメット)、Karen Brazell (カレン・ブラゼル)

出版社 National Noh Theatre

刊行年 1995年

頁数 92頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。能を英訳することについて述べている。

翻訳に用いた底本情報 金春流・宝生流・和泉流の教本。

翻訳内容の構成、章立

能『敦盛』の全訳。登場人物とその装束・舞台での小道具が写真入りで説明されている。場面ごとの概略もまとめられている。本文は、漢字・ローマ字・英訳と3段組。

図版・挿絵の有無

舞台での写真と名称、登場人物の装束に関するイラストが載せられている。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

同じ国立能楽堂が出版しているものに、『葵上』、『絵馬』、『藤戸』、『松風』、『三井寺』、『天鼓』などがある。

(浅川槇子)

■ 松風

■ **タイトル** MATSUKAZE

翻訳者

Monica Bethe (モニカ・ベス)、Richard Emmert (リチャード・エメット)、Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)

出版社 National Noh Theatre

刊行年 1992年

頁数 80頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。能を英訳することについて述べている。『松風』の「松」は、「松の木」と「待つ」を掛けていると説明する。

翻訳に用いた底本情報

金春禅鳳・観世元広が記した本・光悦本。

翻訳内容の構成、章立

能の『松風』の全訳。場面ごとの概略もまとめられている
本文は、漢字・ローマ字・英訳と3段になっている。

図版・挿絵の有無

登場人物とその装束・舞台での小道具が写真入りで掲載。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 藤戸

■ タイトル FUJITO

翻訳者

Monica Bethe (モニカ・ベス)、Richard Emmert (リチャード・エメット)、Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)

出版社 National Noh Theatre

刊行年 1992年

頁数 70頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。能を英訳することについて述べている。

翻訳に用いた底本情報 宝生流・喜多流・観世流の教本。

翻訳内容の構成、章立

能『藤戸』の全訳。場面ごとの概略もまとめられている。

本文は、漢字・ローマ字・英訳と3段になっている。

図版・挿絵の有無

登場人物とその装束・舞台での小道具が写真入りで掲載。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 三井寺

■ タイトル MIIDERA**翻訳者**

Monica Bethe (モニカ・ベス)、Richard Emmert (リチャード・エメット)、Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)

出版社 National Noh Theatre (国立能楽堂)

刊行年 1993年

頁数 87頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。能を英訳することについて述べている。

翻訳に用いた底本情報 喜多流・宝生流・大蔵流の教本。

翻訳内容の構成、章立

能『三井寺』の全訳。場面ごとの概略もまとめられている

本文は、漢字・ローマ字・英訳と3段になっている。

図版・挿絵の有無

登場人物とその装束・舞台での小道具が写真入りで掲載。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 天鼓

■ タイトル TENKO

翻訳者

Monica Bethe (モニカ・ベス)、Richard Emmert (リチャード・エメット)、Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)

出版社 National Noh Theatre (国立能楽堂)

刊行年 1994年

頁数 83頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。能を英訳することについて述べている。

翻訳に用いた底本情報 金春流・宝生流・大蔵流山本家の教本。

翻訳内容の構成、章立

能『天鼓』の全訳。場面ごとの概略もまとめられている。

本文は、漢字・ローマ字・英訳と3段になっている。

図版・挿絵の有無

登場人物とその装束・舞台での小道具が写真入りで掲載。

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 絵馬

■ タイトル EMA

翻訳者

Monica Bethe (モニカ・ベス)、Richard Emmert (リチャード・エメット)、Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)

出版社 National Noh Theatre

刊行年 1996年

頁数 82頁

序文・解説の内容の概略

序文は翻訳者による。能を英訳することについて述べている。

翻訳に用いた底本情報 金剛流・宝生流・和泉流の教本。

翻訳内容の構成、章立

能『絵馬』の全訳。場面ごとの概略もまとめられている本文は、漢字・ローマ字・英訳と3段になっている。

図版・挿絵の有無

登場人物とその装束・舞台での小道具が写真入りで掲載。

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 百合若

■ タイトル

THE STORY OF YURIWAKA—A Japanese Odyssey

翻訳者

Erik Haugaard (エリック・ホガード)、Masako Haugaard

(マサコ・ホガード)

出版社 Robert Rinehart Publishers

刊行年 1991 年

頁数 42 頁

序文・解説の内容と概略 無

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『百合若』の物語絵本。解説も目次もないが、本文の途中に *YURIWAKA BIDS FAREWELL TO LADY KASUGA AND MIDORIMARU, THE BEPPU BROTHERS ABANDON THE SLEEPING YURIWAKA, THE ARCHERY CONTEST* の中扉を置く。

図版、挿絵の有無

毎頁挿絵またはカット（紋所）を、各章に 1 図（見開き）カラーの絵（ややコミック風）を入れるが、これらは Birgitta Saflund の筆である。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(福田秀一・浅川槇子)

神道・仏教

■ 春日権現験記・榊葉日記

■ タイトル THE MIRACLES OF THE KASUGA DEITY

翻訳者 Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1990年

頁数 xv + 314頁

序文・解説の内容と概略

『春日権現験記』の総合的研究に、二条良基の『榊葉日記』の英訳を添え、「験記絵巻」の詞の英訳と各場面の解説とを展開した英文研究書。奈良県立図書館や景山春樹、陽明文庫の名和修らに対する「謝辞 Acknowledgments」がある。暦日や寺社の職名等の英訳について述べた後、「風習と官職名」、鎌倉末期の宮廷と興福寺・春日神社のこと、「験記」の研究史（それが乏しいこととその理由について。4頁余）などの「序説 Introduction」を前に置き、本文は大きく2部からなる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

第一部の初めの7章（「第一章 作品」（成立・流伝）、「第二章 詞」（構成と内容）、「第三章 社」（春日社の由来・沿革・祭礼など）、「第四章 寺」（興福寺の歴史と組織）、「第五章 信仰」（春日信仰と解脱上人など）、「第六章 [祭神の] 姿と夢」、「第七章 [春日に因む] 和歌と能」）は、『験記』と両寺社についての各方面からの検討である。「第八章 榊葉の日記

(『榊葉日記』)は解説(2頁)と簡単な注を付した英訳である。和歌は音節数を無視した5行にしている。

第二部は「験記絵巻」(20巻)各巻の段ごとに題と詞を訳して、固有名詞や有職故実・史実・仏教語その他にかなり詳しい注を付したもの。時に関連史料の注意すべき異同をも付記する。『文明報告：源流と研究』の第98冊。

図版、挿絵の有無

絵を白描縮写で掲げてその状景についての解説も加える。

参考文献の有無 和文・欧文一括のものがある。

索引の有無 人名・書名・事項等一括の索引がある。

(福田秀一・浅川槇子)

■ 法然上人絵伝

■ タイトル

HONEN THE BUDDHIST SAINT

-His Life and Teaching

翻訳者

Harper Havelock Coates (ハーパー・ハブロック・コーツ)、
Ryugaku Ishizuka (石塚龍学)

出版社 弘道閣

刊行年

1930年大正14(1925)年の訂正第2版。この後、昭和24(1949)年にも同じ翻訳者により出版されている。

頁数 XCVI+955頁

序文・解説の内容と概略

『法然上人絵伝』(勅修御伝)の英訳に法然についての解説

を付したもの。大正 14 年（1925）に初版を刊行したものの訂正第 2 版。冒頭「第 2 版の序」（訳者連名）に次いで「解説 Introduction」（連名、19 頁）として法然とその教えについて概説し、「訳者序」（各自）で本書の意図や成立経緯などを述べる。

翻訳に用いた底本情報 知恩院蔵本

翻訳内容の構成、章立

本文は、日本仏教の展開から法然の教えや門弟とその伝記史料までを 8 章に分けて述べた「史的概説 Historical Introduction」（初めの 83 頁）と舜昌法印の「勅修御伝」の詞書の英訳との 2 部からなり、両部を通じて段落に小見出しを立てている。底本（知恩院蔵）の巻（章 Chapter と訳す）ごとに詳しい注（人名・地名・術語・制度等）を付している。漢字語を画数順に並べ、その日本語・中国語の読みを示した「漢字語一覧」がついている。

図版、挿絵の有無

橋の上を法然上人が浮かんで渡っている絵と、知恩院蔵で藤原隆信筆の法然上人肖像画（『隆信の御影』）が載っている。

参考文献の有無

詳しい「文献目録」（内容は主として仏典）を掲げる。

索引の有無

索引はローマ字書きした固有名詞・事項など多数である。

（福田秀一・浅川槇子）

近世

Edo Period



句集・俳句関係

■ 奥の細道

■ タイトル

BACK ROADS TO FAR TOWNS :
Basho's OKU-NO-HOSOMICHI

翻訳者

Cid Corman (シッド・コールマン)、Susumu Kamaike (釜池進)

出版社 Charles E. Tuttle

刊行年 1968年。

1968年初版 (Grossman Publishers)。これはその第2版である。

頁数 173頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。『奥の細道』のもとになった旅の解説に始まり、芭蕉の俳諧やその抒情性に言及。のち、端書きとして、俳句の表示形式や全体の構成について述べる。発音の手引きとして、日本語の母音と響きの似た英語の音を示す。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

松尾芭蕉の俳諧紀行『奥の細道』の全訳。構成は、序、翻訳者による端書き、発音の手引き、本文、注記、地図。本文は見開きの左頁に原文、右頁に英訳。俳句は3行書き、本文頭注あり。原文の漢字には振り仮名が付され、またこれに先

立って発音の手引きが示されるなど、英語使用者が原文を音読しやすい作りになっている。なお、注記には芭蕉の略歴や原文の書誌情報、注釈について記され、続いて本文の補注が掲げられている。『A Mushinsha Limited Book』。

図版、挿絵の有無

画は、Ikutada Hayakawa（早川畿忠）。表紙カバー、挿絵ともにカラー。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

Cid Corman と Susumu Kamaike はこれ以外にも、2人で草野心平や芥川龍之介の翻訳などを行っている。

(入口敦志・木下綾子)

■ タイトル

A HAIKU JOURNEY : Basho's Narrow Road to a Far Province (和英併記『奥の細道』)

翻訳者

Dorothy Guyver Britton (ドロシー・ガイバー・ブリトン)

出版社 Kodansha International

刊行年 1974年

頁数 124頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。代表的な作品に触れて芭蕉の生涯と『奥の細道』を概説し、和歌と俳句の形式や音韻について論じる。

翻訳に用いた底本情報

中野博雄『松尾芭蕉』(日栄社、1973)。この他、宮森麻

太郎訳『An Anthology of Haiku: Ancient and Modern (古典近代俳句集)』(丸善、1932)、湯浅信之訳『The Narrow Road to the Deep North and Other Travel Sketches』(Penguin Classics、1970)を参照している。

翻訳内容の構成、章立

松尾芭蕉の俳諧紀行『奥の細道』の全訳。前半に英訳(29～86頁)、後半に和文(89～124頁)を載せる。英訳、和歌は5行書き。

図版、挿絵の有無

表紙カバーは、立石寺芭蕉句碑。旅程を示した地図を掲載する(24～25頁)。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(入口敦志・木下綾子)

■ 野ざらし紀行・かしま紀行・笈の小文・ 更科紀行・奥の細道

■ タイトル

THE NARROW ROAD TO THE DEEP NORTH AND
OTHER TRAVEL SKETCHES

翻訳者 Nobuyuki Yuasa (湯浅信之)

出版社 Penguin Books

刊行年 1977年(1968年初版)

頁数 167頁

序文・解説の内容と概略 序文は翻訳者自身による。

翻訳に用いた底本情報 元禄15年板本

翻訳内容の構成、章立

松尾芭蕉の俳句の英訳である。以下のような章題を付す。

「*The records of a weather-exposed skeleton* 『野ざらし紀行』」

「*A visit to the Kashima shrine* 『かしま紀行』」

「*The records of a travel-worn satchel* 『笈の小文』」

「*A visit to Sarashina village* 『更級紀行』」

「*The narrow road to the deep north* 『奥の細道』」

図版、挿絵の有無

逸翁美術館所蔵、蕪村筆「奥の細道画卷」を元に描き起こしている。15 図。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(鈴木淳)

■ おらが春

■ タイトル

THE YEAR OF MY LIFE :

A Translation of Issa's Oraga Haru

翻訳者 Nobuyuki Yuasa (湯浅信之)

出版社

University of California Press

刊行年 1972 年 (1960 年初版)

頁数 140 頁

序文・解説の内容と概略

序文として 3 頁。初版では、著者が師事した教授、協力者等への謝辞と参考文献を付す。第 2 版では、初版に加筆修正

している。解説では、一茶の生い立ちから『おらが春』について、俳句の成り立ちから蕉風俳譜について、与謝蕪村と小林一茶の句についてを、例句を挙げつつまとめる。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

『おらが春』の英訳。「嘉永5年釈迦入滅の日」、巻1～巻21、Postscript 1、「嘉永4年春分の日」、Postscript 2 (Undated) を収録。

図版、挿絵の有無

33頁(内題「おらか春 一茶」)、50～51頁、69頁、71頁、77頁、111頁、124頁。33頁の「一茶」の2字は表紙に使われているものと同一。これら口絵は『Haikiji Issa Shinseki Oraga Haru Kohon』(1925)によると、初版前書きにある。また、作品・著者紹介の書かれた茶色の用紙が挟み込まれている。

参考文献の有無

初版の序文最終頁に3冊記載。『Haikaiji Issa Shinseki Oraga Haru Kohon』(1925)、荻原井泉水校・小林一茶『おらが春・我春集』(岩波文庫、岩波書店、1941)、川島つゆ『おらが春 新解』(明治書院、1955)。

索引の有無 無

(鈴木淳・小川千寿香)

■ アンソロジー（芭蕉～子規）

■ タイトル

AN INTRODUCTION TO HAIKU :
AN ANTHOLOGY OF POEMS AND POETS FROM
BASHO TO SHIKI

翻訳者 Harold G. Henderson (ハロルド・G・ヘンダーソン)

出版社 Doubleday & Company

刊行年 1958年

頁数 190頁

序文・解説の内容と概略 無

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶、正岡子規などの俳句の英訳。1～9章立てとする。章題は以下のようになっている。

「Chapter 1 Characteristics of Haiku」

「Chapter 2 Early Haiku」

「Chapter 3 Basho」

「Chapter 4 Basho's Pupils」

「Chapter 5 Other Early Eighteenth Century Poets」

「Chapter 6 Buson」

「Chapter 7 Buson's Contemporaries」

「Chapter 8 Issa」

「Chapter 9 Shiki」

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 無

索引の有無 無

■ タイトル

**The river of heaven :
the haiku of Bashō, Buson, Issa, and Shiki**

翻訳者 Robert Aitken (ロバート・エイトキン)

出版社 Counterpoint

刊行年 2011年

頁数 199頁

序文・解説の内容と概略

句の選択とコメントは Robert Aitken、序文は Susan Moon (スーザン・ムーン)。

翻訳内容の構成、章立

9章からなる。「THE SPRING SEA」(春の海)と「THE SUMMER MOOR」(夏の湿原)をテーマに、松尾芭蕉・小林一茶・与謝蕪村・正岡子規の俳句を載せている。本文を見ると、俳句の句題・ローマ字表記・英訳の順で書かれ、その下に説明が書かれている。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 連歌～俳句・英語俳句

■ タイトル

**ONE HUNDRED FROGS :
From Renga to Haiku to English**

翻訳者

Hiroaki Sato (佐藤紘彰)、Burton Watson (バートン・ワトソン)

出版社 Weatherhill

刊行年 1983年

頁数 xiv + 241頁

序文・解説の内容と概略

著者による序文あり。短歌から連歌、発句、俳句へと至る流れとそれぞれの意義を解説し、本書の内容、参考文献、謝辞を述べる。詩歌の主要用語集を付載。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

連歌から発句、俳句に至る文学史と、それらの英訳における受容史をまとめた論考。Part One 「From Renga to Haiku」の第1章から第5章では芭蕉を軸に上記文学史を概観する。Part Two 「Translating into English」の第6～7章では、「古池や」の先行英訳を引用・整理しながら翻訳の方法を考察する。Part Three 「Composing in English」の第8～9章では、著者を含む英語使用者による連歌・俳句作品を掲げる。

図版、挿絵の有無

表紙カバーは Susie Agoston (スージー・アゴストン)。
図版は8枚8頁(114頁と115頁の間)。

- (1) 延徳3年(1491)10月20日宗祇・肖柏・宗長『湯山三吟』
[風早久右衛門蔵]
- (2) 与謝蕪村『奥の細道画卷』酒田 [逸翁美術館蔵]
- (3) 杭全神社連歌所
- (4) 与謝蕪村『奥の細道画卷』山中 [逸翁美術館蔵]
- (5) (6) (7) 仙厓義梵『芭蕉蛙面賛』(二幅)ほか1点 [出

光美術館蔵]

(8) 芭蕉筆「ふる池や」句短冊(色違打曇)[伊丹市、財団法人柿衛文庫蔵]

参考文献の有無 有(225～229頁)。

索引の有無 有(231～241頁)。

メモ・その他

佐藤紘彰と Burton Watson の共著、日本詩歌アンソロジー『From the Country of Eight Islands』は P.E.N の 1982 年翻訳賞を受賞している。

(入口敦志・木下綾子)

歌集

■ はちすの露

■ タイトル DEW-DROPS ON A LOTUS LEAF

翻訳者 Jakob Fischer (ジェイコブ・フィッシャー)

出版社 研究社

刊行年 1937年

頁数 152頁

序文・解説の内容と概略

序文は著者のほか、新潟大学医学部教授・宮内省侍医頭兼侍医の入沢達吉（郷土の文人良寛の存在を著者に教示した）、同県出身の詩人・歌人・評論家である相馬御風によって記されている。良寛作品初の翻訳（入沢の序文）という文学史上の意義を有する。外国人講師や新潟県をめぐる文化史・地域史を考える上でも興味深い。

翻訳に用いた底本情報 無

翻訳内容の構成、章立

良寛の和歌・漢詩作品の英訳。左開きの袋綴、四つ目綴、半紙本。打付外題「*Dew-drops on a Lotus Leaf by J. Fischer* 蓮乃露」。枯草地に蓮と菊の唐草、鳳凰柄の帙入。帙には外題の刷題簽。四周単辺、柱書き「DEW-DROPS ON A LOTUS LEAF」、上下端に黒魚尾。奥付は小札にて差し込み。原作が貞心尼編の良寛歌集であるのに対し、これは評伝（1～9章、9～81頁）、和歌・漢詩作品の翻訳（10章、82～146頁）、晩年の貞心尼との交流（11章、147～149頁）からなり、

付録として仏教の五蘊を掲げる。

図版、挿絵の有無

扉絵（裏表紙にもあり）、口絵安田鞞彦画「良寛像」(III)。安田鞞彦蔵良寛像・書 (XVI)、斎藤茂吉書 (XVIII)、良寛筆(斎藤茂吉蔵) (XX)、良寛筆(新潟高校学校岡田蔵) (XXII)、津田青楓書画 (XXIV) の5点については、見開きで和歌・漢詩のローマ字表記・翻訳と組になっている。「世の中にまじらぬ時はあらねどもひとり遊びそ我はまされる」(XVII)、「あまぎらし雪の降る日はいにしへの越の聖をこうべくなりぬ」(XIX)、「山水の音さへ寒きかの庵に冬ごもりする老いの君はも」(XXI)、「秋の夜は長しといへどさすたけの君と語れば短くもあるかな」(XXIII)、「首を回らす七十有余年の是非看破に飽きたり。往来の跡幽なり深夜の雪、一柱の線香古窓の下」(XXV)。ほかに、13頁、18頁、23頁、30頁、36頁、37頁、42頁、61頁、66頁、151頁に挿絵。

索引の有無 無。

メモ・その他

Jakob Fischer はドイツ出身で、当時、新潟市新潟高等学校教諭。

(入口敦志・木下綾子)

随筆・記録

■ 蘭学事始

■ タイトル

DAWN OF WESTERN SCIENCE IN JAPAN :
Rangaku Kotohajime

翻訳者

Ryozo Matsumoto (松本良三)、Eiichi Kiyooka (清岡暎一)。
監修 Tomio Ogata (緒方富雄)、Masafumi Tomita (富田正
文)、Kazuyoshi Nakayama (中山和芳)

出版社 北星堂書店

刊行年 1969 年

頁数 xxx + 74 頁

序文・解説の内容と概略

序文は監修者の緒方富雄による。鎖国や禁教と長崎出島、オランダ医学の伝来と蘭学の発展など時代背景から語り起こし、杉田玄白、前野良沢、中川淳庵の三者と『ターヘル・アナトミア』の出会い、『解体新書』の翻訳が語られる。続いて、『蘭学事始』刊行の経緯、すなわち、杉田玄白の執筆、神田孝平による写本の発見、福沢諭吉による刊行のことが述べられ、このたびの翻訳・出版の経緯と翻訳者・監修者の紹介が行われる。

翻訳に用いた底本情報

天真楼蔵版『蘭学事始』明治2年再版本(緒方富雄校注『蘭学事始』岩波文庫、岩波書店、1959)

翻訳内容の構成、章立

文化12年(1815)成立、杉田玄白『蘭学事始』の英訳。玄白の草稿を編集した大槻玄沢の序文を除く。原著に章立てはない。岩波文庫本に倣って42章に分けられ、それぞれに章題が付されている。『ターヘル・アナトミア』の入手と腑分け見学、翻訳の苦心、『解体新書』出版や同志や後輩の動向を、蘭学の草創期から盛行期に至る流れとともに語る。なお、慶長から昭和に至る和暦西暦対照表を取める。

図版、挿絵の有無

表紙は『解体新書』による。図版は11枚8頁。

- (1) 石川大浪筆「杉田玄白像」(早稲田大学図書館蔵)
- (2) Johan Adam Kulmus (ヨハン・アダム・クルムス) 著・Gerardus Dicten (ゲラルドス・ディクテン) 蘭訳『Ontleedkundige Tafelen』(Tabulae Anatomicae) (1734)
- (3) 明治2年(1869)新刻『蘭学事始』中表紙と本文1頁
- (4) (5) 杉田玄白らの小塚原腑分け実地見学の碑と『解体新書』翻訳の碑
- (6) 『Ontleedkundige Tafelen』表紙
- (7) (8) 『Ontleedkundige Tafelen』人体前面・背面図と『解体新書』におけるその模写
- (9) 『解体新書』表紙
- (10) (11) 『Ontleedkundige Tafelen』と『解体新書』本文1頁。

参考文献の有無

付録として、日本美術・日本語全般における主要文献を掲げる(73～74頁)。

索引の有無 無

(鈴木淳・入口敦志・木下綾子)

■ 五輪書

■ タイトル The Book of Five Rings

翻訳者

William Scott Wilson (ウィリアム・スコット・ウィルソン)

出版社 Kodansha International

刊行年 2002年

頁数 i + 157頁

序文・解説の内容の概略

宮本武蔵の生涯を紹介し、「日本の武士は、武士としてのあり方をどこで身につけるのか」、「剣道について」などの解説がある。

翻訳に用いた底本情報

高柳光寿校訂『五輪書』（岩波文庫、岩波書店、1942）

翻訳内容の構成と章立

宮本武蔵の『五輪書』を英語に翻訳したものである。文中に登場する、「兵法」・「拍子」・「心」・「利」・「徳」という5つの言葉を翻訳するのに苦心したことも書かれている。また、武蔵の著作として『五輪書』に先行する、『兵道鏡』・『兵法三十五箇条』・『兵法四十二箇条』・『独行道』などの翻訳も載せる。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 折たく柴の記

■ タイトル

TOLD ROUND A BRUSHWOOD FIRE

The Autobiography of Arai Hakuseki

翻訳者 Joyce Ackroyd (ジョイス・アクロイド)

出版社 University of Tokyo Press

刊行年 1979 年

頁数 347 頁

序文・解説の内容と概略

作者新井白石とその時代、及び自伝『折たく柴の記』について述べる。

翻訳に用いた底本情報

『新井白石全集』(内外印刷、1906 年)を元に、白石自筆本(マイクロフィルム)によって校訂。

翻訳内容の構成、章立

『折たく柴の記』の英訳。3 章に分ける。

図版、挿絵の有無 有 (4 頁)。

参考文献の有無 無

索引の有無 有 (7 頁)

メモ・その他 「UNESCO」シリーズの一冊。

(鈴木淳)

小説

■ 好色五人女

■ タイトル FIVE WOMEN WHO LOVED LOVE

翻訳者

William Theodore de Bary (ウィリアム・セオドア・ド・バリー)、Richard Lane (リチャード・レーン)

出版社 C. E. Tuttle

刊行年 初版は 1956。1978 年 (20 版)。

頁数 264 頁

序文・解説の内容と概略

翻訳者による端書き (9～11 頁)、序文 (13～38 頁) あり。Richard Lane による解説 (231～263 頁) では、成立の背景や素材となった事件について解説する。西鶴の略歴 (264 頁) についても述べる。

翻訳に用いた底本情報

貞享 3 (1686) 年刊、井原西鶴作、吉田半兵衛画の 5 巻 5 冊。笹川種郎 (臨風) 解題『近代日本文学大系 3 井原西鶴集全集』(国民図書、1927)。このほかに、手元の版本は修正が多かったため、戦前に Japan Institute に寄贈された国際文化振興会のテキストを確認し、さらに疑わしい点は暉峻康隆『好色五人女評釈』(明治書院、1953) を参照したという。

翻訳内容の構成、章立

浮世草子『好色五人女』の全訳 (39～229 頁)。

図版、挿絵の有無

表紙デザイン、M. Kuwata。安永4（1775）年石川豊信筆のお七と吉三郎および、貞享3年（1686）版本文の文列を使用。本文挿絵には原著所載、吉田半兵衛筆の画を使用。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

（入口敦志・木下綾子）

■ 雨月物語

■ タイトル

**TALES OF MOONLIGHT AND RAIN :
Japanese Gothic Tales**

翻訳者 Kengi Hamada（濱田健治）

出版社 University of Tokyo Press

刊行年 1971年

頁数 xxix + 150頁

序文・解説の内容と概略

翻訳者による端書きと上田秋成略伝、高田衛による解説がある。解説は、作品の成立と文学史上の位置づけを述べ、各話の内容および、中国志怪小説や国学の影響について論じる。

翻訳に用いた底本情報

中村幸彦他校注『日本古典文学大系 上田秋成集』（岩波書店、1959）に加え、重友毅『雨月物語の研究』（大八洲出版、1946）を用いる。

翻訳内容の構成、章立

明和5年（1768）脱稿、安永5年（1776）刊、剪崎崎人

(上田秋成) 作、桂眉仙画の読本『雨月物語』5巻5冊9話の Kengi Hamada 全訳。全体の構成は、端書き (v)、上田秋成略伝 (ix ~ xx)、高田衛による解説 (xxi ~ xxix)、本文の翻訳 (3 ~ 148 頁)。話の順番は原作とは異なり、以下の通り (括弧内は原作の順番と邦題)。

1. *Homecoming* (3. 浅茅が宿)、2. *Bewitched* (7. 蛇性の姪)、
3. *Exiled* (1. 白峰)、4. *Birdcall* (5. 仏法僧)、
5. *Prophecy* (6. 吉備津の釜)、6. *Reunion* (2. 菊花の約)、
7. *Daydream* (4. 夢応の鯉魚)、8. *Demon* (8. 青頭巾)
9. *Wealth* (9. 貧富論)

図版、挿絵の有無

挿絵は原著より抜粋。表紙カバーは「邪淫の性」による。

参考文献の有無 主要参考文献目録 (149 ~ 150 頁) がある。

索引の有無 無

メモ・その他

「Translations from the Asian Classics」シリーズの一冊。濱田健治は井原西鶴『好色一代男』の翻訳、『The Life of an Amorous Man』も著している。

(入口敦志・木下綾子)

■ タイトル UGETSU MONOGATARI

翻訳者 Leon M. Zolbrod (レオン・M・ゾルブラッド)

出版社 George Allen & Unwin

刊行年 1974 年

1977 年 (Charles. E. Tuttle) より出版。その他、Unesco Collection of Representative Works からも出版されている。

頁数 280 頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者自身による。解説の章立ては以下のとおり。

- 「1、*Meaning of the Title*」(書名の意味)
- 「2、*Biographical Sketch of Ueda Akinari*」(上田秋成の伝記的素描)
- 「3、*Reading Books*」(読本)
- 「4、*The Romance of Travel and the Poetry of Place*」(旅のロマンスと詩的な場所)
- 「5、*Historical Background*」(歴史的背景)
- 「6、*Philosophy and Religion*」(哲学と宗教)
- 「7、*The Art of Fiction*」(虚構の技術)
- 「9、*Literary Style*」(文学的スタイル)
- 「10、*Chinese Influence*」(中国の影響)
- 「11、*Influence of Japanese Classics*」(日本の古典の影響)
- 「12、*Structure*」(構成)
- 「13、*Akinari's Legacy*」(秋成の遺産)
- 「14、*The Present Edition*」(この版について)

翻訳に用いた底本情報

国立国会図書館蔵初版本。安永5年に京都の梅村判兵衛、大坂の野村長兵衛のもとで刊行された。

翻訳内容の構成、章立

『雨月物語』の英訳。章立は以下の通り。

- 巻1 「1、*White peak* (白峰)」 「2、*Chrysanthemum tryst* (菊花の約)」
- 巻2 「3、*The house amid the thickets* (浅茅が宿)」 「4、*The carp that came to my dream* (夢応の鯉魚)」
- 巻3 「5、*Bird of paradise* (仏法僧)」 「6、*The caldron of Kibitsu* (吉備津の釜)」、

巻4 「7、*The lust of the white serpent* (蛇性の姪)」

巻5 「8、*The blue hood* (青頭巾)」 「9、*Wealth and poverty* (貧福論)」 「*Note on the text*」。

図版、挿絵の有無 写真19枚。影印(板本)12枚。

参考文献の有無 有

索引の有無 無

(鈴木淳)

■ タイトル

**Ugetsu Monogatari or tales of moonlight and rain :
a complete English version of the eighteenth-
century Japanese collection of tales of the
supernatural**

翻訳者 Leon M. Zolbrod (レオン・M・ゾルブラッド)

出版社 Routledge

刊行年 2011年(1974年の再版)

頁数 280頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者自身による。解説は書名の意味、作者上田秋成のこと、この本の底本など14項目について書かれている。

翻訳に用いた底本情報

国立国会図書館蔵初版本。安永5年に京都の梅村判兵衛、大坂の野村長兵衛のもとで刊行された。

翻訳内容の構成、章立

『雨月物語』の英訳である。巻1「白峰」から巻9「貧富論」までの本文の訳に続いて、後書きを置いている。

参考文献の有無 有

図版、挿絵の有無 写真と影印

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 春雨物語

■ タイトル TALES OF THE SPRING RAIN

翻訳者 Barry Jackman (バリー・ジャックマン)

出版社

University of Tokyo Press (版權：The Japan Foundation)

刊行年 1975年

序文・解説の内容と概略

序文はなし。Introduction (概説)、The Manuscripts of Harusame Monogatari (春雨物語の写本資料)。

翻訳に用いた底本情報

中村幸彦校訂『日本古典文学大系 上田秋成集』(岩波書店、1959)。

翻訳内容の構成、章立

『春雨物語』の英訳。章立ては以下の通り。

「Akinari's Preface "Jo" (序)」

「The blood-stained robe (血かたびら)」

「The celestial maidens (天津処女)」

「The pirate (海賊)」

「The destiny that spanned two lifetimes (二世の縁)」

「The one-eyed God (目ひとつの神)」

「The smiling death's-head (死首の咲顔)」

「Suteishi Maru (捨石丸)」

「The grave of Miyagi (宮木が塚)」

「The glory of poetry (歌のほまれ)」

「*Hankai* (樊噲)」

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 無

メモ・その他

「The Japan Foundation Translation Series」の一冊。

(鈴木淳)

滑稽本

■ 東海道中膝栗毛

■ タイトル

SHANK'S MARE : A Translation of the TOKAIDO
Volumes of HIZAKURIGE, Japan's Great Comic Novel
of Travel & Ribaldry by IKKU JIPPENSHA

翻訳者 Thomas Satchell (トーマス・サッチェル)

出版社 C. E. Tuttle

刊行年 2001 年。

初版は 1960 年。これはその改訂版。「Note to the New Edition」によれば、予約出版は 1929 年。

頁数 414 頁

序文・解説の内容と概略

出版者による「改版によせて」(7 頁)、翻訳者による端書き(9～11 頁)がある。度量衡の説明(12 頁)、十返舎一九の略歴(13～16 頁)について述べる。

翻訳に用いた底本情報

出口米吉による一星社版の注釈(『東海道中膝栗毛: 全: 評註』1926 年、『東海道中膝栗毛: 頭註』1926 年、『頭註東海道中膝栗毛: 全』1927 年再版のいずれかと思われる)を参照。

翻訳内容の構成、章立

『東海道中膝栗毛』の英訳。享和 2 年(1802)～文化 6 年(1819)刊、十返舎一九作の滑稽本『東海道中膝栗毛』8 編の全訳(17～365 頁)。Book One から Book Eight の 8 編

に分け、付録・発端「道中膝栗毛」(367～385頁)、文化11年(1814)。読者の要請により後から執筆されたものの序文の翻訳。注(387～414頁)、一九辞世の歌(頁数無/415頁)がある。

図版、挿絵の有無

無。表紙は、1875年 Asian Art & Archaeology. Inc. / Corbis『Palanquin』(『東海五十三次細見図会 品川宿』の場面か) by Utagawa Hiroshige III (三世歌川広重)。デザインは Lum Shaw (ラム・ショー)である。挿絵は原著より抜粋。

参考文献の有無 無

索引の有無 無

メモ・その他

「Tuttle Classics」シリーズの1冊。Thomas Satchel氏は『万葉集』と「百人一首」のアンソロジー『These from the Land of Nippon』私家版(1935)の訳出もしている(「Note to the New Edition」)。

(入口敦志・木下綾子)

人形浄瑠璃・歌舞伎

■ 菅原伝授手習鑑

■ タイトル

SUGAWARA

AND THE SECRETS OF CALLIGRAPHY

翻訳者

Stanleigh H. Jones Jr. (スタンレー・H・ジョーンズ・ジュニア)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1985 年

頁数 288 頁

序文・解説の内容と概略 序文は翻訳者自身による。

翻訳に用いた底本情報

横山正校注『日本古典文学全集 浄瑠璃集』(小学館、1971)

翻訳内容の構成、章立

『菅原伝授手習鑑』の英訳。登場人物、浄瑠璃作者、歌舞伎などについて述べる。章立ては以下の通り。

「Prologue」「Act I」「Act II」「Act III」「Act IV」「Act V」

図版、挿絵の有無 上演写真 10 枚を掲載。

参考文献の有無 有

索引の有無 無

(鈴木淳)

■ 仮名手本忠臣蔵

■ タイトル

CHUSHINGURA The Treasury of Loyal Retainers

翻訳者 Donald Keene (ドナルド・キーン)

出版社 C. E. Tuttle (版權：Columbia University Press)

刊行年 1981年。

UNESCO COLLECTION OF REPRESENTATIVE WORKS

Japanese series からも出版されている。

頁数 183頁

序文・解説の内容と概略

Wm. Theodore de Bary (ウィリアム・セオドア・ド・バリ) による前書き、翻訳者自身による序文がある。解説において、赤穂四十七士の敵討と『仮名手本忠臣蔵』以前、原作者 (Authorship)、登場人物と様式 (Characters and Style)、歌舞伎の脚色 (Kabuki Versions of the Play)、上演の評判 (Reputation) について説明する。

翻訳に用いた底本情報

乙葉弘校注『日本古典文学大系 浄瑠璃集 上』(岩波書店、1960) か。

翻訳内容の構成、章立

『仮名手本忠臣蔵』の英訳。章立ては11で、次の通り。「Act One」～「Act Seven」、「Act Eight The Bridal Journey」～「Act Eleven」。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 有

索引の有無 無

伝記・評伝

■ 近松門左衛門

(曾根崎心中・国性爺合戦・山崎与次兵衛寿門松・心中天網島)

■ タイトル

FOUR MAJOR PLAYS OF CHIKAMATSU

翻訳者 Donald Keene (ドナルド・キーン)

出版社 Columbia University Press

刊行年 1998 年

頁数 vi + 220 頁

序文・解説の内容と概略

内題紙、奥付に続いて目次。前書きとして、著者のこの本に対する思いと、近松門左衛門作品の上演方法についての簡単な説明がある。序文では、近松の作家性、功績、生い立ち、代表作、作品の演劇としての主題や人物・見せ場文学作品としての脚本、構成、道徳性、精神性などについて、見出しをつけてそれぞれ紹介している。解説では、近松作品における花街の女性たちについて、近松作品の人形芝居について、章を分けて書く。

翻訳に用いた底本情報

『曾根崎心中』(1703 年版)、『国性爺合戦』(1715 年版)、『山崎与次兵衛寿門松』(1718 年版)、『心中天網島』(1721 年版)。

翻訳内容の構成、章立

近松門左衛門の『曾根崎心中』、『国性爺合戦』、『山崎与次兵衛寿門松』、『心中天網島』の英訳。

図版、挿絵の有無 無

参考文献の有無 参考文献 (216 ~ 220 頁) を付す。

索引の有無 無

(小川千寿香)

■ タイトル

Masterpieces of Chikamatsu : the Japanese Shakespeare

翻訳者

Asataro Miyamori (宮森麻太郎)、Robert Malise Bowyer
Nichols (ロバート・マリス・ボウヤー・ニコル)

出版社 Routledge

刊行年 2011 年 (1926 年の再版)

頁数 359 頁

序文・解説の内容と概略

Robert Malise Bowyer Nichols 改訂。近松の傑作選。

翻訳内容の構成、章立

代表作の翻訳の他に、上演された人形浄瑠璃の記録と、近松の作品における心中・彼の生涯と作品についての解説を載せる。

翻訳に用いた底本情報 無

図版、挿絵の有無 有

参考文献の有無 無

索引の有無 無

(浅川槇子)

■ 良寛

■ タイトル

GREAT FOOL : ZEN MASTER RYOKAN :
Poems, Letters, and Other Writings

翻訳者

Ryuichi Abe (阿部竜一)、Peter Haskel (ピーター・ハスケル)

出版社 University of Hawai'i Press

刊行年 1996年

頁数 xvi+306頁

序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者による。「良寛さん」の「さん」の解説に始まり、研究史や仏教史上の位置付け、略歴、作品の概説等を述べる。

翻訳に用いた底本情報

東郷豊治『良寛全集』（東京創元社、1959）。

翻訳内容の構成、章立

翻訳者による論文3編と（3～87頁）、漢詩・和歌・消息文・仏教経説の翻訳と、それに先立つ凡例・解説、および解良栄重（けらよししげ）『良寛禅師奇話』の翻訳（91～253頁）を収める。漢詩に関してはテーマごとに分類してタイトルを付し、和歌に関しては承歌を省いて、良寛自作のみを取り上げ、翻訳とローマ字表記を併載する。消息文と仏教経説には参考文献による注を付す。また、全体としては、良寛の文人としてのみでなく、仏教指導者としての姿を描き出すべく努めたという。

図版、挿絵の有無

表表紙は良寛筆風文字「天上大風」による。後表紙に解説

と翻訳者の経歴を付す。

参考文献の有無

入矢義高『禅の古典 12 良寛詩集』（講談社、1982）、飯田利行『定本 良寛詩集訳』（名著出版、1989）を参照する。主要参考文献目録（291～294頁）がある。

索引の有無 無

メモ・その他

阿部竜一は刊行当時、コロンビア大学宗教学部准教授。Peter Haskell は同学東アジア言語文化学部博士で、ほかに盤珪禅師の翻訳や佐々木曹溪庵の『壇経』講義録に関する共編著がある。

（入口敦志・木下綾子）

おわりに

科学研究費が採択されて約5ヶ月が経過しました。今年度の成果を報告書としてまとめることになり、私が想起したのは、『日本文学研究ジャーナル』に掲載された「翻訳事典」のことでした。これは、上代から近世までの日本文学を翻訳した本を収録したものです。福田秀一先生が生前に調査なさっていて、伊藤鉄也先生に託された膨大なメモを元にしています。今回は基本的に、過去の編集方針を引き継ぎました。それに新たなデータを追加しています。作品全体を俯瞰してみると、『萬葉集』と『古今和歌集』の翻訳書が目立ちます。過去に出版された本の再版もある一方で、『平家物語』の新訳も登場しました。しかし、中には一般的とは言えない作品もあります。日本人であっても手にしたことがないような作品を、外国語や異文化の壁を越えながら、一字一句丁寧に翻訳することは、作品への深い思いがなければできないということを痛感しました。

多くの作品を収録するために、今まで以上に国会図書館やインターネットを活用しました。しかし調査力が及ばず、遺漏も数多くあるのが現状です。今後は、みなさまからの情報やご意見を頂き、精度の高いデータを提供したいと思っております。日本文学を研究される方の一助となれば幸いです。

最後に、お世話になった多くの方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

(浅川槇子)

思いがけないご縁があって、今回の研究に関わらせていただくことになりました。特に研究者というわけではない私のような者たちにとっても、自国の古典文学といえどごく一般的な教養の一つであり、有名作品についてはその冒頭を諳んじることのできる人も少なくありません。しかし、理解という点では、全文をきちんと読んだことのある人は少ないのが現状ではないでしょうか。

本書の編集を通じ、日本人でさえ名前も知らないような古典文学の数々が、海を越えた国々で訳されていること、多くの困難を乗り越えて発刊に結びついたであろう翻訳者の方々がこれほどいらっしゃることに感動を覚えました。この本に収録されている書誌データを眺めていると、「なぜ、この作品なのか」「この人を突き動かしているのは何なのか」、さまざまな疑問がわいてきます。編集をしながらも、古典を手元に英訳に取り組む翻訳者、書店で表紙に目を留める読者などの姿が目につかびました。

こうして膨大なデータが整然と1冊にまとまることで、新しいアプローチが可能になるのではとも感じています。

今回の翻訳事典1に続き、4まで発刊は続いていきます。翻訳はもちろん、日本の古典文学に携わる人たちの一助となるような情報を提供していきたいと考えています。

(加々良恵子)

人名索引

アルファベット

A

- Abe, Ryuichi (阿部竜一) 279
Ackroyd, Joyce 265
Agoston, Susie 258
Aitken, Robert 121, 257
Akiyama, Aisaburo (秋山愛三郎) 130
Anthony, Stean 52
Aratani, Mariko (荒谷真理子) 128
Arntzen, Sonja 156, 233
Aston, William George 17, 24, 26

B

- Backus, Robert L. 94
Barrow, Terence 24
Beck, L. Adams 139
Bethe, Monica 238, 239, 240, 241, 242, 243
Blunden, Edmund 136
Blyth, Reginald Horace 92
Borgen, Robert 124
Bowring, Richard 160
Brazell, Karen 192, 194, 218, 238
Brewster, Jennifer 168

Britton, Dorothy Guyver 252
Brower, Robert Hopkins 86, 106, 208, 223, 225, 230
Brown, Delmer M. 199

C

Carter, Steven D. 227, 229, 230
Chamberlain, Basil Hall 15, 16, 17, 21, 23, 25, 26
Chappell, Wallace 236
Childs, Margaret Helen 196
Coates, Harper Havelock 246
Corman, Cid 251
Cranston, Edwin A. 157

D

David, Hermine 91
de Bary, Wm. Theodore 217, 266, 276
Dickins, Frederick Victor 58, 214
Dicten, Gerardus 263
Doi, Kochi (土居光知) 159, 162
Dykstra, Yoshiko Kurata (ダイクストラ・好子) 80

E

Eastlake, Frank Warrington 18
Emmert, Richard 238, 239, 240, 241, 242, 243

F

- Fischer, Jakob 260
Fisher Sally 57
Florenz, Karl 24, 29
Fukuda, Hideichi (福田秀一) 211

G

- Galton, A. 27
Geddes, John Van Ward 203, 206

H

- Hakeda, Yoshito S. (羽毛田義人) 123
Hamada, Kengi (濱田健治) 267
Hamill, Sam 121
Harries, H. Jay 61
Harries, Phillip Tudor 221
Harris, Flora Best 146, 147
Hasegawa, T. (長谷川武次郎) 59
Haskel, Peter 279
Haugaard, Erik 243
Haugaard, Masako 243
Hayakawa, Ikutada (早川畿忠) 252
Hearn, Lafcadio 17, 151
Henderson, Harold G. 256
Henitiuk, Valerie 144
Henkenius, Mary Catherine 106
Hirano, Umeyo (平野梅代) 92

- Hirshfield, Jane 128
Hochstedler, Carol 78
Honda, Heihachiro (本多平八郎) 42, 47, 110, 222
Horton, H. Mack 210
Hoshino, Hikoshiro (星野日子四郎) 29

I

- Inoue, Shunji (井上俊治) 19
Ishida, Ichiro (石田一郎) 199
Ishizuka, Ryugaku (石塚龍学) 246
Isobe, Yaichiro (磯邊彌一郎) 17

J

- Jackman, Barry 271
Jenkins, David 120
Jonathan, Chaves 119
Jones Jr., Stanleigh H. 275
Jones, Stanley Wilson 82

K

- Kamaike, Susumu (釜池進) 251
Kamens, Edward 115, 131, 134
Katakura, S. 90
Kato, Genchi (加藤玄智) 29
Kato, Shuichi (加藤周一) 233
Keene, Donald 39, 50, 57, 60, 66, 189, 216, 276, 277
Kimbrough, Randle Keller 131
Kitagawa, Hiroshi (北川弘) 183

Kiyooka, Eiichi (清岡暎一) 262
Kiyosumi, Munehiro (清住宗廣) 22
Kobayashi, Nobuko (小林信子) 138
Kojima, Takashi (小島嶽) 48
Konishi, Jinichi (小西甚一) 119, 225
Kulmus, Johan Adam 263
Kuwata, M. 267

L

LaFleur, William 212
Lammers, Wayne P. 191
Lane, Richard 266
Langdon-Davies, John 47
Lask, Thomas 165
Lennon, John 121
Levy, Ian Hideo (リービ英雄) 44, 49, 51, 53
Lindsay, Sadler Arthur 177, 215
Lowell, Amy 163

M

Markham, Elizabeth J. 35
Matsubara, Naoko (松原直子) 88
Matsumoto, Ryoza (松本良三) 262
McCullough, Helen Craig 64, 101, 103, 111, 180, 184
McCullough, William H. 103, 158, 201, 208
Mckinney, Meredith 192
Miller, Edward Rothesay 59
Mills, Douglas E. 84, 204

- Miner, Earl 44, 106, 225
Mitford, Alogernon Bertram 15
Miyake, Lynne Kimiko 72
Miyamori, Asataro (宮森麻太郎) . 宮森麻太郎 も参照
Moon, Susan 257
Moriguchi, Yasuhiko (森口靖彦) 120
Morrell, Robert Ellis 207
Morris, Ivan 71, 140, 164, 189
Mostow, Joshua S. 65

N

- Naito, Hiroshi (内藤弘) 89
Nakamura, Kyoko Motomochi 27
Nakayama, Kazuyoshi (中山和芳) 262
Nichols, Robert Malise Bowyer 278
The Nippon Gakujutsu Shinkokai (日本學術振興会) 39
Nishino, Masahiko 90

O

- Ogasawara, Koji (小笠原考次) 20
Ogata, Tomio (緒方富雄) 262
Okada, Tetsuzo (岡田哲藏) 38
Omori, Annie Shepley (大森安仁子) 159, 162

P

- Pasteur, Violet M. 26
Pekarik, Andrew 57
Perkins, George W. 201

Philippi, Donald L. 21
Pierson, Jan Lodewijk 40
Plutschow, Herbert 211
Porter, William N. 149

R

Ramirez-Christensen, Esperanza 231
Rau, Santha Rama 165
Reischauer, Edwin O. 95, 100, 133, 175
Reischauer, R. K. 141
Richard, Kenneth Leo 77
Richard, Paul 19
Richardson, Donald M. 33, 113, 114, 116, 117, 118, 220, 226
Rimer, J. Thomas 119, 236
Rinder, Frank 15
Rodd, Laurel Rasplica 106, 111
Rohlich, Thomas H. 76

S

Saflund, Brigitta 244
Saito, H. (齋藤秀三郎) 108
Sansom, George Bailey 217
Satchell, Thomas 273
Sato, Hiroaki (佐藤紘彰) 37, 258
Schongut, Emanuel 165
J. P. Seaton 121
Seidensticker, Edward 65, 152, 154, 156, 157
Shaw, Lum 274

Skord, Virginia 194
Stephen, Addiss 119
Stevens, John 234
Stucki, Curtis W. 165
Suga, Teruo (須賀照雄) 46

T

Tahara, Mildred Machiko 66, 67
Teele, H. Rebecca 125
Teele, Nicholas John 112, 125
Teele, Roy E 125
Toda, Midori 49
Tomita, Masafumi (富田正文) 262
Tyler, Royall 65, 179, 239, 240, 241, 242, 243, 245

U

Uraki, Ziro (浦城次郎) 71
Ury, Marian 84

V

Varley, H. Paul 186, 188
Videen, Susan Dowing 69
Vos, Fritz 62, 63

W

Wakameda, Takeji (若目田武次) 42, 109
Waley, Arthur 91, 95, 136, 140, 143, 154, 157
Washburn, Dennis 143

Watson, Burton 125, 258
Whitehouse, Wilfrid 73, 75
Williams, Harold S. 91
Willig, Rosette F. 97
Wilson, William R. 174
Wilson, William Scott 237, 264
Wixted, John Timothy 107
Wright, Harold 43

Y

Yamagiwa, Joseph K. (ジヨセフ・K・山際) 95, 99, 175
Yamaguchi Aoki, Michiko 31, 32
Yamazaki, Masakazu (山崎正和) 236
Yanagisawa, Eizo (柳沢英蔵) 74, 75
Yasuda, Kenneth 61
Yonemura, Ann (アン・ヨネムラ) 119
Yuasa, Nobuyuki (湯浅信之) 254. 湯浅信之 も参照

Z

Zolbrod, Leon M. 268, 270

かな

あ

赤染衛門 103, 131
秋本吉郎 32
秋山虔 141, 161
芥川龍之介 49

飛鳥井雅経 185
阿仏尼 176
阿部俊子 67, 68
新井白石 265
新谷武四郎 147
有島生馬 151
在原業平 62, 130
安徳天皇 180

い

飯田利行 280
池上洵一 87
池田亀鑑 63, 141, 161
池田利夫 167
井沢長秀 81, 85
石井進 173
石井文夫 169
石川大浪 263
石川忠行 45
石田吉貞 184, 191
伊地知鉄男 232
石橋尚寶 207
石橋和訓 151
石原清志 116
和泉式部 128, 131, 157
市川白弦 233
市古貞次 180, 183, 185, 194, 197
一休 233, 234

伊藤嘉夫 193
井上博道 52
猪熊信男 187
井原西鶴 71, 266, 268
今井源衛 67, 68, 97
今井弘濟 176
今小路覚瑞 169
井本農一 232
入沢達吉 260
入矢義高 233, 280
岩崎小弥太 109
岩佐正 187

う

ウァレリウス, ガイウス 128
ヴィヨン, フランソワ 233
ウエダ, M 201
上田秋成 267, 270
植村直己 150
鵜沢覚 210
歌川広重 180, 274
梅澤清一・梅澤和軒 を参照
梅澤和軒 178
梅村判兵衛 269, 270

え

エリオット, トーマス・スターンズ 120
円地文子 79

遠藤嘉基 28, 69, 154, 158

お

大岡信 50

大島建彦 127, 183

太田善磨 23

大塚龍雄 188

大槻玄沢 263

大津有一 63

大伴黒主 130

大伴坂上郎女 50

大伴旅人 50

大伴家持 43, 50

大野晋 47

太安万侶 20

大森安仁子 . Omori, Annie Shepley (大森安仁子) を参照

大森兵衛 164

岡一男 202

岡倉由三郎 139

小笠原考次 . Ogasawara, Koji (小笠原考次) を参照

尾形光琳 27

岡見正雄 181, 197

荻原井泉水 255

奥平英雄 196

奥村恒哉 107

他田広津娘子 50

小沢正夫 75, 107, 127

乙葉弘 276

小野小町 126, 128, 130

沢瀉久孝 45

か

柿本人麻呂 46, 48, 50

景山春樹 245

笠井昌昭 194

梶原正昭 173, 180

風早久右衛門 258

葛飾北斎 27, 83

桂眉仙 268

加藤義成 31

カトウルス・ウアレリウス, ガイウス を参照

門部王 50

金子武雄 79

金子元臣 137, 141, 144

川上多助 102

川口久雄 84, 121, 154

川島つゆ 255

川端康成 60, 153

河村殷根 25

河村秀根 25

河村益根 25

観阿弥 238

観世左近 238

き

キーン, ドナルド・Keene, Donald を参照

菊地靖彦 111
菊屋喜兵衛 217
岸上楨二 141
岸谷誠一 176
喜撰法師 130
北島親房 187
喜多義勇 152
紀女郎 50
木下正俊 53
木藤才藏 187, 232
木村毅 139
久曾神昇 193

<

久保田淳 222
窪田空穂 107, 129
久米朝臣広繩 50
倉田百三 94
倉野憲司 23
栗田寛 33
黒板勝美 182, 199
黒川真道 177
桑原博史 192
桑山浩然 189

け

解良栄重 279
健寿御前 158

建礼門院右京大夫 221

乙

小泉弘 135

小久保崇明 73

児島高德 185

小島憲之 53, 111

後白河法皇（後白河天皇、後白河院） 121, 216

後藤藏四郎 33

小林一茶 255, 256

小林参三郎 139

小松登美 79

五味智英 47

小峯和明 87, 131

小室由三 176

五来重 197

今野達 87

さ

西行 192, 220

斎藤茂吉 261

佐伯梅友 111, 112

佐伯常麿 176

坂井衡一 82

阪倉篤義 78, 79

坂本信幸 52

佐々木曹溪庵 280

佐佐木信綱 212

佐竹昭広 53, 197
サッフオー 128
サトウ, アーネスト 17
佐藤球 202
佐藤通次 20
佐成謙太郎 127, 202
狭野弟上娘子 50
佐野保太郎 176, 218
三条西実隆 103

し

慈円 200
重友毅 267
重松裕巳 210
十返舎一九 273
柴田隆 177
渋川玄耳 17
島津久基 58, 181
島田勇雄 174
島文次郎 92
清水泰 92
清水好子 69
肖柏 258
聖武天皇 50

す

菅原孝標 165
菅原孝標女 76, 167

杉田玄白 262
鈴木一雄 80
鈴木敏也 177
鈴木知太郎 62, 111, 154
鈴木弘通 79, 97

せ

世阿弥 236, 238
清少納言 131, 137
関根慶子 79
仙厓義梵 258
剪崎崎人・上田秋成 を参照
選子内親王 115, 116

そ

宗祇 258
宗長 258
相馬御風 260
曾沢太吉 161
園臣生羽娘子 50

た

大納言典侍・藤原輔子 を参照
平重衡 180
高岡一弥 51
高木市之助 47, 182
高田衛 268
高木卓 182

高野辰之 180
高橋伸幸 135
高橋貢 207
高柳光寿 264
武田祐吉 67, 68
竹岡正夫 127
橘純一 101
田中大秀 61
田中重太郎 142
田中裕 237
田辺爵 217
ダニエルズ 204
谷崎潤一郎 68, 69, 153
種田山頭火 192
玉井幸助 165, 219
田島一夫 195
田村きよの 45
ダン, ジョン 233

ち

近松門左衛門 71, 277
チャイルズ, M 192

つ

塚本哲三 182, 202, 203
次田香澄 219
次田真幸 22
津島知明 137

津田青楓 261
津村紀三子 126

て

ディッキンソン, エミリー 128
出口米吉 273
寺本直彦 91, 96

と

土肥経平 103
陶淵明 233
時枝誠記 187
時下米太郎 207
徳田和夫 131, 194, 197
富倉二郎 218
富倉徳次郎 219
頓阿 227

な

内藤貞顕 176
中川淳庵 262
中島悦次 199
永積安明 173, 174, 184, 206
中西進 44, 51, 53
中野幸一 161
長野嘗一 204, 219
中野博雄 252
中村秋香 74, 75

中村幸彦 267, 271

名和修 245

南波浩 68

に

西尾光一 205

西尾實 217, 224, 236

西川祐信 217

西下経一 107, 154, 166

二条良基 245

西脇順三郎 120

ぬ

額田王 50

の

能因法師 185, 193

野口竹次郎 177

能勢朝次 236, 238

野間光辰 196

野村純一 195

野村長兵衛 269, 270

は

バーリントン, イー 140

灰谷寛司 53

芳賀矢一 82, 86

萩谷朴 69, 146, 161, 191

萩野由之 194
橋本佳 79
橋本ゆり 116
林陸朗 173
原順子 167
ハリス, M・C 147

ひ

久松潜一 93, 222, 224, 236
菱屋清兵衛 195
常陸娘子 50
平井武雄 151
平野宗浄 233
平田俊春 99

ふ

深沢七郎 68
福井貞助 63
福沢諭吉 262
藤井隆 127
藤原定子 138
藤岡作太郎 179
藤木邦彦 189
藤田徳太郎 92
藤原顕綱 169
藤原兼家 155
藤原茂樹 52
藤原伊行 221

藤原定家 65, 191, 224, 225
藤原隆信 247
藤原為氏 65
藤原俊成 158
藤原秀郷 220
藤原広嗣 50
藤原輔子 180
藤原道長 99
船井政太郎 217
文屋康秀 130

へ

遍昭（僧正遍昭） 130

ほ

北条時政 226
保坂弘司 101
堀河天皇（堀河院） 169
堀桂琴 47
堀部正二 92
本位田重美 222

ま

マイナー, ブラワー 94
前野良沢 262
正岡子規 256
正宗敦夫 177
増淵恒吉 79

松井博信 177
松尾聡 77, 91, 96, 218
松尾芭蕉 120, 192, 251, 253, 256, 257
マッカラ (マカロー、マケロー、マッカロ) . McCullough, William
 H. を参照
松村博司 99, 103, 104
松本隆信 127, 194, 197
マティソフ, S 201
丸山二郎 199

み

三浦理 177, 182
三木五百枝 177
水川喜夫 212
水野満年 20
水野駒雄 67, 68
三谷幸子 169
南方熊楠 214
源実朝 226
源隆国 82
源為憲 134
源頼家 226
源頼朝 226
源義経 179
宮田雅之 50, 61
宮田和一郎 166
宮本武蔵 264
宮森麻太郎 252

む

紫式部 131, 160

村中末吉 148

め

目加田さくを 69

も

本居豊穎 203

本居宣長 20, 165

俊基 185

物集高量 100, 185

森重敏 161

森正人 87

や

矢代和夫 173

安田鞞彦 261

柳田聖山 233

山岸徳平 69, 218

山崎正和 . Yamazaki, Masakazu (山崎正和) を参照

山下宏明 180

山田孝雄 135, 188

山中裕 104

山上憶良 48, 50

山部宿禰赤人 50

ゆ

湯浅信之 253

夕霧（大神基政の娘） 221

よ

横山重 127, 194, 197

横山正 275

与謝蕪村 255, 256, 258

笹川種郎（笹川臨郎） 266

吉沢義則 93

吉田兼好 217

吉田幸一 158

吉田半兵衛 266

吉野正美 52

吉村重徳 174

ヨネムラ, アン . Yonemura, Ann を参照

り

李商隠 137

良寛 260, 279

る

ルーシュ, B 197

れ

冷泉為恭 159

わ

鷺尾順敬 185

渡邊綱也 205, 208

和田英松 121, 202

翻訳者一覧

Ryuichi Abe (阿部竜一)	279
Joyce Ackroyd (ジョイス・アクロイド)	265
Stephen Addiss (ステイーブン・アディス)	119
Aisaburo Akiyama (秋山愛三郎)	130
Stean Anthony (スターン・アンソニー)	52
Mariko Aratani (荒谷真理子)	128
Sonja Arntzen (ソニア・アルンツェン)	156,233
William George Aston (ウィリアム・ジョージ・アストン)	24
Robert L. Backus (ロバート・L・バックラス)	94
Monica Bethe (モニカ・ベス)	238,239,240,241,242,243
Robert Borgen (ロバート・ボーゲン)	124
Richard Bowring (リチャード・バウリング)	160
Karen Brazell (カレン・ブラゼル)	218,238
Jennifer Brewster (ジェニファー・ブルースター)	168
Dorothy Guyver Britton (ドロシー・ガイバー・ブリトン)	252
Robert Hopkins Brower (ロバート・ホプキンス・ブラワー)	86,223,225,230
Delmer M. Brown (デルマー・M・ブラウン)	199
Steven D. Carter (ステイーブン・D・カーター)	227,228
Basil Hall Chamberlain (バジル・ホール・チェンバレン)	16,23

Jonathan Chaves (ジョナサン・チャベス)	119
Margaret Helen Childs (マーガレット・ヘレン・チャイルズ)	196
Harper Havelock Coates (ハーパー・ハブロック・コート)	246
Cid Corman (シッド・コールマン)	251
Edwin A. Cranston (エドウィン・A・克蘭ストン)	157
William Theodore de Bary(ウィリアム・セオドア・ド・バリ)	266
Charles de Wolf (チャールズ・デ・ウルフ)	87
F. Victor Dickins (F・ヴィクター・ディケンズ)	58,214
Kochi Doi (土居光知)	162
Yoshiko Kurata Dykstra (ダイクストラ・好子)	80
Richard Emmert (リチャード・エメット)	238,239,240,241,242,243
Jakob Fischer (ジェイコブ・フィッシャー)	260
Sally Fisher (サリー・フィッシャー)	57
Hideichi Fukuda (福田秀一)	211
John Van Ward Geddes (ジョン・ヴァン・ワード・ゲッデス)	203,206
Yoshito S. Hakeda (羽毛田義人)	123
Kengi Hamada (濱田健治)	267
原順子	167
H. Jay Harries (H・ジェイ・ハリーズ)	61
Phillip Tudor Harries (フィリップ・ハリーズ)	221
Flora Best Harris (フローラ・ベスト・ハリス)	146,147
Peter Haskel (ピーター・ハスケル)	279
Erik Haugaard (エリック・ホガード)	243

Masako Haugaard (マサコ・ホガード)	243
Harold G. Henderson (ハロルド・G・ヘンダーソン)	256
Valerie Henitiuk (ヴァレリー・ヘンニチュック)	144
Mary Catherine Henkenius (メリー・キャサリン・ヘンキニアス)	106
Umeyo Hirano (平野梅代)	92
Jane Hirshfield (ジェーン・ハーシュフィールド)	128
Carol Hochstedler (キャロル・ホクステッドラー)	78
Heihachirô Honda (本多平八郎)	42,110,222
H. Mack Horton (H・マック・ホートン)	210
Hikoshiro Hoshino (星野日子四郎)	28
Shunji Inoue (井上俊治)	19
Ichiro Ishida (石田一郎)	199
Ryugaku Ishizuka (石塚龍学)	246
Yaichiro Isobe (磯邊彌一郎)	17
Barry Jackman (バリー・ジャックマン)	271
David Jenkins (デビット・ジェンキンス)	120
Stanleigh H. Jones Jr. (スタンレー・H・ジョーンズ・ジュニア)	275
Stanley Wilson Jones (スタンレー・ウィルソン・ジョーンズ)	82
Susumu Kamaike (釜池進)	251
Edward Kamens (エドワード・ケイメンズ)	115,134
Genchi Kato (加藤玄智)	28
Shuichi Kato (加藤周一)	233
Donald Keene (ドナルド・キーン)	57,60,216,276,277
Randle Keller Kimbrough (ランドル・ケラー・キンブロー)	131

Hiroshi Kitagawa (北川弘)	183
Eiichi Kiyooka (清岡暎一)	262
Munehiro Kiyosumi (清住宗廣)	22
Nobuko Kobayashi (小林信子)	138
Takashi Kojima (小島嶽)	48
Jinichi Konishi (小西甚一)	119
Wayne P. Lammers (ウェイン・P・ラマーズ)	191
Richard Lane (リチャード・レーン)	266
Ian Hideo Levy (リービ・英雄)	44,49,51
Arthur Lindsay Sadler (アーサー・リンゼイ・サドラー)	177,215
Elizabeth J. Markham (エリザベス・J・マーカム)	35
Ryozo Matsumoto (松本良三)	262
Helen Craig McCullough (ヘレン・クレイグ・マッカラ)	64,101,103,111,180,184
William H. McCullough (ウィリアム・H・マッカラ)	103
Meredith McKinney (メレディス・マッキンリー)	192
E. Rothesay Miller (エドワード・ローゼイ・ミラー)	59
D. E. Mills (D・E・ミルズ)	204
Earl Miner (アール・マイナー)	225
Lynne Kimiko Miyake (リンネ・キミコ・ミヤケ)	72
Asataro Miyamori (宮森麻太郎)	278
Yasuhiko Moriguchi (森口靖彦)	120
Robert Ellis Morrell (ロバート・エリス・マレル)	207
Ivan Morris (アイヴァン・モリス)	140,164
Joshua S. Mostow (ジョシュワ・S・モストウ)	65

Hiroshi Naito (内藤弘)	89
Kyoko Motomochi Nakamura (キョウコ・モトマチ・ナカムラ)	27
Kazuyoshi Nakayama (中山和芳)	262
Robert Malise Bowyer Nichols (ロバート・マリス・ボウヤー・ニコル)	278
The Nippon Gakujutsu Shinkokai (日本学術振興会)	39
Tomio Ogata (緒方富雄)	262
Tetsuzo Okada (岡田哲藏)	38
Annie Shepley Omori (大森安仁子)	162
Violet M. Pasteur (ヴァイオレット・M・パスツール)	26
George W. Perkins (ジョージ・W・パーキンス)	201
Donald L. Philippi (ドナルド・L・フィリップパイ)	21
J. L. Pierson (J・L・ピアソン)	40
Herbert Plutschow (ヘルベルト・プルチョウ)	211
William N. Porter (ウィリアム・N・ポーター)	149
Esperanza Ramirez-Christensen (エスペランサ・ラミレス・クリステンセン)	231
Edwin O. Reischauer (エドウィン・O・ライシャワー)	133,175
Donald M. Richardson (ドナルド・M・リチャードソン)	33,113,114,116,117,118,220,226
J. Thomas Rimer (J・トーマス・ライマー)	119,236
Frank Rinder (フランク・リンダー)	15
Laurel Rasplica Rodd (ローレル・ラスプリカ・ロッド)	106
Thomas H. Rohlich (トーマス・H・ローリック)	76
Kenneth Leo Rohlich (ケネス・レオ・リチャード)	77
H. Saito (斎藤秀三郎)	108

Thomas Satchell (トーマス・サッチェル)	273
Hiroaki Sato (佐藤紘彰)	257
Edward Seidensticker (エドワード・サイデンステッカー)	152,154
Virginia Skord (ヴァージニア・スコード)	194
John Stevens (ジョン・ステイブンス)	234
Giuliana Stramigioli (ジュリアナ・ストラミジオリ)	173
Teruo Suga (須賀照雄)	46
Mildred Machiko Tahara (ミルドレッド・マチコ・タハラ)	66,67
H. Rebecca Teele (H・レベッカ・ティール)	125
Nicholas John Teele (ニコルズ・ジョン・ティール)	112,125
Roy E. Teele (ロイ・E・ティール)	125
Masafumi Tomita (富田正文)	262
Royall Tyler (ロイヤル・タイラー)	65,179,239,240,241,242,243,245
Ziro Uraki (浦城次郎)	71
Marian Ury (マリアン・ユリー)	84
H. Paul Varley (H・ポール・バレー)	186,188
Susan Dowing Videen (スーザン・ドウイング・バイディーン)	69
Frits Vos (フリッツ・ボス)	63
Takeji Wakameda (若目田武次)	109
Arthur Waley (アーサー・ウェーリー)	91,136,143
Burton Watson (バートン・ワトソン)	257
Wilfrid Whitehouse (ウィルフリッド・ホワイトハウス)	73,75

Rosette F. Willig (ロゼット・F・ウィリッグ)	97
William Scott Wilson (ウィリアム・スコット・ウィルソン)	237,264
William R. Wilson (ウィリアム・R・ウイルソン)	174
Harold Wright (ハロルド・ライト)	43
Josceph. K. Yamagiwa (ジョーセフ・K・ヤマギワ (山際))	99,175
Michiko Yamaguchi Aoki (ミチコ・ヤマグチ・アオキ)	31,32
Yamazaki Masakazu (山崎正和)	236
Eizo Yanagisawa (柳沢英蔵)	75
Ann Yonemura (アン・ヨネムラ)	119
Nobuyuki Yuasa (湯浅信之)	253,254
Leon M. Zolbrod (レオン・M・ゾルブラッド)	268,270

以上敬称略

—事典項目執筆・編集者一覧—

浅川 槿子	木下 綾子
新井 通郎	七田 麻美子
荒木 浩	菅原 郁子
伊井 春樹	鈴木 淳
岩原 真代	バルトシュムル・タジンスキ
伊藤 鉄也	唐 曉可
入口 敦志	サトコ ナイトウ
大内 英範	河 晶淑
大津 直子	白本 清香
大野 祐子	服部 訓和
小川 千寿香	福田 秀一
可児 洋介	毛利 誠
狩集 広之	森田 幸
神田 久義	山田 紘一郎

(敬称略・五十音)

研究組織

研究代表者

伊藤 鉄也 (国文学研究資料館・教授)

研究分担者

海野 圭介 (国文学研究資料館・准教授)

野本 忠司 (国文学研究資料館・准教授)

連携研究者

マイケル, ワトソン (明治学院大学・教授)

清水 婦久子 (帝塚山大学・教授)

荒木 浩 (国際日本文化研究センター・教授)

ラリー, ウォーカー (京都府立大学・准教授)

藤井 由紀子 (清泉女子大学・講師)

高田 智和 (国立国語研究所・准教授)

研究協力者

高木 香世子 (マドリード・アウトノマ大学・教授)

緑川 真知子 (早稲田大学・講師)

須藤 圭 (立命館大学・助教)

川内 有子 (立命館大学・研究生)

テレサ, マルティネス (元大阪大学大学院文学研究科・研究生)

庄媿 淳 (立命館大学・大学院生)

阿部 江美子 (国文学研究資料館・研究員)

浅川 槇子 (国文学研究資料館・研究員)

加々良 恵子 (国文学研究資料館・補佐員)

科学研究費補助金 基盤研究 (A) 2013 年度研究報告書
「海外における源氏物語を中心とした平安文学及び各国語翻訳に関する総合的調査研究」
課題番号 [25244012] 研究代表者 伊藤 鉄也

日本古典文学翻訳事典 1 〈英語改訂編〉

Japanese Classical Literature
- A Translation Encyclopedia

2014 年 3 月 31 日 発行
〈非売品〉

発行所 人間文化研究機構 国文学研究資料館
〒 190-0014 東京都立川市緑町 10-3
電話 050-5533-2900
<http://www.nijl.ac.jp/>

編集兼発行者 国文学研究資料館 伊藤鉄也
<http://genjiito.org/>

装丁 株式会社 d P A R K

印刷 三鈴印刷株式会社

© 伊藤鉄也

本書を無断で複写・複製・転載することは
法律で認められた場合を除き禁じられています。



日本古典文学翻訳事典 **1**

〈英語改訂編〉